末日聖徒イエス・キリスト教会・2002年5月号

リアホナ

末日聖徒イエス・キリスト教会・2002年5月号

リアホナ

表紙

表紙―フォトイラストレーション／ウェルデン・C・アンダーセン

裏表紙―フォトイラストレーション／スティーブ・バンダーソン，ウェルデン・C・アンダーセン。

「ニーファイ人に教えを説くベニヤミン王」ゲーリー・L・カップ画

「フレンド」表紙

フォトイラストレーション／ジョン・ルーク

一般

2 **大管長会メッセージ――真理の柱**
大管長　ゴードン・B・ヒンクレー

10 **仕えることを学ぶ**　十二使徒定員会　L・トム・ペリー

25 **家庭訪問メッセージ―― 徳高い女性として生きる**

32 **末日聖徒の声――「神の王国はここにあります」**
わたしへのすばらしい贈り物　ステファニア・ポスティグリオン
聞くことを拒んでいたわたし　イザベル・ベリオス
一粒の種から　レックス・ユージン・クーパー
わたしの友達「ミルクセーキ」　ロバート・リー・「ロッキー」・クロックレル

40 **グアテマラ――未来に向かって築き上げる**　ドン・L・サール

48 **『リアホナ』2002年5月号の活用法**

青少年

9 **祝福を獲得する**　七十人　アンヘル・アブレア

20 **雄々しく立つデンマークの聖徒**　ローリー・リブシー

26 **人生行路**　ラベナル・P・ソロモン

28 **試練のときに**　七十人　ジョン・B・ディクソン

38 **リアホナ・クラシック―― 永遠の友**　マービン・J・アシュトン

47 **御存じでしたか？**

フレンド

2 **預言者と使徒たちの言葉――ボートから降りない**
十二使徒定員会会員　ラッセル・M・ネルソン長老

4 **分かち合いの時間――「あなたがたはかみのみやである」**
ビッキー・F・マツモリ

6 **もう1回だけ**　テレサ・ウィーバー

9 **新約聖書ものがたり――よいサマリヤ人／へんぼうの山**

14 **小さなお友だちへ――**
ロバート・J・ホエットン長老

16 **おもちゃばこ――せいくさいころ**
スコット・サドバリー

2ページ参照

10ページ参照

リアホナ　2002年5月号
第4巻第4号（22985 300）

本誌は，末日聖徒イエス・キリスト教会の国際機関誌で，以下の言語で出版されています。
アイスランド語，アルバニア語，アルメニア語，イタリア語，イロカノ語，インドネシア語，ウクライナ語，英語，オランダ語，韓国語，ギルバート語，サモア語，スウェーデン語，スペイン語，スロベニア語，セブアノ語，タイ語，タガログ語，チェコ語，中国語，デンマーク語，ドイツ語，トンガ語，日本語，ノルウェー語，ハンガリー語，ヒリガイノン語，フィージー語，フィンランド語，フランス語，ブルガリア語，ベトナム語，ポーランド語，ポルトガル語，マーシャル語，マダガスカル語，ルーマニア語，ロシア語。（五十音順――発行頻度は言語により異なります。）

大管長会：ゴードン・B・ヒンクレー，トーマス・S・モンソン，ジェームズ・E・ファウスト
十二使徒定員会：ボイド・K・パッカー，L・トム・ペリー，デビッド・B・ヘイト，ニール・A・マックスウェル，ラッセル・M・ネルソン，ダリン・H・オークス，M・ラッセル・バラード，ジョセフ・B・ワースリン，リチャード・G・スコット，ロバート・D・ヘイルズ，ジェフリー・R・ホランド，ヘンリー・B・アイリング
編集長：デニス・B・ノイエンシュバンダー
顧問：J・ケント・ジョリー，W・ロルフ・カー，スティーブン・A・ウェスト
教科課程管理部責任者
実務部長：ロナルド・L・ナイトン
企画・編集ディレクター：ブライアン・K・ケリー
グラフィックスディレクター：アラン・R・ロイボーグ
国際機関誌スタッフ
編集主幹：マービン・K・ガードナー
編集主幹補佐：ジェニファー・L・グリーンウッド
編集副主幹：ロジャー・テリー
編集補助：スーザン・バレット
出版補佐：コレット・ネベカー・オウン
デザインスタッフ
機関誌グラフィックスマネージャー：M・M・カワサキ
アートディレクター：スコット・バン・カンペン
デザイナー主任：シェリー・クック
デザイナー：トーマス・S・チャイルド
制作主幹：ジェーン・アン・ピーターズ
制作：レジナルド・J・クリステンセン，デニーズ・カービー，ケリー・ブラット，ローランド・F・スピークス，カリ・A・トッド，クラウディア・E・ワーナー
デジタルプリプレス：ジェフ・マーティン
予約購読スタッフ
ディレクター：ケイ・W・ブリッグズ
配送部長：クリス・クリステンセン
マーケティング部長：ジョイス・ハンセン

●定期購読は，『リアホナ』予約申し込み用紙」でお申し込みになるか，または現金書留か郵便振替（口座名／末日聖徒イエス・キリスト教会　振替口座番号／00100-6-41512）にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ，直接郵送いたします。●『リアホナ』のお申し込み・配送についてのお問い合わせ…〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6／末日聖徒イエス・キリスト教会　管理本部配送センター☎03-5668-3391

発行所　末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30
電話　03-3440-2351
印刷所　株式会社 明文社
定価　年間予約／海外予約2,400円（送料共）
半年予約1,200円（送料共）
普通号／大会号200円

英語版承認―1996年8月　翻訳承認―1996年8月
原題―International Magazines May. 2002. Japanese. 22985 300

For Readers in the United States and Canada:
May 2002 no. 5. *LIAHONA* (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1344-8595) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is $10.00 per year; Canada, $15.50 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address *must* be included. Send USA and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone.

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

読者からの便り

家族に福音を伝える

『リアホナ』（スペイン語版）2001年2月号に掲載された「父に伝えた福音」に感動しました。この記事を読んでいると，目頭が熱くなりました。恐らくこんなに感傷的になったのは，筆者の父親がバプテスマを受けたので，もし自分の両親も天の御父がわたしたちに準備してくださったものを受け入れて，バプテスマを受けたらどうなるだろうと考えたからです。妻とわたしは家族が真理の道を見いだしてくれるように祈っています。

スペイン・バレンシア地方部，
バレンシア第1支部
フアン・カルロス・ニャウパリ・アグイルレ

深まる証

バプテスマを受けたとき，わたしもほかの教会員のような強い証を持ちたいと思いました。断食して祈り，やっと小さな証を得ましたが，それでもまだ少し暗い心持ちでした。『リアホナ』（スペイン語版）2001年1月号に掲載されたジェームズ・E・ファウスト第二副管長の「深まる証」を読んだのはそのようなときでした。ファウスト副管長は，わたしたちの証は深まり続けると言いました。そしてそれが真実であることを知っています。わたしの証は日に日に強まっています。自分が末日聖徒であることと，証が深まっていくことに感謝し，うれしく思います。

コスタリカ・サンホセ・トヨパンステーク，
コロナド支部
ヒルベルト・コルデロ・カストロ

読んで楽しい『リアホナ』

わたしは生まれつき失読症です。でも『リアホナ』はわたしの目にも楽しく読めて，一度に読める時間も長くなったことをお知らせしたいのです。今日も『リアホナ』（スウェーデン語版）を読んでいたとき，ずっと抱えていた多くの疑問に対する答えを受けました。

スウェーデン・ストックホルムステーク，
エレブルー支部
エリック・マットソン

預言者の勧告

2001年4月号の『リアホナ』（スペイン語版）を受け取って感激しました。ゴードン・B・ヒンクレー大管長の「若人への預言者の勧告と祈り」の記事に感謝しています。何人かの友人が耳とまゆにたくさんのピアスを付けています。「わたしも付けていいですか」と支部長に尋ねると，彼はコリント人への第一の手紙第3章16節から17節とヒンクレー大管長の記事を見せて答えてくれました。

指導者はわたしたちをとても愛しています。機関誌に掲載された彼らの言葉は，青少年にとって大きな助けです。天の御父が，わたしたちが欺かれないように，これらの人々を送ってくださったことを知っています。

コロンビア・モンテリーア地方部，
ロリカ支部
ベニー・ヘスス・ドリア・マルチネス

その心の映像が
行動を起こさせました。
その末日聖徒の若者に
清澄な心と勇気をもたらした
幼い弟の祈り，
そして家族の祈りは，
神が生きておられ，
天の扉が開かれていることを
彼に思い起こさせました。

真理の柱

大管長　ゴードン・B・ヒンクレー

時折学生時代に学んだ事柄を思い返してみることは非常に興味深いことです。当時学んだ多くの非常に有益な事柄は，その後，長年にわたってわたしの助けになりました。わたしの生涯に祝福を招いてきた習慣や規律やその他多くの事柄は，そうした経験から得たものです。

しかし，学生時代に学んだ事柄を再評価するよう強いられることも時々ありました。当時確実なこととされていた事柄の中で，後にほとんど虚構とされたものもあります。医学や物理学，化学において基準が変更されたものもあります。政治学や法律において取り組み方が変わっているものもあります。文学や芸術でも標準が移り変わっています。教育の分野でも，すべての部分で変化や修正がありました。ただし，神の永遠の真理だけは例外です。

わたしたちが今年学んでいる聖典，旧約聖書と呼ばれているものに記されている偉大な預言者の一人が，何世紀も前に次のように勧告しています。この言葉はわたしがこれまで述べてきた状況を実に的確に表しています。「草は枯れ，花はしぼむ。しかし，われわれの神の言葉はとこしえに変ることはない。」(イザヤ40：8)

このようなことから，わたしは永遠の真理の柱について考えるようになりました。わたしたちが真理の柱に留意し，自分の生活をその標準に従わせるならば，永遠の柱は生涯にわたってわたしたちを支え，維持するものとなります。これらを手短に採り上げてみましょう。その一つ一つが話のテーマになるものです。

神は生きておられ，天の扉は開かれています。わたしがこれまでに読んだすべての偉大で，すばらしい，霊を鼓舞する約束の中でわたしに最も大きな確信を与えたのが，次の救い主の言葉です。「求めよ，そうすれば，与えられるであろう。捜せ，そうすれば，見いだすであろう。門をたたけ，そうすれば，あけてもらえるであろう。」(マタイ7：7)

わたしは従軍中のある末日聖徒の若者の話を思い出します。兵舎内でただ一人の末日聖徒であった彼は，やがて，仲間にからかわれることに対して嫌けがさしてきました。その日はことのほか，外出の誘いがしつこく，ついに皆と一緒に町に行くことに同意しました。ところが，町に入ったところで，彼の心に一つの場面が浮かんできました。自宅の台所が見えたのです。夕食時でした。台所のいすのそばにひざまずいている家族がいました。父親と母親，二人の妹，それに小さい弟でした。幼い弟が祈っており，軍隊に入っている兄を見守ってくださるよう天の御父に願っていました。

その心の映像が行動を起こさせました。その若者は仲間と別れました。幼い弟の祈り，そして家族の祈りがその末日聖徒の若者に清澄な心と勇気をもたらしたのです。

兄弟姉妹，生涯を過ごすに当たって，決して祈りを忘れないようにしましょう。神は生きておられます。近くにおられます。神は実在の御方です。わたしたちの御父です。神はわたしたちに近づいてくださいます。神は永遠の真理の創始者であり，宇宙の主です。取っ手は準備されており，扉を開ければ神の豊かな祝福が待ち受けています。「あなたがたのうち，知恵に不足している者があれば，……神に，願い求めるがよい。」(ヤコブの手紙1：5)

左――「山上の垂訓」カール・ヘンリック・ブロック画。デンマーク、ヒレレズのフレズレクスボー城内にある国立歴史美術館の厚意により掲載。左の挿入――絵／ラリー・ウィンボルグ画。右――ヒンクレー大管長の写真／ジェド・A・クラーク

家族は神聖です。
家族は天の御父によって
定められました。
家族はすべての関係の中で
最も神聖なものです。
その組織を通してのみ
主の目的は達成できるのです。

人生は永遠です。わたしは若い宣教師として奉仕していたおよそ70年前の7月のある夜，イギリスのウィンダーミア湖を眺めていました。そこはワーズワースゆかりの地です。その静かな麗しい地で湖から空に目を転じたとき，かつてその地で書き留められた言葉がわたしの心に去来しました。

「*われらの誕生はただ眠りと前生の忘却とに過ぎず。*
われらとともに昇りし魂，生命の星は，
かつて何処にか沈みて，
遥かより来れり。
過ぎ去りし昔を忘れしにはあらず，
また赤裸にて来りしにもあらず，
栄光の雲を曳きつつ，
われらの故郷なる神のもとより来りぬ。」
（ウィリアム・ワーズワース，田部重治訳「幼年時代を追想して不死を知る頌」『ワーズワース詩集』岩波文庫，167，ルビ付加）

わたしたちは無秩序な宇宙における偶然の創造物ではありません。わたしたちは生まれる前に生きていました。わたしたちは神の息子，娘です。かつて喜び呼ばわりました（ヨブ38：7参照）。わたしたちは御父を知っており，御父はわたしたちの将来のために計画を定めてくださいました。わたしたちはその生活を終えて，現世での生活を始めました。この声明は簡潔で，その意味は深遠です。人生には一つの使命があります。それは偶然に火がともされた後，一陣の風によって永遠に吹き消されてしまうまでの間ぱちぱち燃えているろうそくのようなものではありません。

もう一度，創世記，モーセ書，アブラハム書のあのすばらしい記録を読んで，わたしたちが死すべき生涯の試しを受けるために地球に来る前にあった偉大な秩序と計画について深く考えてみてください。

わたしたちにはこの世にいる間に学ぶべき事柄，なすべき業，行うべき務めがあります。わたしたちはすばらしい受け継ぎ，神聖な賜物を頂いてこの世にいます。自分たちの行動のすべてが自分の永遠の行く末を決めるということを，すべての人が認識していたら，この世界はどれほど違っていたでしょう。知識の集積，人との関係，仕事上の事柄，交際と結婚，家族の養育において，日々永遠を作り上げる要素を形成していることを認識すれば，わたしたちの生涯はどれほど満たされたものとなるでしょうか。兄弟姉妹，人生は永遠です。永遠に生き続けるつもりであるかのように毎日を生きてください。それは確かなことだからです。

神の王国はここにあります。わたしたちは地上における最も偉大な王国，すなわち人の知恵によって指導されているのではなく主イエス・キリストによって導かれている王国の住民です。この王国は実在します。その行く末は明らかです。これは預言者ダニエルが語った王国です。すなわち，あたかも人手によらないで山から切り出され，転がり進んで，全地に満ちる石なのです（ダニエル2：34－35参照）。

フォトイラストレーション：ジェド・A・クラーク

この王国を造ったのは死すべき人間ではありません。この王国はその神聖な源からの啓示によって造られました。そして19世紀における設立以来，この王国は，転がってその大きさを増している雪の玉のように発展してきました。

わたしはカートランド神殿の奉献の祈りにある預言者の言葉が大好きです。預言者ジョセフ・スミス（1805－1844年）はこの奉献の祈りを主にささげ，こう祈りました。「あなたの教会が暗黒の荒れ野から出て来て，月のように美しく，太陽のように輝き，旗を立てた軍勢のように恐ろしいものとなり，……あなたの栄光が地に満ちますように。」（教義と聖約109：73－74）

この偉大な王国における神権を有している兄弟たち，わたしは教会の定員会以上に仲間の交わりと良い友人を見いだせる場所をほかに知りません。定員会以上に良い交流の組織が一体どこにあるでしょうか。その会員の一人一人が主の名によって行動するよう聖任されており，互いに助け合うために献身しており，彼らの役員は神権の権能の下でこの目的のために任命されているのです。

兄弟たち，教会の定員会は皆さんの才能，忠誠，献身を必要としており，一人一人が神の王国における定員会活動から得られる仲間の交わりと祝福を必要としています。

姉妹たち，皆さんは扶助協会以上に良い交流の組織を見いだせるでしょうか。扶助協会のモットーは「愛はいつまでも絶えることがない」であり，その使命は貧しい人を祝福し，病気の人や独り住まいの人を慰め励まし，教会の女性たちの心に喜びを与え，また主婦としての技術を伸ばすことです。

教会で活発な会員であることは，わたしたち全員が直面する人生の嵐の中の錨です。王国はここにあります。この真理にしっかり従ってください。

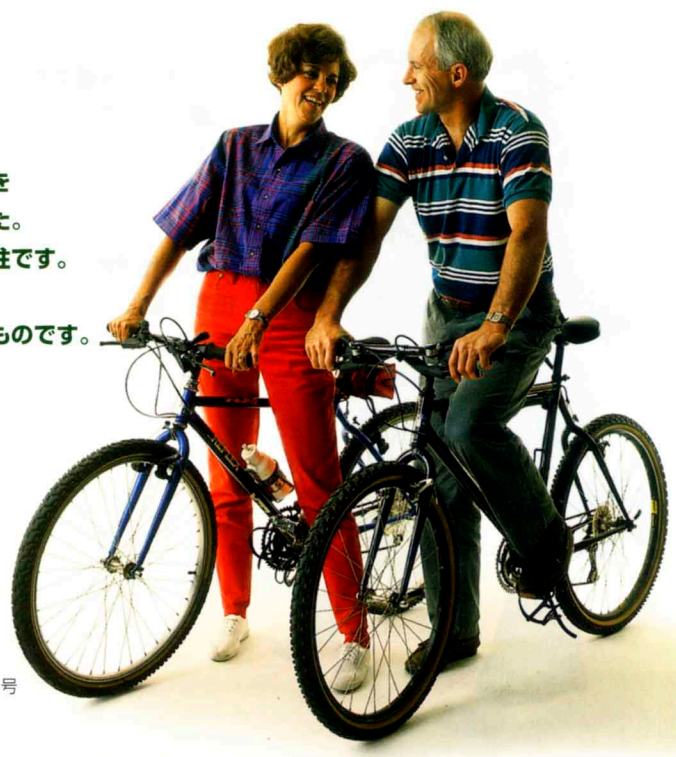
家族は神聖です。わたしは，数年間教会に活発でない状態からやがて活発になった人が語る話を聞いたときのことを覚えています。彼はその前の週に神殿に参入していました。そして，彼は感謝を述べてこう言いました。「『死が二人を分かつまで』というのが結婚式で交わされる言葉ですが，それは離縁状でもあります。」この言葉は彼にとっては目新しいものではありませんでしたが，その言葉を聞き，彼の言わんとすることを知った人々にとってはかなりのショックでした。それは真実です。世の法律の下で行われる結婚式は二人をつなぎますが，同時に離別をも宣言しているのです。

家族は神聖です。家族は天の御父によって定められました。家族はすべての関係の中で最も神聖なものです。家族という組織を通してのみ，主の目的は達成できるのです。

ありがたいことに，主は永遠の結婚，すなわち「新しくかつ永遠の聖約……祝福……創世の前から定められたもの」によって結び固めを受ける機会を主の子らにお与えになりました（教義と聖約132：4－5）。

皆さんは一度この祝福を得たならば，死によってそれが断たれることはあり得ないという確信をもって進んでください。この世でそのきずなを弱め，断つことができるものはたった二つ，すなわち罪と軽視です。

主はわたしたちに，
健康と幸福を得る鍵を
与えてくださいました。
それは永遠の知恵の柱です。
従うことは
合理化や犠牲以上のものです。



結婚するとほとんどの場合，子どもが生まれます。そして，ほとんどの両親が義にかなった子どもに育てようと熱心に努めます。わたしは次の事柄に満足しています。すなわち，福音のすばらしい教えから得られる家族生活のプログラム以上に親の試行錯誤の努力を確実に成功させるものはないということです。また，家庭の父親は神の神権をまとえるということです。天の御父の子どもたちを管理する者として彼らに必要なものを提供することは父親の特権であり責務です。父親は「説得により，寛容により，温厚と柔和により，また偽りのない愛により」(教義と聖約121：41)神権者としての気概をもって家庭を治めなければなりません。さらに，家庭における母親は神の娘であり，神の御霊をまとうことのできる知性と献身と愛の人です。天の御父の子どもたちを管理する者として，子どもたちに日々必要なものを与えて育てることは母親の特権であり責務です。彼女も夫の伴侶として「悔い改め，生ける神の子キリストを信じる信仰，およびバプテスマと按手による聖霊の賜物の教義を理解するように〔子どもたちを〕教え……祈ることと，主の前をまっすぐに歩むことも教えなければならない」のです(教義と聖約68：25，28)。

この世で最善の大義である
主の大義において，
すなわち定員会と
補助組織の活動，
神殿活動，
福祉の奉仕活動，
伝道活動において，
自分自身のことを
忘れてください。

このような家庭では，両親は怖がられることなく，愛されます。恐れられることなく，感謝されます。そして，子どもたちは主の賜物と見なされて，世話され，養われ，励まされ，導きを与えられます。

時には不一致があるかもしれません。小さないさかいがあるかもしれません。しかし，家族に祈りと愛と思いやりがあれば，そこには永遠のきずなとなる愛情の基があり，指針となる誠意がいつも存在することでしょう。

従順は犠牲に勝ります。皆さんはこの言葉の出所を御存じかもしれません。旧約の預言者サムエルがサウルに述べた勧告の言葉です。「見よ，従うことは犠牲にまさり，聞くことは雄羊の脂肪にまさる。」(サムエル上15：22)わたしはここでこの偉大な真理の一面だけを採り上げて，健康に関する主の勧告と約束である知恵の言葉(教義と聖約89章参照)にそれを適用してみたいと思います。

わたしはヘビースモーカーの寿命が喫煙しなかった場合より7年も短いというアメリカ医師会の報告を思い出します。人生の7年です。それは多くの人が高校と大学で過ごす年数に相当します。7年は，医者，建築家，技師，弁護士になるのに十分な長さです。7年間に，日の出や日没，丘や谷，湖や海を愛で，子どもたちの愛やすばらしい人々の友情を享受できるのです。滅ぼす天使は従順に生活する人々を過ぎ越して彼らを殺すことはないという主の言葉(21節参照)を，統計上のこの保証が裏づけています。

さらに，別の約束もあります。「知識の大いなる宝，すなわち隠された宝」(19節)を頂けるというものです。日曜学校教師の一人がかつてわたしに話してくれた一つの経験を思い出します。ある日曜日，知恵の言葉について話し合っていたときに，だれかが知識の隠された宝とはどういう意味かと尋ねました。

その教師はすっかり口ごもってしまい，閉会時刻を告げるベルに救われました。そして彼は，次の日曜日にその件について考えたいと思いますと生徒たちに告げました。

彼はその週の間中，その問いについて思い巡らしましたが，答えを得られたとは感じませんでした。週末近くにな

**主の祝福を受けるに
ふさわしくなるために
什分の一を納めてください。
「あなたがたが
わたしの言うことを行うとき，
主なるわたしは
それに対して義務を負う」と
主は約束しておられます。**

って，彼は仕事仲間と昼食を共にしました。その人は彼に，一度旅行中に末日聖徒の教会の建物のそばを通ったことがあると話しました。その人は，中に入って末日聖徒がどのように礼拝しているのか見てみることにしたと言うのです。

普通とは違う集会だった，とその人は言いました。人々が次々に会衆の中から立ち上がって自分の経験を語り，感謝を述べ，次いでほとんど例外なく，自分は神が生きておられ，イエス・キリストが神の御子であり，わたしたちの生ける贖い主であられるのを知っていると証したとのことでした。その人はその午後，車でハイウエーを走りながら，こう考えました。「これらの人々は確かに，世の中から隠された知識を持っている」と。

少しの間，このことを考えてみてください。

主はわたしたちに，健康と幸福を得る鍵を与えてくださいました。約束を伴った鍵を与えてくださったのです。それは永遠の知恵の柱です。従うことは合理化や犠牲以上のものです。

主は義務を負ってくださいます。状況を見てみると，ほとんどの人々の思いを支配する大きな望みは3つあります。それは，(1)愛し，愛されたい，(2)理解してくれる良い友人を持ちたい，(3)成功したい，つまりある程度の繁栄を得て楽しみたいということです。

スティーブン・L・リチャーズ副管長(1879－1959年)がかつて，ジョセフ・F・スミス大管長(1838－1918年)の語った話をわたしに聞かせてくれました。スミス大管長はファーウェストの暗黒時代に生まれ，ノーブーの悲惨な時代に父親を失い，自分自身の体験から貧困の意味を知っていました。わたしが理解しているかぎり，スミス大管長は，主は御自分の民を永遠に貧しく，惨めで，不安な状態の下で生活させようとは思っておられないし，民が適度にこの世の良い物を享受することを欲しておられると述べました。

これはわたしの考えですが，この教会の会員であり，会員であることに伴う聖約を自ら引き受けた人は，主の王国の重荷のうち，自分の分を進んで負わないかぎり，自分の努力に応じた主の祝福を期待することはできないのではないでしょうか。

兄弟姉妹，主は旧約の預言者マラキを通じて次のように述べられました。

「わたしの宮に食物のあるように，十分の一全部をわたしの倉に携えてきなさい。これをもってわたしを試み，わたしが天の窓を開いて，あふるる恵みを，あなたがたに注ぐか否かを見なさいと，万軍の主は言われる。

わたしは食い滅ぼす者を，あなたがたのためにおさえて，あなたがたの地の産物を，滅ぼさないようにしよう。また，あなたがたのぶどうの木が，その熟する前に，その実を畑に落すことのないようにしようと，万軍の主は言われる。」(マラキ3：10－11)

主の祝福を受けるにふさわしくなれるよう，什分の一を納めてください。わたしは皆さんが裕福になれるとは約束しません。しかし，主の戒めを守る人々に主が様々な方法で惜しみなく報いを与えてくださることを，わたしは証します。また，皆さんが相談することのできる投資カウンセ

左――フォトイラストレーション／ジェド・A・クラーク。右――フォトイラストレーション／クレーグ・ダイモンド

ラーは，主が約束してくださった次の約束と同じような約束はできないということも，わたしは皆さんに申し上げられます。「あなたがたがわたしの言うことを行うとき，主なるわたしはそれに対して義務を負う。しかし，あなたがたがわたしの言うことを行わないとき，あなたがたは何の約束も受けない。」(教義と聖約82：10)主は，御自分の聖約を尊ばれます。

自分の命を失う人はそれを見いだすでしょう。1933年，わたしは伝道に出かけたとき，途中，シカゴを通りました。大恐慌がまだ続いていました。シカゴ商工会議所ビルと思われる所を通りかかったとき，一人の女性がバスの運転手に，「あの建物は何ですか」と尋ねました。すると運転手は答えました。「あれは商工会議所ビルです。ほとんど毎日のように，自分の株を失った人が窓から飛び降りるんです。」

バスの運転手は大げさだったかもしれません。しかし当時，自分の財産を失ってしまったと考えた人々の中には窓から飛び降りる人がいたのです。彼らの生活は自分のことと金銭にのみ向いていて，彼らは金銭がなくなると生きる価値がまったくなくなったと考えたのです。

ウェンデル・フィリップスはこう述べています。「多くの人はその死とともにほとんど忘れられた存在となってしまうが，一方，己を忘れ，人のために尽くしたごく少数の人々は，その名を不朽のものにしている。」(ジョン・ウェスレー・ヒル，*Abraham Lincoln－Man of God*〔1927年〕，146で引用)

救い主はそのことを次のように述べておられます。「自分の命を得ている者はそれを失い，わたしのために自分の命を失っている者は，それを得るであろう。」(マタイ10：39)

わたしは飛行機に乗った折に，1冊の本を手に取り，現在世界が向かっている道徳の衰退について述べた記事を読みました。その著者はこの衰退の主要な原因として，次のような問いに特徴づけられる一つの態度を挙げていました。「それはわたしにとって，何の得になるのか。」

兄弟姉妹，皆さんは自分自身のことだけを考えて生活していては決して幸せにはなれないでしょう。この世で最善の大義である主の大義において，すなわち定員会と補助組織の活動，神殿活動，福祉の奉仕活動，伝道活動において，自分自身のことを忘れてください。皆さんはほかの人々の生活に祝福をもたらすときに，自分自身の生活が祝福されるのです。

そのために，わたしは皆さんの前に次の真理の柱を定めます。その一つ一つが，幾世代にもわたる経験から立証されており，主の言葉に裏打ちされている永遠の真理です。

1. 神は生きておられ，天の扉は開かれています。
2. 人生は永遠です。
3. 神の王国はここにあります。
4. 家族は神聖です。
5. 従順は犠牲に勝ります。
6. 主は義務を負ってくださいます。
7. 自分の命を失う人はそれを見いだすでしょう。

わたしは，これらの真理の中に人知ではとうてい測り知ることのできない平安と言葉に尽くせない喜びがあることを証します。□

ホームティーチャーへの提案

1. 神は実在の御方です。わたしたちの御父です。祈りを通じて，神はわたしたちに近づいてくださいます。

2. わたしたちは無秩序な宇宙における偶然の創造物ではありません。わたしたちは神の子どもです。わたしたちは御父を知っており，御父はわたしたちの将来のために計画を定めてくださいました。

3. わたしたちは地上における最も偉大な王国，すなわち神の王国の住民です。教会の活発な会員であることで，わたしたちは人生の苦難の中でも不動でいられます。

4. 家族は天の御父によって定められました。家族を通してのみ主の目的は達成できるのです。

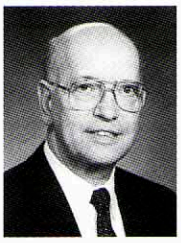
5. 従うことは合理化や犠牲以上のものです。

6. 主の戒めを守るすべての人々に，主は様々な方法で惜しみなく報いを与えてくださいます。

7. 自分の利己的な利益を忘れて主の業を行うときに，わたしたち自身の生活が祝福されます。

祝福を獲得する

七十人
アンヘル・アブレア



ある一人の旅人が，粗末な家の前に座っていた農夫を見て次のように尋ねました。「今年の綿の収穫はどうですか。」

農夫は答えました。「収穫は全然ないんですよ。ワタノミゾウムシがつくかもしれないと思って種をまかなかったんでね。」

これを聞いた旅人は「じゃあ，とうもろこしはたくさんとれるんでしょうね」と尋ねました。

すると「それも同じですよ。粒が大きく育つほど雨が十分降らないだろうと思って植えなかったんです」という返事でした。

旅人は続けて「少なくともじゃがいもの収穫は大丈夫ではないですか」と聞きました。

「いや，一つたりとも植える勇気がありませんでした。虫がつくだろうと思ってね」と答えました。

少しいらだってきた旅人は「じゃあ何を植えたんです」と質問しました。

すると農夫はこう答えました。「何も植えなかったんですよ。失敗するかもしれないことに努力するより，何もしない方がいいですからね。」

今日（こんにち），ちょうどこの農夫のような人々が大勢います。福音は聞きます。しかし，それがほんとうに真実であるかどうかを知るために，福音を心に植え付け，生活に当てはめるのを恐れるのです。

わたしたちは預言者の言葉と聖文に耳を傾け，従うことによって，この死すべき世を無事通過することができます。しかし，教えられている原則を毎日の生活に当てはめるのを恐れていると，傍観するだけの人生になってしまうことでしょう。

福音が真実であるという確信は「ただ聞くだけの者」でなく，「御言（みことば）を行う人」になることから得られるのです（ヤコブの手紙１：22）。この確信は，「神の口から出る一つ一つの言葉に従って生き」る努力の結果なのです（教義と聖約84：44）。神の子どもたちのだれ一人として，人生でふさわしい行いをせずに，いと高き御方からの祝福を保証されるような人はいません。主の祝福はそれが基づく律法に従う結果授けられるものだからです。□

1988年4月の総大会説教から。

絵／リチャード・ハル

十二使徒定員会
L・トム・ペリー

仕えること

中央幹部が非常に多くの時間を飛行機の中で過ごしていると聞いても教会員は特に驚きません。今や教会は全世界に広がっているからです。ステークセンターは多くの国々に散在しています。

あるとき旅行中に，わたしは飛行機のパイロットと話す機会がありました。飛行計画からそれたら，どのようなことになるかという質問に答えた彼の言葉にわたしは仰天しました。

飛行計画から1度それると，60マイル(97キロ)進むごとに目標地点から1マイル(1.6キロ)ずれると言ったのです。つまり，ソルトレークからデンバーに向かって飛行すると，デンバーの空港ではなく，デンバー市内に着陸します。ソルトレークからシカゴに向かって飛行すると，シカゴ空港ではなく，ミシガン湖に到着します。ソルトレークからニューヨークに向かって飛行すると，ケネディー空港ではなく，ハドソン川に到着します。ロンドンに向かって飛行すると，イギリスではなく，フランスのどこかへ着陸するのです。

飛行ルートから数度それるとしたら，まったく別のルートを飛行することになります。そのパイロットは，当然のことながら誤りに気づくのが早ければ早いほど，飛行計画に戻りやすいと言いました。修正するまでに長い時間が過ぎてしまうと，本来のルートに戻るのが非常に難しくなります。ほかの飛行機が飛んでいたり，天候が悪化したり，視界が狭まったり，そのほかの困難な条件が加わるからです。予定のルートからあまりにも離れすぎてしまうと，目的地に到着することはほとんど不可能になるそうです。パイロットの話を聞いて不安を覚えましたが，おかげで，飛行計画とわたしたちが人生で計画する進路の間にある類似点について考えるきっかけになりました。

わたしたちは一つの大きな冒険を経験するためにこの世に来ています。自分の進むべきルートを決めて，最終的な目的地を決定するための計画に従っていかなければなりません。福音を理解しているわたしたちにとって最終の目的地を決めることは簡単です。救い主によってすでに道が示されているからです。救い主は山上の垂訓でこのように言われました。

「狭い門からはいれ。滅びにいたる門は大きく，その道は広い。そして，そこからはいって行く者が多い。

命にいたる門は狭く，その道は細い。そして，それを見いだす者が少ない。」(マタイ7：13－14)

聖文は繰り返し，永遠の命に至る道は一つしかないことを告げています。最後の晩餐(ばんさん)の夕べに，救い主は2階の広間で使徒たちに別れを告げて，このように言われました。

「わたしの父の家には，すまいがたくさんある。もしなかったならば，わたしはそう言っておいたであろう。あなたがたのために，場所を用意しに行くのだから。

そして，行って，場所の用意ができたならば，またきて，あなたがたをわたしのところに迎えよう。わたしのおる所にあなたがたもおらせるためである。」(ヨハネ14：2－3)

すると，使徒トマスは言いました。「主よ，どこへおいでになるのか，わたしたちにはわかりません。どうしてその道がわかるでしょう。」(5節)

救い主の答えは簡潔かつ明瞭でした。「わたしは道であり，真理であり，命である。だれでもわたしによらないでは，父のみもとに行くことはできない。」(6節)

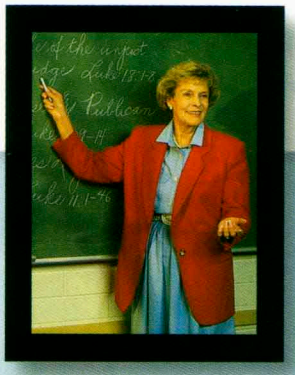
主がわたしたちのために用意してくださった計画を知っているわたしたちはどれほど幸せでしょうか。主は御自身のもとへ導く道を示されました。道がこれほどはっきりと示されているのに，なぜ多くの人々は道をそれてしまい，そのまま進路を立て直そうとしないで，望んでいた目的地に到着できなくなるようなことをするのでしょうか。

昇栄への道，天の御父との生活への道には，様々な障害物があります。つかの間の試練，そして長期にわたる試練があります。曲がり角や分岐点や交差点には誘惑が待ち受けています。わたしたちが誘惑に負けるか負けないか，道にとどまっているかどうかは，目標に到達しようとする決意の固さに左右されます。

モルモン書にはリーハイが受けた命の木の示現について記されています。鉄の棒にすがって進んだ人々は命の木にたどり着き，その実を食べました。それは甘く，ほかのあらゆる実よりも好ましいものでした。続いてリーハイは次のように報告しています。

「それでわたしも辺りを見回すと，水の流れている川の向こう側に，一つの大きく広々とした建物が見えた。それは地上に高くそびえ，ちょうど空中にあるかのように立っていた。

とを学ぶ



**福音の知識は
奉仕と分かち合いの中にしか
見いだすことのできない幸福へと
わたしたちを導いてくれます。**

フォトイラストレーション／ジョン・ルーク、スティーブ・バンダーソン、ボーグ・B・アンダーセン

その建物は，老若男女を問わず人々でいっぱいであった。この人々の衣服の装いは，非常に華やかであった。そして彼らは，その木の所までやって来てその実を食べている人々を指さし，あざけり笑っている様子であった。

それでその木の所までやって来た人々は，その実を味わった後にあの人々にあざけり笑われたので恥ずかしく思い，禁じられた道に踏み込んで姿が見えなくなってしまった。」(1ニーファイ8：26－28)

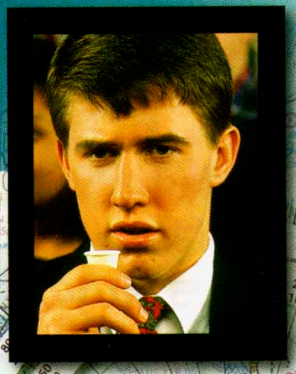
人生の旅を終えたときに，自分が追及する目的地に到着したいと考えているのであれば，いわゆる「友達」の皮肉やあざけりを無視することを学ばなければなりません。自分は主の使徒や預言者以上に真理を知っているのだと吹聴する人々が，安易で楽しい道へ誘っても，耳をふさぐ必要があります。

ニーファイはこのように勧告しています。「わたしニーファイは，主の言葉を心に留めるように兄たちに勧めた。まことに，わたしは兄たちが神の言葉を心に留めて，何事においても常に神の戒めを守ることを覚えるように，全精力を傾け，能力の限りを尽くして兄たちに勧めた。」(1ニーファイ15：25)

永遠の命に通じる道の傍らに立っている標識の一つが，学生へのチャレンジとしてブリガム・ヤング大学の入り口に掲げられています。「学ぶために入り，仕えるために出て行きなさい。」道にとどまるために最初にしなければならないことは，歩むべき狭くて細い道についてできるだけ多く学ぶことです。主は子らのために，あらゆる時代に預言者を通して，命の計画を明らかにしてこられました。スペンサー・W・キンボール第12代大管長(1895－1985年)はこのように勧告しました。

「皆さんが，そしてわたしたち全員が，イエス・キリストの福音を指針として与えられていることに感謝しています。それは，これから後の人生で目にする出来事や事柄を考えるときに当てはめる枠組みを持っているということなのです。聖文が明らかにしていることによれば，この神権時代に生きているわたしたちには，政治指導者が『この時代の平和』を実現してくれるという保証はありません。しかし，教会員としてわたしたちは，たとえ周囲に平和がなくても，個人の平和すなわち心の安らぎを得る方法を与えられています。

皆さんは，人生の道の先を歩んでいるわたしたちから『狭くて細い』道にとどまることの大切さを説かれることに，今ではもう慣れてしまっているかもしれません。同じことについてわたしたちは何度も何度も話してきました。けれども，なぜわたしたちがそうするのかをよく考えてみるならば，その細い道の両側にある断崖絶壁が変化したり，前より危険でなくなったりしてはいないこと，その道が相



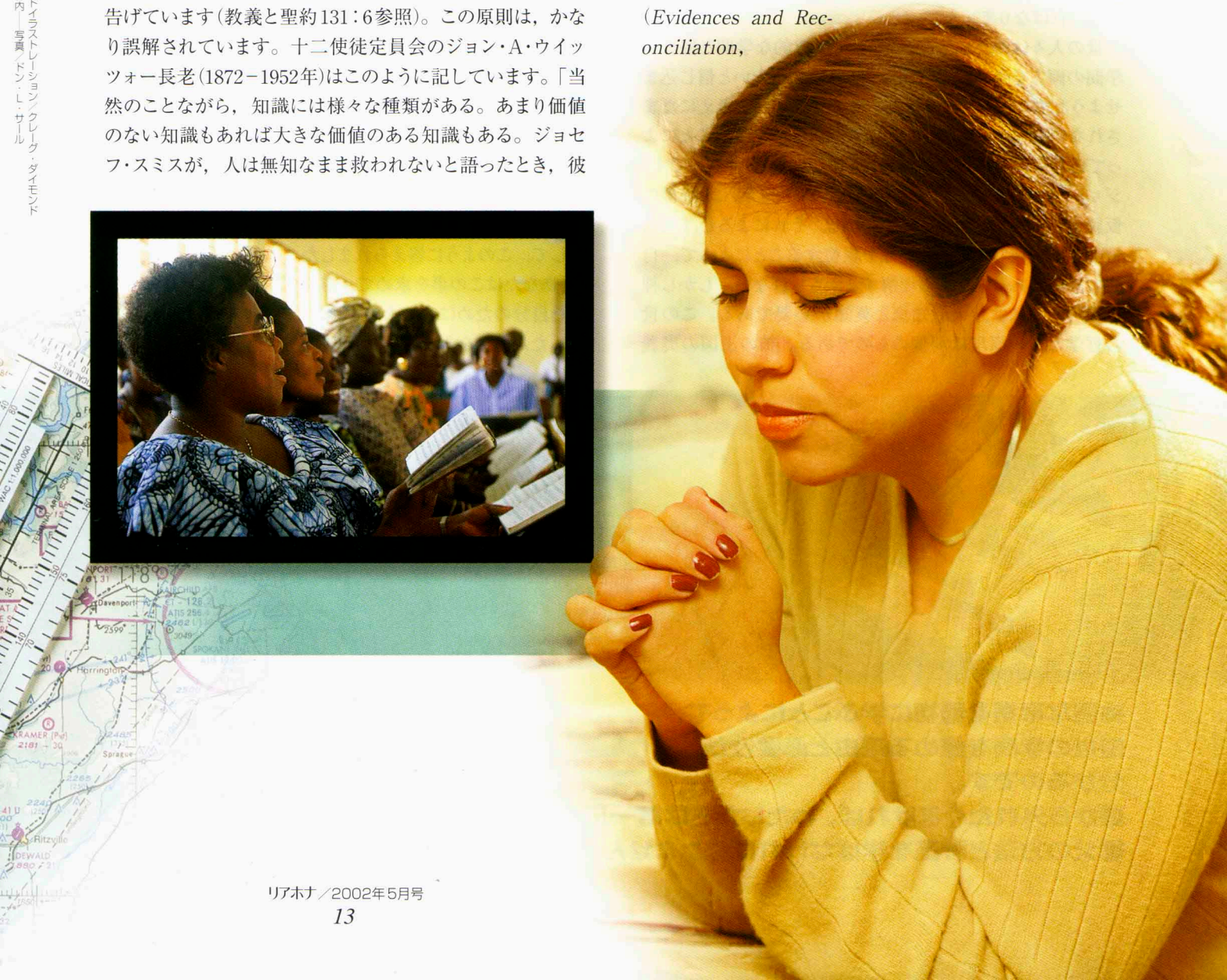
永遠の命に至る道は一つしかありません。
救い主は使徒たちに言われました。
「わたしは道であり，真理であり，命である。
だれでもわたしによらないでは，
父のみもとに行くことはできない。」

変わらず険しいことに気づくでしょう。」(*President Kimball Speaks Out*〔1981年〕, 89)

多くの若者は人生のまことの意味を見つけるまで待たずに，衝動的に行動し，準備のないまま人生の旅に飛び出していきます。彼らは道路地図を持たずに歩いています。彼らが旅の途中で落胆しか見いだすことができないとしてもそれは当然のことです。それでは，出て行って仕える前にわたしたちは何を学ぶ必要があるのでしょうか。

まず主の道について学ぶ

聖文は，人は無知なまま救われることは不可能であると告げています(教義と聖約131：6参照)。この原則は，かなり誤解されています。十二使徒定員会のジョン・A・ウイッツォー長老(1872－1952年)はこのように記しています。「当然のことながら，知識には様々な種類がある。あまり価値のない知識もあれば大きな価値のある知識もある。ジョセフ・スミスが，人は無知なまま救われないと語ったとき，彼はもちろん，救いに導くすべての律法に対する無知を意味していた。このような知識には最も大きな価値がある。それは第一に追求すべき知識である。その後に，霊的な律法に直接かかわる知識を補足し，広げる目的で，その他の知識を付け加えてもよい。例えば，全世界に福音を宣べ伝えるのは教会の義務である。しかし，この義務を果たすには鉄道や汽船，印刷機，そのほかわたしたちの文明を構成する多くのものの助けが必要である。宣教師が第一に必要とするのは福音の知識である。しかし，あらゆる人に福音を教えるという神の命令をよりよく成し遂げるには，福音の知識よりも価値は劣るが，ほかの知識を必要とするのである。」(*Evidences and Reconciliation*,



左――「わたしを記念して」ウォルター・レーン画。左枠内――フォトイラストレーション，クレーグ・ダイモンド
右――フォトイラストレーション，スティーブ・バンダーソン。右枠内――写真／ドン・L・サール

G・ホーマー・ダラム編〔1987年〕, 224)

もちろん，今日の社会ではコンピューターや衛星通信などについての知識を要求される人もいます。しかし，ウイッツォー長老の指摘は現在でも的を射ています。彼が言おうとしたのは，わたしたちの学問には順序が必要だということです。それは救い主が指摘された順序と同じです。「まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば，これらのものは，すべて添えて与えられるであろう。」(マタイ6：33)神聖な事柄を最初に学ぶことによって，俗世の学問を修める理由と必要性が分かるのです。天の御父のもとへ帰りたければ，わたしたちは第一に御父の方法と計画を学ばなければなりません。

世の人々はわたしたちをだまして，霊的な学問と俗世の学問の両方を手がける時間などあるはずがないと信じ込ませようとするかもしれません。そのような人の考えにだまされないようにしてください。神聖な事柄を学ぶことによって俗世の学問の修得が容易になり，加速さえするのです。ジョン・テーラー第3代大管長(1808－1887年)は「俗世の仮説が持つ限界」を公式化しました。それによると，「人は哲学と生来備わっている英知を駆使することによって，自然の法則をある程度まで理解するかもしれない。しかし神を理解するには，天の知恵と英知が必要である。この世の哲学と天の原理は別個のものである。神の王国の奥義を明らかにするために，この世の哲学を基礎として論理を展開していくことは愚かなことである。」(*The Gospel Kingdom*, G・ホーマー・ダラム選〔1987年〕, 73)

霊的な基礎に立って俗世の学問に取り組むならば，自然の法則をよく理解できるだけでなく，芸術や言語，テクノロジー，医学，法律，人間の行動について，かつて考えたこともないほど深く理解することができるのです。わたしたちは神の目を通して周囲の世界を眺め，理解することができます。

ソロモン王の物語は，理解力を主に願い求めることが可能であることを教えています。ソロモンがギベオンにいたときに，夢の中で主が現れて，言われました。「あなたに何を与えようか，求めなさい。」(列王上3：5)王に任じられたばかりだったソロモンはその責任に圧倒され，自分は準備ができていないと感じていました。そこで主に言いました。「わたしは小さい子供であって，出入りすることを知りません。」(7節)このため，ソロモンは主に「聞きわける心をしもべに与えて，あなたの民をさばかせ……てください」と願いました(9節)。主はソロモンの求めを喜ばれました。そして，このように答えられました。

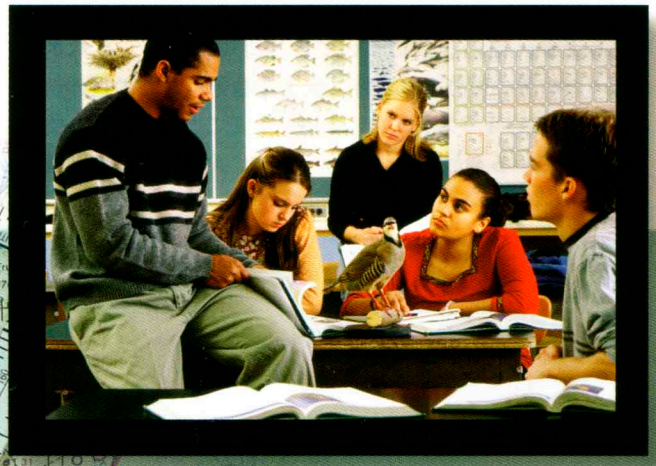
「あなたはこの事を求めて，自分のために長命を求めず，また自分のために富を求めず，また自分の敵の命をも求めず，ただ訴えをききわける知恵を求めたゆえに，

神聖な事柄を最初に学ぶことによって，
俗世の学問を修める理由と必要性が
分かるのです。
道から外れたくなければ，わたしたちは第一に
御父の方法と計画を学ばなければなりません。

見よ，わたしはあなたの言葉にしたがって，賢い，英明な心を与える。あなたの先にはあなたに並ぶ者がなく，あなたの後にもあなたに並ぶ者は起らないであろう。」(11－12節)

わたしたちが誠心誠意求めるならば，主が大いなる力をもって，いとわずに祝福してくださることを過小評価してはなりません。主は世の教育心理学者が想像したこともない教授法と学習理論を持っておられます。

この世の命という賜物(たまもの)は，神と神の方法を学ぶための時間を，わずかしか与えていません。一方でわたしたちは，宇宙と宇宙にあるすべてのものを学び，俗世の知識を積み重ねるために，永遠という時の広がりを得ています。昇栄の祝福の一つは俗世の事柄について学ぶ永遠の時であることを教えて，キンボール大管長はこのように語りました。「*わたしたちは死後も学び続けます*。昇栄とは神の資格を得ること，創造者の資格を得ることです。『人が現在あるがごとくに神もかつてあり，神が現在あられるごとくに人もなり得るのである。』(エライザ・R・スノー・スミス，*Biography of Lorenzo Snow*〔Salt Lake City: Deseret News Co., 1884年〕, 46)これは未来のことです。人は，存在する物質から，わたしたちが住んでいるような世界を創造することができるようになる前に，地質学，動物学，生理学，心理学，そのほかすべての学問を修めていなければならないことが明らかです。また，いかなる人も短い生涯の中で，このすべての知識を得，これらすべての科学を修めることは明らかに不可能です。しかし，端緒を開くことはできます。霊的な生活と自己抑制と



左――「聖書から知恵を求めるジョセフ・スミス」デール・キルボーン画。左枠内――フォトイラストレーション／スティーブ・バンダーソン
右――フォトイラストレーション／ジェド・A・クラーク。右枠内――フォトイラストレーション／クレーグ・ダイモンド

自己制御を基礎として，キリストの福音を通して受けた権能と力によって，人は俗世に関するこの無限とも思われる研究を始める立場に立つのです。」(*The Teachings of Spencer W. Kimball*，エドワード・L・キンボール編〔1982年〕，53)

したがって，霊的な事柄を学ぶのに時間がかかることを心配する必要はありません。正しく過ごすことが大切です。俗世の学問の基礎を築くのです。主を信頼し，主の永遠の計画を最初に学ぶならば，主は確かにわたしたちを祝福してくださいます。もし，第一のものを第一に行うならば，学習する機会は狭まるのでなく，広がるのです。

キンボール大管長はさらにこのように語りました。

「現世は人が神に会う用意をする時期です。ですから，神に会う用意をすることがわたしたちにとって最も大切な責任です。すでに自分の肉体(それは自分の霊の永遠の幕屋になります)を得ているため，現在，わたしたちは，体と思いと霊を訓練しなければなりません。ですから，この世の生涯で最も大切なことは，自分を完成させ，肉体を支配し，肉体を霊に従わせ，あらゆる弱点を克服し，人々を導くことができるように自分を治め，必要なあらゆる儀式を執行するために時間を用いることなのです。……

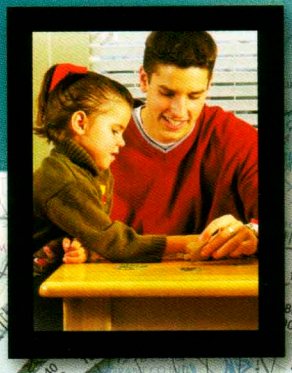
……永遠の命に至る道をしっかりと歩み始めると，俗世の事柄に関する知識をもっと蓄積していくことができます。……

……高度な訓練を受けた科学者が，同時に完全な人であるとするならば，世界を創造し，そこに人々を住まわせることができるかもしれません。しかし，不道徳で，悔い改めず，信じる心を持たない科学者が創造者になることは永遠にないでしょう。

俗世の知識は大切かもしれませんが，人を救うことや日の栄えの王国の門を開くこと，世界を創造すること，そして人を神にまで高めることはできません。しかし，この知識は，第一のものを第一に行って，永遠の命に至る道を見いだし，すべての知識を道具としてまた僕(しもべ)として使うことができるようになった人にとっては大いに役立つものとなります。」(*President Kimball Speaks Out*，90－92)

神に対して返済することのできない負債を負っていることに気づく

歩むべき道について可能な限りのことを学んで，永遠の命を得るための道を歩み始めたわたしたちには，助けを必要としている天の御父のほかの子どもたちに対する義務があります。神の計画についての知識を得ると，必然的に様々な結果に至ります。特に重大な結果は，この世の神であるイエス・キリストに対して返済することのできない負債を負っていることに気づくということです。救いの計画の



ベニヤミン王は民に「あなたがたが同胞(はらから)のために務めるのは，とりもなおさず，あなたがたの神のために務めるのである」と勧告しました。

バランスを保つには，贖い主が必要です。イエス・キリストがこの役割を果たされました。主はわたしたちの罪を贖ってくださり，イザヤとペテロの言葉にあるように「その打たれた傷によって，われわれはいやされた」のです（イザヤ53：5。1ペテロ2：24参照）。

使徒パウロがローマ人にあてた手紙を書いたときに，返済不可能な自分の負債を強く感じていたことは明らかです。「兄弟たちよ。そういうわけで，神のあわれみによってあなたがたに勧める。あなたがたのからだを，神に喜ばれる，生きた，聖なる供え物としてささげなさい。それが，あなたがたのなすべき霊的な礼拝である。」（ローマ12：1）パウロは奉仕の基本となる部分を明らかにしています。わたしたちは，祝福を与えてくださった主に対する感謝の気持ちから奉仕するのです。さらに，主が大いなる救いの計画を成就するために苦しみを受けて，血を流し，亡くなられたことが，あらゆる祝福の中で最大の祝福であるのを忘れてはなりません。それは，わたしたちが主とともに御父の前に帰れるように立案され，実行された計画です。ベニヤミン王が次のように語ったのはこのきわめて大切な概念を理解していたからでした。「たとえ全身全霊を尽くして仕えたとしても，それでもなお，あなたがたはふつつかな僕である。」（モーサヤ2：21）

わたしたちに永遠の命を得られるようにしてくださった神にどのように仕えたらよいのでしょうか。この問いについても，ベニヤミン王は民に勧告を与えたときに，こう答えています。「あなたがたが同胞のために務めるのは，とりもなおさず，あなたがたの神のために務めるのである……。」（モーサヤ2：17）

モルモン書には人生の目的について多くの説明を与える基本的な方程式，すなわち，「人々に仕

左――「ニーファイ人に教えを説くベニヤミン王」ゲーリー・L・カップ画。左枠内――フォトイラストレーション／クレーグ・ダイモンド
右――フォトイラストレーション／©トニー・ストーン・イメージズ。右枠内――写真／トニヤ・A・エバット、スティーブ・バンダーソン

えることは神に仕えることに等しい」という方程式を理解していた人々の模範が記されています。もちろんベニヤミン王は神と人に仕えたすばらしい模範の一人でした。ベニヤミン王は民に向かってこう語りました。「わたし自身でさえ，自分の手を使って働いてきた。それは，わたしがあなたがたのために務めることができるように……するためであった。」(モーサヤ2：14)ベニヤミン王は救いの計画について学ぶことを選びました。それから，出て行って，仕えました。

神の計画を学んで理解し，奉仕の霊に満たされた人に関する出来事の中で，恐らくさらに劇的なものとして，息子アルマの物語を挙げることができます。アルマは青年時代に，モーサヤの息子たちとともに神の教会を滅ぼそうとしていました。アルマの行動は，本来従うべき道から180度それていました。その後，驚くべき出来事がありました。一人の天使がアルマに現れて，アルマとモーサヤの息子たちの誤りを正したのでした。

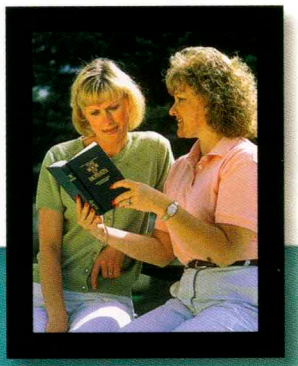
アルマの驚きを想像できるでしょうか。アルマは主の教会と人々の信仰を滅ぼすことに全精力を傾けていました。そこに，天使が現れてこう告げたのです。「主はかつて，『これはわたしの教会である。わたしがこれを設ける。わたしの民の背きのほかに，これを覆すものはない』と言われた。」(モーサヤ27：13)

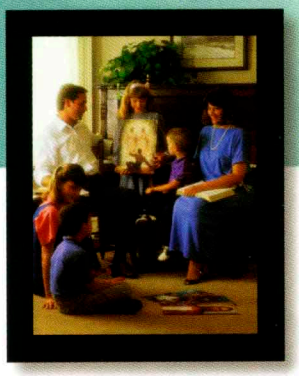
アルマは非常に大きな衝撃を受けたため，まったく物が言えなくなり，手を動かすこともできませんでした。彼は一緒にいた者たちに運ばれて，管理大祭司である父アルマの前に置かれました。祭司たちが集まって来て，アルマの口が開かれ，力を取り戻すことができるように，二日二晩アルマのために断食して祈りました。主は最終的に彼らの嘆願を聞き届けられました。息子アルマは彼らの前に別人として立ち上がり，彼らに話し始めました。

「わたしはすでに苦汁と罪悪のかせから贖われました。わたしはかつて，最も暗く深い淵の中にいましたが，今は神の驚くべき光を見ています。わたしはかつて永遠の苦痛に責めさいなまれましたが，今は救い出されており，もう心に苦痛を感じません。

わたしはかつて贖い主を拒み，わたしたちの先祖が語ってきたことを受け入れませんでした。しかし今は，贖い主が将来来られるのを全人類が先見できること，また贖い主が御自分の造られたすべてのものを覚えていて，将来すべての人に御自身を現されるということをわたしは知っています。」(モーサヤ27：29－30)

それはアルマにとって苦渋に満ちた軌道修正でした。彼は言葉に表せないほどの苦痛と永遠の責め苦を受けましたが，正しい道に戻りました。聖文の次





神の計画を学んで奉仕の霊に満たされた人に関する出来事の中で，劇的なものとして，息子アルマを挙げることができます。天使がこう告げたのです。「主はかつて，『これはわたしの教会である。わたしがこれを設ける。……これを覆すものはない』と言われた。」

「アルマの改宗」ゲーリー・L・カップ画。フォトイラストレーション／スティーブ・バンダーソン、クレーグ・ダイモンド

の記録は実に興味深いものです。

「さて，アルマはこのとき以来，民を教え始めた。また，天使が現れたときにアルマと一緒にいた者たちとともに，全地を旅して回り，自分たちの聞いたり見たりしたことをすべての民に告げ，多くの艱難の中で神の言葉を宣べ伝えた。そして，不信仰な者たちからひどい迫害を受け，彼らの多くから打たれた。……

そして，彼らはゼラヘムラの全地を旅し，モーサヤ王が治めているすべての民の中を巡って，自分たちがかつて教会に加えたすべての害悪の償いをしようと熱心に努め，自分たちのすべての罪を告白し，自分たちが見たすべてのことを告げ，また自分たちの言葉を聞きたいと望んだすべての人に，預言と聖文について解説した。

このようにして，彼らは神の手に使われる者となって多くの人を真理の知識に導き，まことに，贖い主について知らせた。」(モーサヤ27：32，35－36)

心を改めると次に，受け入れた知識を天の御父のほかの子らと分かち合う責任と義務が与えられます。アルマの生活は変わりました。そして彼はこの世で最も偉大な宣教師の一人となりました。彼は，贖いの計画についてじかに受けた知識を力強く教えました。アルマは天使のもとで学び，そして出て行って，仕えたのでした。

アルマが務めを終えようとする時期に記した記録から，彼がどれほど真理によって生まれ変わっていたか，その結果どのようにして，神のあらゆる子らに仕えたいと願うようになったかを知ることができます。

「おお，わたしが天使であって，わたしの心の願いを遂げることができればよいものを。わたしの心の願いとは，出て行って，神のラッパのように地を震わせる声で語り，すべての民に悔い改めを叫ぶことである。

まことに，わたしは雷のような声で，あらゆる人に悔い改めと贖いの計画を告げ知らせ，もはや地の全面に悲しみのないように，悔い改めて神のみもとに来ることを彼らに勧めたい。」(アルマ29：1－2)

救いの計画と主に仕えることへのアルマの理解は，肉体の限界によってそれ以上不可能と感じられる程度に高められました。アルマは自分の願いが現実離れしていることを知っていましたが，もっと奉仕したいと願ったのでした。アルマは自分に福音を宣言した天使のあの声で自分も福音を宣べ伝えたいと思ったのでした。主に対する負債を強く感じていたため，彼は自分の持っているすべてよりもさらに多くを犠牲にして，主に仕えたいと願ったのでした。

わたしたちの中に「自己中心」の教義を教える人がいます。彼らは自分のことを第一に，何にも増して考えるべきだと主張します。しかしながら，利己主義は決して幸福をもたらしたことがないと歴史は教えています。人生で大切なのは奉仕と分かち合うことです。確かに，心を満たす人生とは，愛と奉仕という遺産を残す人生です。その遺産を受ける人々はその模範に従い，その遺産を喜ぶのです。ゴードン・B・ヒンクレー大管長の父ブライアント・S・ヒンクレーは奉仕についてこのように語りました。

「奉仕はいつのときにも，偉大な人に備わる徳である。偉大な人は奉仕という徳によって人々の記憶にとどめられる。奉仕という徳を身に付けようと努力する者たちには，気高さというしるしが付け加えられる。奉仕とは，世の人を大きく二つの集団に分け隔てるものである。すなわち，助ける人とじゃまをする人，元気づける人と依存する人，貢献する人と消費するだけの人である。受けるよりも与える方がどれほどすばらしいことだろうか。あらゆる奉仕は魅力的で，美しい。励ましを与え，思いやりを示し，関心を示し，恐怖を払いのけ，自信を植え付け，人々の心に希望を呼び覚ますこと，要するに人々を愛して，愛を示すこと，これが最も価値のある奉仕である。」(スティーブン・R・コービーその他，*First Things First*〔1994年〕で引用，306。句読点は修正)

学ぶために地上の生活に入り，そして出て行って奉仕すること，これがこの世の生涯の目的です。もしわたしたちの行動がその目的からそれているとしたら，すぐさま軌道を修正して，正しい道へ戻ろうではありませんか。毎日，毎週，毎年，時間を取って，わたしたちの立っている道が主御自身の示された道，すなわち永遠の平安と喜びを与える唯一の目的地，永遠の命に通じる狭くて細い道であることを確かめようではありませんか。□

雄々しく立つ

ピア・ヘントセン

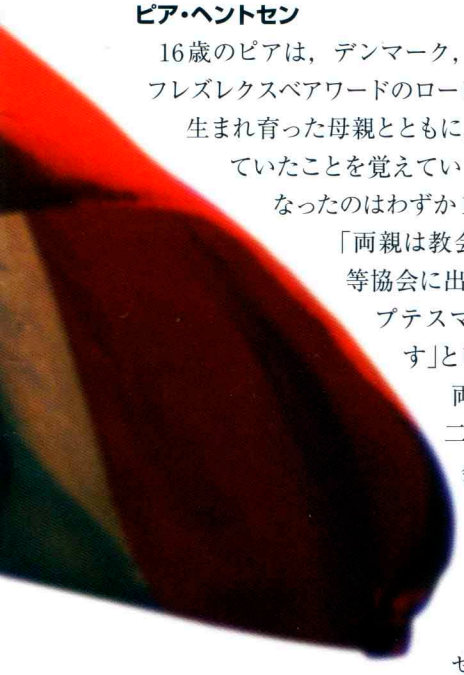
レベッカ・ペデルセン

アネリーゼ・ニールセン

デンマークの聖徒

文・写真／ローリー・リブシー

デンマーク，コペンハーゲンの3人の若い女性が，3つの異なった出来事について語ります。ピアは自身の改宗について，レベッカは反ポルノグラフィープログラムへの取り組みについて，アネリーゼは教会の新しい礼拝堂の建設への政府の許可を求める断食と祈りについて話します。これらの3つの話には，少なくとも一つの共通点があります。それはそのいずれもが，デンマークで雄々しく立つ教会員の物語だということです。



ピア・ヘントセン

16歳のピアは，デンマーク，コペンハーゲンステーク，フレズレクスベアワードのローレルです。教会員の家庭に生まれ育った母親とともに，幼いころ初等協会に通っていたことを覚えています。でもピアが教会員になったのはわずか1年前のことです。

「両親は教会員なので，幼いころは初等協会に出席していました。でも，バプテスマを受けていなかったのです」とピアは言います。

両親が離婚した後，ピアと二人の兄，そして母親は教会へ行くのをやめました。ピアは8歳になっても，バプテスマを受けませんでしたし，12歳になっても，若い女性に出席しませんでした。約10年間，教会とのかかわりはほとんどありませんでした。ホームティーチャーが来てくれたり，訪問教師が母親を訪ねてくれたりはしていましたが，ヘントセン家が日曜日に家から出ることはありませんでした。

コペンハーゲンにある中央駅

そんなある日，若い女性の指導者がピアに電話をかけ，活動に参加するよう誘いました。「その指導者は，教会に来るようにとの誘いの手紙を書いてくれました。一度行ってみましたが退屈だったので，二度と行きたくないと思いました。けれど宣教師によって，教会に対するわたしの思いは変わりました。」ピアは笑いながらそう言います。

宣教師はピアがまだバプテスマを受けていないことを知って，時間の都合をつけてピアを訪問したのです。初めての訪問のときに，宣教師は短い霊的なメッセージを携えて来てくれました。こうしてメッセージを携えての訪問が数週間続いたある日，宣教師はピアのために，いつもと違うあるものを携えて行くことにしました。宣教師ならだれもが申し出るもの……それは最初のレッスンでした。

「宣教師が1回目のレッスンをしてもよいですかと尋ねたので，わたしは承諾しました。すべてのレッスンを終えるまでにそう長くはかからず，確か数週間程度で終えて，バプテスマを受けることになりました。」時を同じくして，ピアの母親と二人の兄も教会に活発に集うようになりました。

今日（こんにち）ピアは，フレズレクスベアワードの若い男性と若い女性のプログラムを構成する小さなグループの中に溶け込んでいます。教会に入り活発に集うようになるにはある程

コペンハーゲンの埠頭で，ピアと母親は再び教会に活発に集うようになったことに感謝し，ほほえんでいます。

度の慣れが必要でしたが，今では教会は生活の一部になっています。「このワードのローレルはわたし一人です。マイアメイドは二人，ビーハイブも二人です。ワードの若い女性はたったこれだけの人数です」とピアは言い，話すのをやめて教会がピアの生活をどのように変化させたかを真剣に考えます。「わたしの生活はよくなったと思います。」ピアはそう結論づけます。「自分で真実だと理解しているものがあるのですから。」

レベッカ・ペデルセン

山のような封筒にはらなければならない郵便切手の束があります。レベッカはたった一人でそれを行うのです。デンマークのコペンハーゲンステーク，アレロッドワードのローレルであるレベッカは，ポルノグラフィーとその有害な影響に対して明確な考えを持っていて，ポルノグラフィーに対抗する運動に取り組んでいます。けれど，反ポルノグラフィーの文書を封入する作業は単調で，多くの時間を要します。

封筒にあて名書きをしながら，レベッカはデンマークでポルノグラフィーに対抗するために組織されたプログラムへのかかわりについて話します。

「ポルノグラフィーは人の価値観に大きな影響を及ぼしますが，デンマークは自由主義国で，だれもポルノグラフィーを何とも思わなくなっているように見受けられます。でも，ポルノグラフィーは容認すべきものではなく，むしろとんでもないと思うべきものなのです。」レベッカはそう言います。

レベッカの学校である同級生がポルノグラフィーへの反対運動を始め，レベッカに協力を求めてきました。この運動を支持する生徒は政府，とりわけ国の公共テレビ放送を監督する立場にあるデンマーク文化省への発言権を求めて，陳情のための署名を集めています。

「人々がポルノグラフィーを見るのをやめさせることはで

レベッカはデンマークでポルノグラフィーに対抗して立ち上がる決心をしました。「ポルノグラフィーとその影響を嫌悪している人は非常に多いと思います。けれどそのために行動を起こし，意見を言おうとする人は多くありません」とレベッカは言います。

きません。」レベッカは説明を続けます。「けれどわたしたちは，容易に子どもの目に触れるような公共の場からポルノグラフィーが排除されることを望んでいるのです。子どもを早めに寝かせて，そのようないかがわしいテレビ放送を見ないようにさせることはできないのですから。」

若い女性の特質について考え，教会の一員として自分がどうあるべきかについて思い巡らすとき，変革への取り組みにかかわっていけることをレベッカはうれしく思っています。

「だれもが人生において自分の考えを述べる必要があります。自分にとって，特に教会員にとって世界をもっと良い場所にするために，何かに取り組むことは大切なことだと思います。」レベッカはそう語ります。「わたしはそのことをずっと大切にしてきましたが，数か月前に祝福師の祝福を受けたとき，自分が何かに取り組むべきだという思いがいっそう強くなりました。」

レベッカのグループが取り組みを終え，政府に陳情書を送ったとき，2万2,000人以上の署名を集める中で自分の果たした小さな役割についてレベッカは振り返ってみました。また，デンマークをより良い国にしようという自分の決意がこの取り組みによっていかに強められたかを考えました。レベッカはまたほほえみます。レベッカのグループは，1万5,000人分の署名を集めるという当初の目標をはるかに超えていたのです。

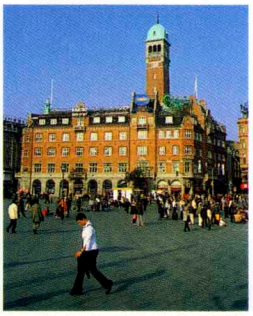
レベッカは，物事は一夜にして変化するものではないことを理解しています。しかし，いつかは始めるべきです。「ポルノグラフィーとその影響を嫌悪している人は非常に多いと思います。」レベッカは言います。「けれどそのために行動を起こし，意見を言おうとする人は多くありません。時には人々への呼びかけが必要なのではないかと思うことがあります。」

ピアやレベッカ，アネリーゼは長く続く福音の伝統の一端を担っています。デニス・スミス作「クリスティナ像」は，王国の建設のために犠牲をささげた19世紀のデンマークの数多くの改宗者を記念するものです。

アネリーゼ・ニールセン

アネリーゼの家は3代にわたる教会員の家庭です。祖父母は何年も前にバプテスマを受けました。父親は教会で育ち，教会員である母と結婚しました。ですからアネリーゼは生まれたときから教会員です。現在フレズレクスベアワードに所属し，同じくビーハイブのピアとともに，ワードの中の数少ない若い女性のメンバーです。

コペンハーゲン市街



現在ワードの集会は賃借の建物で行われています。エレベーターは非常に遅いので，アネリーゼは階段を利用します。3つ続いた階段を上がり切ると最上階に着きます。そこが礼拝堂です。建物は掃除が行き届き，快適ですが，フレズレクスベアワードの集会所として，仮のものであるという感覚はぬぐえないとアネリーゼは言います。アネリーゼは礼拝堂の窓から外を見て指さします。

デンマーク，ヒレレズ，フレズレクスボー城跡

「あれはわたしたちの古い礼拝堂です。」この国で最初に建てられた教会である1ブロック先にある美しいれんが造りの建物を見ながら，アネリーゼは言います。その建物はある理由から現在，空き家になっています。

「あそこに神殿が建てられるんです」とアネリーゼは説明します。

コペンハーゲン神殿は，デンマークとスカンジナビアの教会員のために建設されます。スウェーデンのストックホルム神殿へ行くのに12時間もかかることを思えば，自宅から10分の所に神殿ができることはすばらしい祝福です。アネリーゼは多少の犠牲は払う価値があることを理解しています。

それでもなお，新しい集会所については問題があります。仮の建物の賃貸契約が程なく失効するのです。そこでこの日曜日，フレズレクスベアワードでは断食を行い，教会が

アネリーゼ・ニールセン，
クリステル・ペデルセン姉妹，
アネリーゼの妹クリステルをはじめとする
フレズレクスベアワードの会員は，
新しい集会所のために
断食と祈りをささげました。

購入した土地への建物の建築に対して政府の許可が得られるように祈ることになりました。アネリーゼもワードのほかの会員とともに，この特別な目的のための断食と祈りに加わっています。

その日の朝，アネリーゼはおなかがすいていると言いました。「けれど断食すると神様を身近に感じ，より謙遜（けんそん）な気持ちになることができます」アネリーゼはそう語ります。「断食をすることはそれほど大きな犠牲だとは思いません。それにもしワードのみんなが同じ目的のために祈れば，天のお父様がわたしたちを助けてくださると信じています。」

聖餐（せいさん）会が終わると，断食もそろそろ終わりです。アネリーゼは食事を取るために家へ急いだりはしません。ワードの会員で96歳になるクリステル・ペデルセンの腕を取り，歩いて戸口から出て行きます。ペデルセン姉妹は1958年に教会に入り，日曜学校ではアネリーゼの父親の教師をしていました。毎月アネリーゼはペデルセン姉妹を訪問するための時間を取るようにしているため，姉妹のことをもっとよく理解するようになりました。

「ペデルセン姉妹と話すのが楽しみです。家族の中でたった一人の教会員である彼女は，とても強い女性だと思います。ご主人は教会に入ることはありませんでしたし，姉妹がバプテスマを受けたときには子どもたちはもうすでに大きくなっていました。」アネリーゼの説明は続きます。「ペデルセン姉妹は96歳ですが，今も毎週日曜日には教会に集います。」

「ペデルセン姉妹のように天のお父様に近づいている人を尊敬します。」アネリーゼは付け加えます。「そして断食などを行うとき，わたしも天のお父様に近づくことができます。」

コペンハーゲン市街

コペンハーゲンには，デンマークの彫刻家ベルテル・トルバルセンの手に成る有名なイエス・キリスト像，「クリスタス」の原物が立っています。同じ町コペンハーゲンに，あらゆる行いにおいて救い主の模範に従う末日聖徒もまた，雄々しく立っているのです。□

編集者注――アネリーゼたちが断食をささげてから数か月後，教会はフレズレクスベアワードへの新しい建物の建築を許可する政府からの通知を受けました。

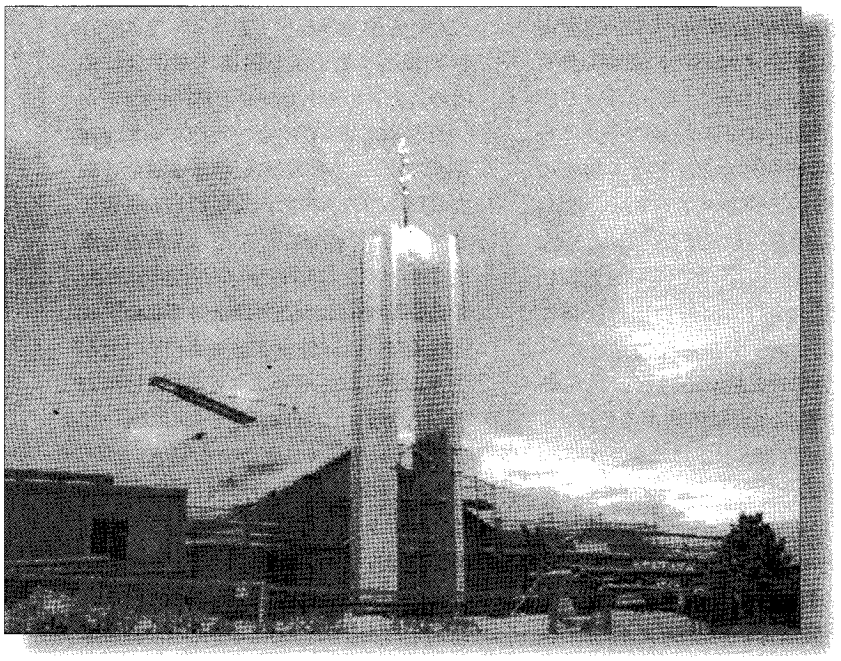
デンマーク東海岸

『リアホナ』25ページは，ローカルページと「フレンズ」の後に続きます。

チャーチ・ニュース

新しくモロナイ像が据えつけられたドイツ・フライベルク神殿

ユージン・フリードマン長老，クレア・フリードマン姉妹



ドイツ・フライベルク神殿の塔には現在，天使モロナイ像がその頂に据えられて，輝きを放っている。
写真/ハンノ・ルシン

その日，ドイツ・フライベルク地方は夜通しで大雪が降っていた。前神殿長のマグナス・R・メーサーは夫人にこう語った。「モロナイが神殿に据えつけられる明日は太陽が顔を見せるよ。」ドイツ・フライベルク神殿で進められている改築計画では，新たに天使モロナイ像が据えつけられることになっていた。

モロナイ像が神殿の塔の最上部に据えつけられた2001年12月20日，前神殿長の言葉どおりに厚い雲が分かれて，青空が現れ，そして太陽の光がさしていた。自分たちの夢と祈りが実現する様子を一目見ようと集まった聖徒たちの間に静けさと敬虔（けいけん）な思いが満ちていたことは明らかだった。

ドイツ・フライベルク神殿は1983年から1985年にかけて，旧ドイツ民主主義共和国に建設された。当時，モロナイ像を設計に含めることは許可されなかった。

「特別な神殿でしたが，政府は天使を据えつけることを許可してくれませんでした」とゲルハルド・グリューネワルド神殿長は語った。「政府は教会を受け入れてはくれましたが，心底歓迎していたわけではありませんでした。けれども，神殿の建築を許可されただけでもわたしたちにとっては大きな特権でした。」

神殿は現在改築中である。建物は東に向かって拡張されるが，原設計はそのまま踏襲される。この増築によって，規模は以前の建物の約2倍となる。

新たに，ロビー待合室，メイトロン／花嫁控え室，神殿長事務室が付け加えられる。また，12頭の牛を持つ新しい設計のバプテスマフォント，更衣室，儀式執行室，障害を持つ参入者用の施設が改善される。完成は2002年夏の予定である。

「拡張と改築，それに天使モロナイ像の設置によってこの神殿は偉大な象徴となると思います」と，七十人のD・リー・トブラー長老は語る。ヨーロッパ中央地域会長会会長を務めるトブラー長老はモロナイ像を設置する式典を管理した。「それは，戦争前，戦争中，そして戦後の長い年月，信仰を守り通すことが決して容易でなかった時代を生き抜いてきた会員たちの信仰の象徴です。」

大管長会のトーマス・S・モンソン第一副管長はかつてこのように説明した。

「〔1985年に〕奉献するころには，この珍しい建物に国際的な報道機関の注目が集まり，『どのよう

にして』あるいは『なぜ』という質問が頻繁に寄せられました。これは一般公開の期間中にとりわけ顕著に見られ，8万9,872人の人が神殿を訪れました。時には，雨の中を3時間も待たされる人々もいました。しかしためらう人はいませんでした。そこにいたすべての人が神の宮を見たのです。

奉献式では，ゴードン・B・ヒンクレー副管長が奉献の祈りをささげ，賛美の歌，真実の証(あかし)，感謝の涙と祈りが，この歴史的な行事を飾りました。『どのようにして』あるいは『なぜ』という質問に答えるには，その国の教会員の信仰や献身，愛について知る必要があります。当時，会員数は5,000人に満たなかったのですが，活発さでは世界中のどこにも負けませんでした。」(「イエスを愛する人々」『リアホナ』1999年3月号，6)

神殿が完成したとき，会員たちは神の宮の奇跡を経験しようと，言葉に表せないほどの喜びを胸に訪れた。フライベルクの住民までもが「わたしたちの神殿」と言うほどだった。神殿はこの町に新たな希望を与えたのである。

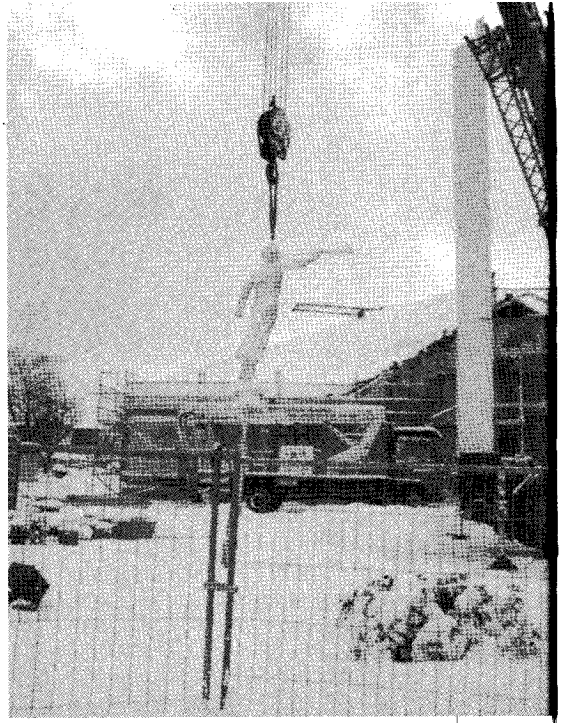
神殿の改装が始まったとき，地元の住民は動揺した。「わたしたちの神殿をどうするのですか」と彼らは尋ねた。「塔はどこに建てられるのですか。」

メーサー神殿長は地元住民を集めてこう説明した。「もっと美しくなります。敷地が広げられ，まるで公園のようになります。」こうして，住民は満足して家路に就いたのである。

天使モロナイ像を設置する式典に集まった人々の中にエリック・ツァーソンがいた。彼がバプテスマを受けたのは76年前である。妻とともに様子を眺めていた彼は，モロナイ像の設置に喜びを表して言った。「世界中の神殿に見られる象徴がついにここにも付けられるのです。神殿が建てられたことは奇跡でした。これからは，この特別な象徴を持つことができます。バプテスマフォントには牛が置かれます。これはわたしたちにとってほんとうに特別なことなのです。」

グリューネワルド神殿長は話の中で，遠くはウクライナやロシアからフライベルクを訪れた聖徒たちについて触れている。一部の会員たちは片道52時間バスに揺られてやって来た。「彼らは神のおられない生活，聖書のない生活を経験してきました。今彼らはその強い信仰によって神殿まで来たのです」と神殿長は語った。

フライベルク神殿では9つの言語で儀式が執行され，幅広い言語に精通している儀式執行者たちがここで奉仕している。自身も8か国語を話すグリューネワルド神殿長はこう語った。「わたしたちはいつの日か，自分の国に神殿が建てられ，そこで奉仕するときのために儀式執行者を訓練しているのです。」□



ドイツ・フライベルク神殿は現在改築中であり，完成時には現在の約2倍の規模となる。
写真/ハンノ・ルシン

首相，ニュージーランド神殿のイルミネーションを点灯

マリリン・レオナルド

先日，ニュージーランド・ハミルトン神殿訪問者センターの年次クリスマスイルミネーションおよびコンサートが催された。その賓客として，ニュージーランド首相であるヘレン・クラーク陛下が出席した。

国家の高官が神殿のクリスマスイルミネーションを点灯したのは，前年に引き続き，2001年のクリスマスで2年目である。12月1日から24日までの毎晩，クリスマス音楽および賛美歌のコンサート

ニュージーランド・ハミルトン神殿訪問者センターのクリスマスイルミネーション点灯式の特別招待客。(左から)マリリン・レオナルド姉妹，シドニー・シェパード，ベン・ヒッポライト，ヘレン・クラーク首相，トニー・オズボーン，テッド・ムートン，レオ・D・レオナルド長老。
写真/ゲリー・ジョーン

が催され，その後に点灯式が行われた。クラーク首相は12月20日にイルミネーションを点灯した。

招待客としてはほかに，ニュージーランド経済界の著名人，ラジオやテレビに出演しているタレント，スポーツ選手，そして地元の様々な教会の指導者が招かれた。その中には，ニュージーランド野党の国民党指導者のビル・イングリッシュ，ハミルトンのカトリック司教のデニス・ブラウン師，スカッシュで世界ランキング2位であり，教会員のレイラニ・ジョイス，「シルバーファーン・ネットボール」で活躍中のモニカ・レガット，そして著名な事業家であるジョン・ギャラガーらも含まれていた。

訪問者センターのディレクターを務めるレオ・D・レオナルドは，このように語った。「首相がクリスマスについてのメッセージを短く述べ，イルミネーションが点灯された後，特別招待客らは訪問者センターを案内され，教会についての説明を受けました。」

レオナルド長老によれば，招待客は皆，点灯式に出席し，クリスマスについてのメッセージを述べることに意欲的であった。ビル・イングリッシュは後にハミルトン・ロータリー・クラブの会合で，教会との建設的な経験について話し，教会が家族とイエス・キリストに重点を置いていることを説明した。

イングリッシュ氏は次のように語った。「非常に特別な，胸躍る経験でした。人種や宗教に関係なく，ニュージーランド中，そして世界中から人々が集まっていました。皆イエス・キリストの誕生を祝うという目的において一つでした。わたしたちもそれを見習うべきです。」

ブラウン司教は訪問後間もなく，市の指導者と会い，末日聖徒の活動に対して支持の意を示した。司教はこう勧めた。「ぜひ家族を連れて，イルミネーションを見に行き，ツアーに参加してください。」

クリスマスイブの日まで，国中の様々な聖歌隊が歌った。イルミネーションの点灯ならびに訪問者センターのツアーは引き続き，2002年1月4日まで毎晩行われた。□

『チャーチニューズ』(*Church News*)2001年12月29日付けの記事を基に編集。

9月11日の犠牲者をたたえるオリンピック聖火

リー・デビッドソン

オリンピック聖火リレーにおいて，ソルトレーク・シティーでの開会式の走者を除けば，リズ・ハウエルは2001年12月22日，恐らく最も誉れある1区間を走った。ハウエル姉妹が聖火ランナーに選ばれたのは，2001年9月11日国防総省で亡くなった夫ブレイディーをたたえるためであった。彼女はホワイトハウスに到着するコースを走り，聖火をジョージ・W・ブッシュ大統領に手渡した。その際大統領は彼女を抱き寄せ，頬に軽くキスをした。

「彼女が聖火リレーに参加したことは，9月11日以降多くの遺族が示した強さを表しています。」ワシントンD.C.での聖火ランナー全員が集ったオリンピック祝賀式典の席で，ブッシュ大統領はそのように述べた。

ブッシュ大統領はハウエル姉妹のトーチを用いて聖火台を点火させた。聖火台はブッシュ大統領の演説中燃え続けていた。後に大統領は，エリック・ジョーンズの聖火トーチを点火した。彼は国防総省および世界貿易センターで救助活動を支援した救助隊員であった。

ブッシュ大統領は，祖国のために犠牲を払ったハウエル姉妹をたたえた。「リズ・ハウエルは国防総省へのテロ攻撃で夫のブレイディーを亡くしました。ブレイディーは，国防総省で祖国のために働くという夢を実現していました。リズはブレイディーがその夢をかなえるのを後押しするために，郷里のユタを離れて来ました。リズ，我々の国家はこのクリ

ジョージ・W・ブッシュ大統領にオリンピック聖火を渡すリズ・ハウエル。
ハウエル姉妹の夫ブレイディーは2001年9月11日，国防総省へのテロ攻撃で亡くなった。
写真／リック・バウマー，AP通信。

スマスの時節にあなたとともに祈ります。我々はあなたとその家族に平安と慰めがあるよう祈ります。」

享年26歳のブレイディー・ハウエルはアイダホ州シュガーシティー出身で，スペイン・ラスパルマス伝道部で伝道した帰還宣教師であった。テロリストがハイジャックした飛行機を施設に激突させたとき，彼は国防総省の海軍情報部課長の研修生だった。ハウエル姉妹はユタ州下院議員ジム・ハンセンが議長を務める住宅供給委員会の助手として働いている。ハウエル姉妹はバージニア州マウントバーノンステーク，クリスタルシティーワードの会員である。□

『チャーチニューズ』(*Church News*) 2001年12月29日付けの記事を基に編集。

モスクの完成記念式典に出席したオークス長老

十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老は2001年11月3日合衆国カリフォルニア州ガーデングローブに完成したマジド・アル・ラーマンモスクの完成記念式典に参列した。オークス長老とともに，北アメリカ西地域会長会会長で七十人のディーター・F・ウークトドルフ長老も参列した。このモスクは地元のイスラム教信者の礼拝堂として使用される。完成記念式典において，教会指導者は「家族」と名付けられた彫像をモスクのディレクターであるムサムニ・H・シディキ氏に贈呈した。□

『チャーチニューズ』(*Church News*)の厚意により，2001年12月22日付けの記事より掲載。

マジド・アル・ラーマンモスクのディレクター，ムサムニ・H・シディキ氏に彫像を贈呈するダリン・H・オークス長老(右から2人目)とディーター・F・ウークトドルフ長老(左)。そのほか，モスク役員のファワド・ヤコブ氏(右)とハイサム・ブンダクジ氏。

写真／『チャーチニューズ』(*Church News*) の厚意により掲載。

違いを生み出す教会員

成功する末日聖徒の指揮者

サウスカロライナ州チャールストンステーク，マウントプレザントワードの会員であるバンディット・アングラングシー兄弟は，チャールストン交響楽団の準指揮者として高い評価を受けている。

タイ出身のアングラングシー兄弟は，ユタ交響楽団の準指揮者としてソルトレークに赴任した後，2000年4月に教会員となった。アングラングシー兄弟はユタ州滞在中，タイで伝道したメアリー・ジェーン・ジョーンズ姉妹とも出会い，後にソルトレーク神殿で結婚し，結び固めを受けた。アングラングシー姉妹は昨年12月の公演で，ソプラノ独唱者としてチャールストン交響楽団に参加している。

アングラングシー兄弟は交響曲およびオペラを合衆国各地で上演し，オーストラリア，オーストリア，チェコ共和国，イタリア，メキシコ，ポルトガル，グルジア共和国，ロシアで客演指揮者として出演している。

バンディット・アングラングシー兄弟はユタ交響楽団の準指揮者として赴任中に教会員となった。

写真／ユタ交響楽団の厚意により掲載。

衣類2,000着以上を寄付したステーク

アリゾナ州ピマステークの姉妹たちは，2,000着以上の衣類を作り，人道的奉仕センターに寄付した。

アリゾナ州ピマステーク扶助協会の姉妹たちは，教会の人道的奉仕センターが女児向けの衣服を常に必要としていることを聞きつけると，2001年中に2001着の衣服を集めるという目標を設定した。扶助協会の姉妹たちは，状態の良い古着を寄付するとともに，新品の洋服を縫うための生地と，その縫製に費やす時間をもささげた。年末には目標を100着以上も多く達成した。衣類は人道的援助センターおよびデゼレト産業に寄付された。

オーストラリアの末日聖徒が平和賞を受賞

オーストラリアの教会員が，同国における先住民と非先住民間の理解と和解の促進に努めたことに対し，2001年10月，パックス・クリスティ国際平和賞を受賞した。

オーストラリア・ニューサウスウェールズ・アルベリー地方部アルベリー支部のエディー・ニーボーン兄弟は，オーストラリア先住民のパンガンガラン族の子孫である。ニーボーン兄弟は約20年間，同先住民の文化，歴史，芸術に関する講演をオーストラリアの若者に向けて実施し，家系が異なる人々の間に社会意識が強まり，お互いが受け入れられるよう努めてきた。ニーボーン兄弟はさらに，行政，医療，警察および軍隊に携わる人々の教育に役立つよう，オーストラリア先住民の文化に関する執筆も頻繁に行っている。

パックス・クリスティ・インターナショナルは，カトリックの非営利，非政府・平

和運動組織で，30か国を代表し，様々な宗派の会員約6万人を擁している。

消火に当たるオーストラリアの会員
サラ・ジェーン・ウィーバー

2001年12月25日，激しく燃えさかる炎が，オーストラリア・シドニーの外れにあるトレーシー・マーラーの家まで迫っていた。消防士たちは，オーストラリア・ペンリスステーク，リッチモンドワードの会員であるマーラー家族が，家屋を失うと予測していた。しかし，その予想に反して14日間教会員たちが消火活動に当たり，低木林地を取り除き，家具を移動し，水を運び，マーラー家やほかの教会員，地域の人々のために食事を作った。

「兄弟姉妹は家々を守るため，地方の山火事消防隊と協力して働きました」とマーラー姉妹は言った。「ワード内で危険にさらされていた多くの地所のうち，失われたのは納屋一つだけでした。」

ペンリスステーク会長会の第一副会長であるランドール・ハワード兄弟は，24人を超えるステークの教会員が，山火事消防隊と協力し，交代で6日間，休みなしに働いたと言った。「聖徒たちは力を合わせて働きました」とハワード兄弟は言った。そして，このように付け加えた。「地元の役人や消防隊は，わたしたちがこのような長期間にわたってこれほど強い支援グループを結成できたことに，きっと驚いていたと思います。」

末日聖徒のボランティアは，たった1本の電話で集まった，とハワード副会長は言った。「彼らは休暇の予定を延期しましが，それはわたしたちが要請したからではなく，彼らが自発的にそうしたからです。」ハワード兄弟によれば，最も重要なのは，シドニーの会員たちは火災が治まるよう，1月6日に祈り，断食をしたことだ。翌日雨が降り，消防隊の活動に役立った。

結局，100軒を超える家屋が焼失し，数千人が避難を余儀なくされたこの火事で，オーストラリアの教会員のうち二家族が家屋を焼失した。火災が起こった周辺地域の集会所二つが緊急用として開放され，家屋を焼失した会員を援助するため，地元の福祉関連の資材が使われた。

『チャーチニューズ』(*Church News*)2002年1月12日付けの記事を基に編集。

「命の屋根」を作る青少年

レユニオン島セントデニス地方部の若い男性，若い女性，およびその指導者らが2001年秋，地元の奉仕活動に参加するよう招かれた。教会の青少年が時間と労力を提供し，「命の屋根」と称される地元の団体を支援するよう要請を受けるのは年間で2度目となる。同団体の目的は，住居や仕事のない人々に住む場所を提供し，社会に復帰できるよう援助することである。

インド洋上，マダガスカル民主共和国の東部に位置するレユニオン島に在住する青少年らは，家々の掃除とペンキ塗りで1日を過ごした。

「キリストの模範に従って，隣人を助けることができ，光栄に思います」と参加者の一人は言った。

『チャーチニューズ』(*Church News*)2001年12月22日付けの記事を基に編集。

家族歴史の大会を後援するステーク

合衆国ニュージャージー州モリスタウンステークの広報評議会は2001年11月10日，周辺地域への友情と奉仕の精神に基づき，「わたしたちの先祖を探して」と題した終日の家族歴史大会を後援した。同大会には，教会，地元，周辺の州から約300人が出席，モリスタウン町長のジョン・J・ディレーニー氏，ワトウィッツ・モリス郡区長，およびニュージャージー州モリスタウンステークのリチャード・マイヤーズ会長らが歓迎の言葉を述べた。出席者の半数以上がほかの宗教の信者であった。

同大会では，家族歴史を調査する初級，中級，上級者を対象とした36の講座が設けられた。

『チャーチニューズ』(*Church News*)2002年1月12日付けの記事を基に編集。

アリゾナ州最高裁長官に任命された教会員
ニコル・R・グラブス

合衆国アリゾナ州最高裁判所は先ごろ，チャールズ・E・ジョーンズ兄弟を同州の最高裁長官に任命した。アリゾナ州スコッツデール・キャメルバックステーク，アルカディアワードの会員であるジョーンズ兄弟は，「国民に対し誠実である」という裁判所の厳粛な義務を果たし，同州内の向上に寄与したいと語った。

ジョーンズ兄弟は30年間弁護士を務め，アリゾナ州最高裁判所では6年間勤務していた。ジョーンズ兄弟は，宗教は間違いなく法曹界を含む自分の人生すべての側面において役割を果たしていると言う。

「宗教への信仰は日々の生活において重要な役割を果たしています」とジョーンズ兄弟は説明する。

ジョーンズ兄弟は，教会は自分の人生において不変のものであると付け加える。「教会の教義，原則，そしてわたしの証(あかし)が頭から離れることはありません」とジョーンズ兄弟は言う。「ジョセフ・スミスのことと，ジョセフ・スミスがパルマイラで経験したことを疑ったことは一瞬たりともないと思います。パルマイラでの経験は確かに起こったことです。疑いの余地はありません。」

ジョーンズ兄弟はカナダのアルバータ州レスブリッジで生まれ育った。1959年にブリガム・ヤング大学で学士号を取得，アン・アンダーソン・ジョーンズ夫人ともそこで出会った。法学位は1962年にスタンフォード大学で取得した。ジョーンズ兄弟と姉妹の間には7人の子どもと22人の孫がいる。

『チャーチニューズ』(*Church News*)2002年1月12日付けの記事を基に編集。

妊婦向けの小包を作り，寄付した姉妹たち

アンナ・カーリナ・ロトは，2001年春にフィンランド・タンペレステーク，タンペレワードの扶助協会会長に召されると，他人への奉仕とはワードの姉妹たちの負担を軽くする一つの方法であるこ

とに気づいた。ロト姉妹はワードの姉妹たちに，ロシアのカレリア共和国にある産科医院であるピトカランタ病院のために，妊婦の役に立つような小包を作る手助けを要請した。老いも若きも，末日聖徒とほかの宗派の人々がこの計画のために一体となった。

姉妹たちはブランケットを40枚編むという目標から始めた。1,200枚以上のブロックが出来上がり，編み合わされて毛布になった。毛布全体を一人で編み，縫い合わせた人もいた。糸を提供することで協力した人々もいた。結局58枚の毛布が完成した。参加者はさらに，自宅，友人，近所の人々，会社，中古市などから入手した乳児用の衣類，おむつ，新生児用品を集めた。

この企画が始まる直前に改宗して教会員となったクリスティナ・カリオマキ姉妹が最も熱心な参加者だった。クリスティナ姉妹は合計100枚のブロックを編んだ。この企画のおかげで教会と扶助協会に友達ができた。「このようにたくさんの人々がかかわる企画に参加できてほんとうによかったです」とクリスティナ姉妹は言った。

他宗派の会員を含む少なくとも50人の女性が小包に物を詰めようと集まった。タンペレワード扶助協会書記のマリタ・コルペラ姉妹は「ワードの体育館に足を踏み入れたときは，驚きであおむけに倒れそうになりました。体育館が物であふれていたからです。わたしたちも奇跡を起こせるのだと実感しました。」

アンナスティーナ・ルースカネン姉妹は若い女性から扶助協会に移ってきたばかりだった。この企画に参加した後，「姉妹たちの輪に自分も入れたと思いました」とルースカネン姉妹は言った。

49個の小包にはそれぞれ幼児用の衣類，おむつ，その他の新生児用品が詰められ，手編みブランケットとロシア語の手紙が添えられた。手紙には同企画に参加した人々がロシアの友に何か手作りの品を送りたいと願ったことが記された。

「この小包にはわたしたちの愛と友情が表れていました」とコルペラ姉妹は言った。「手編みのブランケットはある意味で扶助協会を象徴するものです。編物の断片がつながれたように，わたしたちもこの企画の間に一体となりました。わたしたちは天の御父によって織りなされたパッチワークの一片でした。この小包はわたしたちの友情と愛の象徴だったのです。」□

隣接地域であるロシアのカレリア共和国にある産婦人科医院あてに，妊婦への小包を用意するフィンランド共和国タンペレステーク・タンペレワードの姉妹たち。
写真／トゥイヤ・ピロネンの厚意により掲載。

ロシアの孤児支援のために再び結束する友情

ショーン・D・スタール

ロシアでの奉仕を終えた二人の帰還宣教師が，「ロシアへ愛を込めて」と呼ばれる非営利団体運営のために再会した。彼らの目的は，物資を寄付し，奉仕を提供することによって，ロシアの孤児の生活を改善することである。

「孤児院の子どもたちには，時折与えられる愛以上のものが必要です。」組織の創立者であり，会長を務めるタイソン・バウアーは言う。

ブラッド・クレーマーとともにバウアー兄弟は非営利慈善事業への協力を要請するために働いた。ユタ州プロボのブリガム・ヤング大学の学生として，プロモーションビデオ作成用ビデオカメラとコンピューターに私財を投じ，ビデオ完成に向けて夜を徹して働いた。

多くの試練に直面したが，二人は着実に前進を続けた。家族から幾ばくかの経済的な支援を受け，2000年12月に二人はロシアに戻った。ロシア滞在中に，二人は孤児院の院長数人との面接を行い，現場で必要とされているものについて調査した。その結果二つの結論を得た。一つ目は，孤児院の多くは，食糧，医薬品，衣類など，必需品の補給を必要としているということ，二つ目は技術や道徳的価値観を培う訓練も必要であるということである。

タイソン・バウアー兄弟は2000年12月，ロシアの孤児院に子どもたちを訪ねた。バウアー兄弟が数人の帰還宣教師とともに始めた慈善組織はロシアの孤児を支援するための基金を募っている。
写真／タイソン・バウアーの厚意により掲載。

「統計によれば，孤児院の子どもたちの約85パーセントは，普通の職業に就く機会も高等教育を受ける機会もありません」と，クレーマー兄弟は言う。「18歳で施設を出て行く孤児の多くが，薬物や，犯罪，自殺へと向かいます。」

「ロシアへ愛を込めて」は現在，ブレーディー・タナーとキャリー・ルイスを含む4人の友人が管理を行っている。彼らは毎

年2回ロシアへの旅行を主催し，そこで物資を供給し，奉仕を行っている。

この組織はまた，建物を改装し，そこで貿易に関する技能を指導している。孤児院の院長から建物を改装したいという意向を聞くと，改装費用のための基金を募り，地元の教会員を雇って，改装工事を監督させた。

孤児院の院長は当初，この組織が宗教上の宣伝活動の推進を目的としたものであると考え，取り組みに対して慎重な態度だった。しかし，次第に組織の誠意を理解していった院長は，教会について学び始め，後にバプテスマを受けるに至った。

これらすべてのことを成し終えた後も，彼らはもっと多くのことを行おうとした。「わたしは文字どおり3人の子どもを抱き抱えていましたものの，すべての子どもを十分に抱き締めることはできませんでした」とルイス姉妹は言う。そして，早朝6時に孤児院のあるペンザに到着したとき，ニュース番組のスタッフが，駅でルイス姉妹を歓待してくれた模様を語った。

「これまでロシアに行ったことはありませんでした。でも，初めて訪れたその晩，わたしの写真が地元のテレビ番組で紹介されました。」ルイス姉妹はそう語った。

「子どもたちが成長し，健康に恵まれ，人生を生き抜くうえでより良い備えができるよう願っています。」バウアー兄弟は語る。「子どもたちは自分たちが受けた純粋な愛を思い出し，後に教会について尋ねるでしょう。」□

『チャーチニュース』(*Church News*)2001年12月22日付けの記事を基に編集

「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分 2002年5月

以下は，初等協会の指導者が『リアホナ』2002年5月号に掲載の「分かち合いの時間」とともに使用できる「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分である。これらのアイデアに対応するレッスン，指示，活動は本号「フレンド」4，5ページ「あなたがたはかみのみやである」を参照する。

1.体の部分を2組ずつ作る。頭，胴，腕，脚，手，足，目，鼻，口，髪など。体に良い，あるいは悪い様々な食べ物，飲み物，そのほかの物資を雑誌から切り抜き(もしくは自分で絵を描き)，箱に入れる。知恵の言葉に従うときに約束されている祝福を復習するために，教義と聖約89：18－21を子どもたちと読む。初等協会を二つのグループに分ける。子どもたちに順番に箱から絵を選ばせる。それが体に良いものであれば，そのグループの紙人形に体の一部分を一つ付け足すようにさせる。もし悪いものであれば，紙人形から体の一部分を一つ取らせる。どちらかのグループが体を完成させるまで続ける。

2.わたしたちが自分の体を神殿のように扱えるようにする原則は，『わたしの福音の標準』(フレンド，1999年4月号，8－9)によって思い起こすことができる。「わたしはスパイ」ボトルを作って原則を復習する。(あらかじめ家で一つ作っておいてもよい。)小型で空のプラスチックのボトルに鳥のえさ(または麦，米，小さな豆)を，上から3－5センチのところまで詰める。標準の一つに関連した言葉を書いたカードと小さな絵を入れる。(紙の両面に同じ言葉を書く。絵も両面に写す。)ふたを閉めてから振る。ペットボトルを寝かせて転がすと，言葉のカードと絵が表面に現れてくる。各クラスに「わたしはスパイ」ボトルを作る材料を配る。各クラスに標準を一つ割り当て，その標準に関連した絵や言葉のカードを作成させる。例――「わたしは安息日に，天父を身近に感じられることを行います」という標準に従うために，子どもたちは「教会に出席する」「聖文を読む」「病気の人を見舞う」「祖父母を訪問する」「宣教師に手紙を書くなどの言葉を書き，教会堂，聖餐(せいさん)のトレイ，モルモン書などの絵を描くことができる。ペットボトルに入れたカードと絵の枚数を各クラスに数えさせ，接着テープにその数を書かせ，ペットボトルの底にはらせる。30秒の時間制限で，子どもたちが何枚のカードと絵を見つけ出すことができるか競わせる。子どもたちがペットボトルを交換し合い，繰り返す間，標準を強化する歌を歌う。各クラスは新たにボトルを受け取る度に，それがどの標準を表しているか彼らに当てさせる。

3.「天父によろこばれる音楽だけを聞〔く〕」(『わたしの福音の標準』フレンド，1999年4月号，8－9参照)ことで，思いを清く保つことができる。伴奏者に子どもの知らない曲を数曲か弾いてもらい，子どもたちが音楽による影響を理解できるよう助ける。それぞれの曲を聴いて，どのような気持ちを感じたか，またその理由を子どもに尋ねる。たとえ歌詞が分からなくても，速度や音量や旋律で様々な感情をかき立てられることを説明する。座って瞑想(めいそう)したくなる曲もあれば，踊ったり行進したりしたくなる曲もある。音楽で天父が喜ばれるものについて話し合う。適切な歌詞，福音の原則に相反しない，もしくは不道徳な行いを提案しないメッセージ，御霊(みたま)を退けない速度，音量，旋律など。歌のメッセージがどのように心に残るかを子どもたちに示すために，音楽ゲームをする。子どもたちのよく知っている歌を用い，10曲を言い当てられるようチャレンジする。歌の最初の音5つをハミングするか，伴奏者に弾いてもらう。子どもたちが題名を言い当てられない場合，今度は音を一つ足してハミングするかピアノを弾く。子どもたちが言い当てるまで続ける。言い当てるまで，音を幾つ使ったかを黒板に書く。そしてその歌を歌う。ほかの曲も同様にする。歌詞は心に残るので，良い音楽だけを聴くようにすべきであることを説明する。子どもたちに信仰箇条第13条の最後の文，つまり「どのようなことでも，徳高いこと，好ましいこと，あるいは誉あることや称賛に値することがあれば，わたしたちはこれらのことを尋ね求めるものである」と五線譜に書かせる。この五線譜を家族に見せ，良い音楽を選ぶことを思い出せるよう家に飾らせる。□

News Box May, 2002

障害者のための国際会議に教会が協力

～仙台伝道部の宣教師たちもボランティアで参加～

知的障害者と家族らの支援を目指す国際会議「第12回国際加齢・知的障害・クオリティオブライフ円卓会議」が3月13日から15日までの3日間，郡山市の「ビッグパレットふくしま」で開催された。この国際会議において郡山，仙台，山形，会津若松，いわき，福島で働く宣教師たちが通訳をはじめ受付や会場整備などの場で運営に協力した。

また同円卓会議では，アジア北地域広報ディレクターのM・トム・清水長老夫妻によるソルトレークの教会と地域における福祉活動についての発表もなされ，14日には来賓の寛仁親王殿下によるご基調講演も行われた。郡山市に隣接する三春町では，同町出身であり日本人として初めて末日聖徒イエス・キリスト教会の会員となったと伝えられている勝沼富造兄弟の貢献とその縁から，伊藤 寛町長により外国からの参加者のための特別な歓迎会も催された。歓迎会ではボランティアグループと教会を代表して，アジア北地域会長会のホールストロム会長によるあいさつが行われた。また，グレームズ伝道部長や宣教師による音楽の発表は多くの参加者の心に残った。それは，国際会議がボランティアの精神と友愛の気持ちで支えられていることを印象づけるものであった。□

国際会議に参加した人々。左から5人目がドナルド・L・ホールストロム会長，右から4人目は寛仁親王殿下。

創造と信仰

わが家の伝統 Legacy

家族を守る盾を築く

～インターネットの有害情報をカットするソフトウェアを開発～

松山地方部／新居浜支部　真鍋家族

「子どもたちがインターネットをするようになって，どんな情報を見ることになるか不安でした。好きなようにインターネットを使わせていたら，子どもたちに悪い影響が及ぶと思いました。教会の指導者もインターネットの弊害について度々話しています。有害な情報をシャットアウトするようなソフトを探しましたが，なかなか納得できるものはありません。ですから，あったら良いなと思われるソフトを自分で作り上げてしまいました。」

松山地方部，新居浜支部に所属する真鍋道人（まなべみちと）兄弟は，コンピューターのシステムエンジニアとして個人で会社を経営する傍ら，未成年者にとって有害な情報を含むホームページを表示できなくしたり，不適切であると判断したページを個別に登録して表示できなくすることが可能な「ファミリーガード」と呼ばれるソフトを開発した。

有害なサイトから子どもたちを守る

「自分たちの家庭で使いたいという気持ちからスタートしました」と，真鍋兄弟は開発に至った発端を語る。「世の中に氾濫（はんらん）する悪質な情報を見て，子どもたちのために何かとなくてはならないと常々感じていたからです。暴力的な情報，性的な情報などの有害なサイトに加え，末日聖徒を批判する，いわゆる反（アンチ）モルモンサイトも勝手に入り込めないように設定できないかと工夫しました。」

仕事柄，毎日のようにコンピューターと向き合う真鍋夫妻が憂慮していたのは，世の中の性道徳の乱れに家族としてどのように対処していくかということだった。「パソコンに親しんでいる子どもたちが，無防備のままインターネットの世界へ入り込んでいくのは危険です。子どもたちがインターネットで何をしているかに無関心な人々もいますが，インターネットの現状を知っているならば放任はできないはずです。わいせつな情報へと導く技術もとても巧妙にできています。一見，穏やかな家庭だと親が思い込んでいても，そうした情報が知らないうちに家庭の中に入り込んでいることもあり得ます。」こう真鍋兄弟

真鍋兄弟の開発した『ファミリーガード』のパッケージ。

は，現在のインターネットの暗部について警鐘を鳴らす。子どもたちを取り巻く環境ではインターネットを通じ，悪質な情報が良い情報を急速に凌駕しつつある。「インターネットはもろ刃の剣です。子どもの判断に任せて自由に使わせることは，危険な所に一人で旅立たせているのと同じです。その危険性については総大会でも預言者が警告しています」と真鍋兄弟は危機感を込めて語る。

信仰によって見いだされる才能

「このソフトを制作するに当たってしばしば祈ることもありました。祈りながら作っていったという方が適当かもしれません。仕事の空いた時間を見つけては制作に携わっていたので，最初は絶対に完成までこぎ着けられないと思っていたんです。」そんな真鍋兄弟の予想を翻し，初期のバージョンは驚くほど短期間で完成した。「自分の力だけではなかったと感じています」と真鍋兄弟は振り返る。

真鍋兄弟は仕事が行き詰まったときには聖文を読むことにしている。「霊的に低い状態では作業は進みません。良い仕事をするためには，霊的にも高くあるべきだと思います。仕事も教会の奉仕も突き詰めていくと同じです。仕事は仕事，教会は教会という発想ではなく，良い仕事をするために，教会で学んだことの多くを仕事でも活用できると考えるべきです。人に純粋な気持ちで接する態度なども仕事の場に生かせるはずです。」

●光（ひかり/長女）

●玲雄（れお/長男）

●喜代美（きよみ/お母さん）

真鍋兄弟は完成した自分の「作品」をいとおしんで評価する。「自分の才能を生かして神様の業にかかわることを何かしなくてはいけないと常々考えていました。そのため，このソフトが完成したときはほんとうにうれしかったです。今までにもたくさんの製品を作り上げてきましたが，これは自分の信仰が現れた作品だと思いました。」また，この作品を通して，神様から与えられた賜物，人間の潜在的な能力について感じるところもあった。「人が物事に対して才能を発揮できるかどうかは，まずそのことに興味を持ち続けられるかどうか，次に自分の可能性を信じ続けられるかどうかという2点にかかっています。」真鍋流に言えば，信仰が才能の原点なのである。

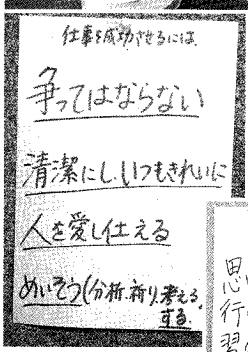
幸せな生活を体現するという伝道

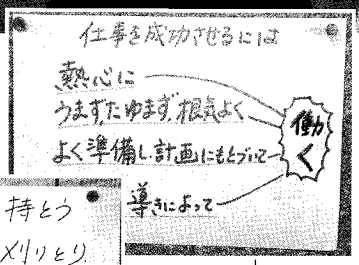
真鍋兄弟がバプテスマを受けたのは19歳のときだった。「日米友好のために改宗しました」と笑うが，年を経るにつれて信仰について深く考えるようになっていったという。

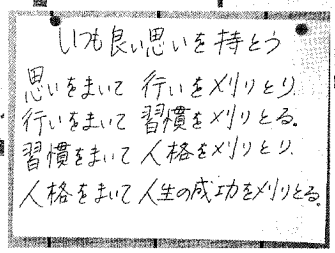
「人間は，信仰を持っていないと知らないうちに初志からそれてしまったり，人生の中で満たされない部分を抱えたりすると思います。ですから，自分には信仰が必要です。特に子どもを育てる過程で信仰は欠かすことのできないものです。毎週安息日に教会へ集う人と集わない人では，その一日を比較するとわずかな差しかないかもしれません。しかし，これを何年も続けたときには大きな差となります。」そう真鍋夫妻は，従ってきた教会の教えに深い感謝を表す。「教会は人が幸せになる道を作っています」と妻の喜代美姉妹もはっきりと言う。

喜代美姉妹に言わせれば真鍋兄弟は「よく伝道している人」だという。「宣教師でなければ伝道できないということはありません。教会員として様々な機会を通じて人と正直につきあうことも伝道につながります。また，自分たちが幸せな生活を送るならば，周りの人もそれを感じてくれるはずです。」そう語る真鍋兄弟自身も，宣教師たちがほんとうに幸せそ

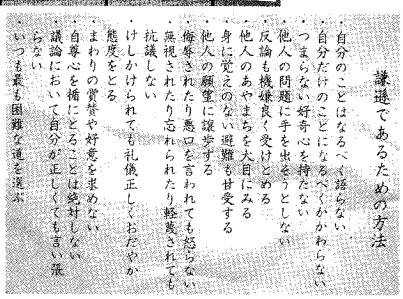
真鍋兄弟のオフィスの壁にはられている様々なモットー。







下――謙遜であるための方法と題されたマザー・テレサ語録も壁にはられている。



うに家族の写真を見せる姿から，家族が互いに心から愛し合っているのを感じて深く心を動かされたという。「宣教師のように，また彼らの家族のように幸せになれるのならば，信じる価値はあると思いました。わたしたちの普段の生活そのものが伝道になるんです。」

長女の光(ひかり)姉妹が高校生のとき「クラスで一人だけ聖書を知っている人がいる」と話したことがあった。「じゃあ，家庭の夕べに呼んだら」と喜代美姉妹は提案し，結局2年ほどの時間を経てその友人は改宗へと導かれたという。

「良い意味で自分を持っていなさい。堂々としていなさい。教会員としての誇りを持ちなさい」と真鍋夫妻は子どもたちにアドバイスするが，友人に伝道しなさいと特に言ったことはない。その友人の改宗は，自分自身の生活の様子を通じて子どもたちにも福音を伝える機会があることを象徴する出来事だった。

若い人が育つ環境を

有害な情報から守ることをはじめ，若い人たちを育てることに深い関心を示す真鍋兄弟はこう語る。「自分たちが独身会員のころは，すばらしい指導者との出会いがありました。彼らは人間的な魅力を通してわたしたちに多くを教えてくれました。若いときにたくさんのことにチャレンジさせてくれた指導者に感謝しています。それらの経験によって成長することができました。今思えば，若い人たちがよく育つ環境を指導者の方々が作ってくれていたような気がします。」真鍋兄弟がソフトを制作した理由の一つも，青少年を取り巻く環境を改善したかったからだ。

行動によって教える

現在，喜代美姉妹はボランティアとして，精神障害者の社会復帰のためのプロジェクトに携わっている。喜代美姉妹たちのグループはすでに4か所の作業所を立ち上げ，来年には社会福祉法人として認可を受ける準備も進めている。「ボランティアとして働いてもらったり，精神障害者の家族からサポートを受けたりするなど，多くの人によって助けられています。中には自分の退職金を寄付するような人もいます」と喜代美姉妹は話す。真鍋兄弟もこれまで資金的援助を通じて応援してきた。その真鍋兄弟に今後の夢を尋ねると，「ファミリーガードが売れたら(そのプロジェクトのために)寄付をしたい」と笑顔で答える。「もっと寄付をして」喜代美姉妹の力になりたいのだという。「わたしたち夫婦は二人合わせて一人前ですから」と笑う。

「精神的な病を患った人のほとんどは，病気が治って社会復帰できる能力があるにもかかわらず，社会の偏見もあって，病院で過ごさなければならないというのが現状です。」喜代美姉妹が携わっている授産施設は，退院した人たちの受け皿として，偏見を克服し社会に復帰するためのお手伝いをしているのである。

喜代美姉妹は時に，初等協会の活動で子どもたちを，障害者の方々と接する場所へ連れて行くこともある。「子どもたちからはいろいろな質問が出ます。目が見えなくても，わたしたちと外見が少しばかり違っている人であっても，みんな神様の子どもだと理解することができるんです。人がお互いに補い合って生きていくことを知って子どもたちの目が開かれるんです。」

真鍋夫妻は，言葉で説教するのではなく自らの行動を通じて，人間として大切なメッセージを子どもたちに投げかけている。

地道に継続することで築く盾

インターネットの中に氾濫(はんらん)する悪質な情報は社会の病巣と言える。真鍋兄弟はそうした情報から子どもたちの心を守り，喜代美姉妹は心の病に冒された人を勇気づけて立ち直らせることに専念している。

「子育ては自分の信仰の集大成です」と真鍋夫妻は語る。「非常に大変なことですし，知恵も必要です。ほんとうに子どものことを思うのであれば，戦わなくてはいけないときもあります。子どもに遠慮してはいけません。それが愛情です。あいまいな態度で接すれば子どもたちも悪い方向へ流されてしまいます。家庭の夕べを含めて，正しいと思うことを継続することが大切だと思います。」

真鍋兄弟は仕事に追われて明け方に帰宅することもある。しかし，朝，家族で聖文を読むときには疲れていても起きてくる。そして読み終わってから再び体を休める。「地道な努力ですが，続けることが重要なんです。続けていれば子どもたちは道をそれそうになっても戻って来ます。子どもは親を見ていますから，その程度の信仰だ，くらいに思われてはいけません。そのためにも親があきらめずに続けることです。」

どんなに疲れていても家族と子どもたちを大切にする真鍋夫妻は，真鍋兄弟の制作したソフトよりも強力に，家庭に入り込もうとする悪の影響から家族を守る強い信仰の盾そのものなのである。□

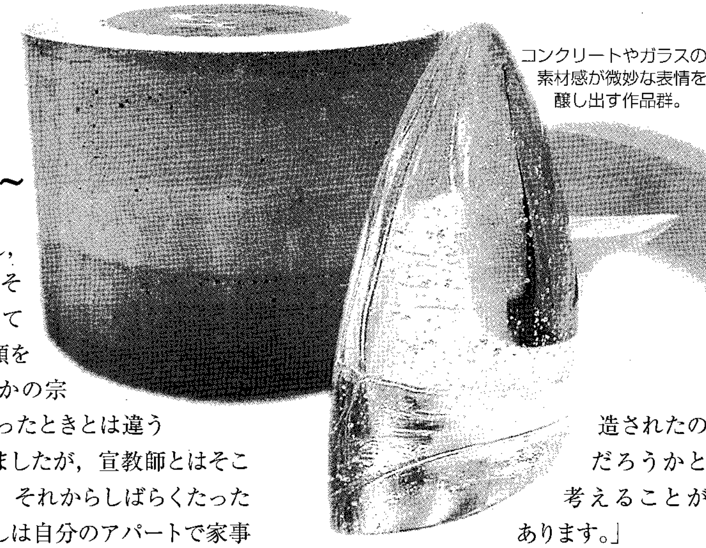
真鍋家では，天気の良い日には，よく家の庭でさわやかな気候を楽しみながら昼食をとる。真鍋兄弟もしばしば昼休みには，オフィスから車で5分ほどの自宅に戻り，家族と食事をともにすることにしている。

この記事へのご感想は，tec@nbn.ne.jp 真鍋家族まで。

目に見えない世界を形にして

～ガラス工芸で世界工芸コンペティション最優秀賞を受賞～

楢原寛子（ならはらひろこ）　岡山ステーク／倉敷ワード



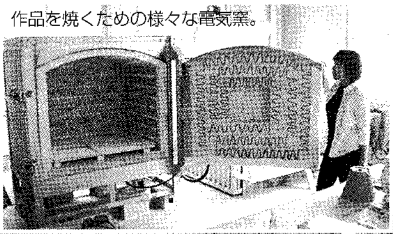
コンクリートやガラスの素材感が微妙な表情を醸し出す作品群。

「小さいときから絵を描いたり，工作したりすることが大好きだったので，物を作って生活する人になりたいという漠然とした夢を持っていました。」昨年の夏に開催された「世界工芸コンペティション金沢」で最優秀賞を受賞した楢原寛子姉妹（岡山ステーク／倉敷ワード）は，子どものころに感じていた原点を話してくれた。

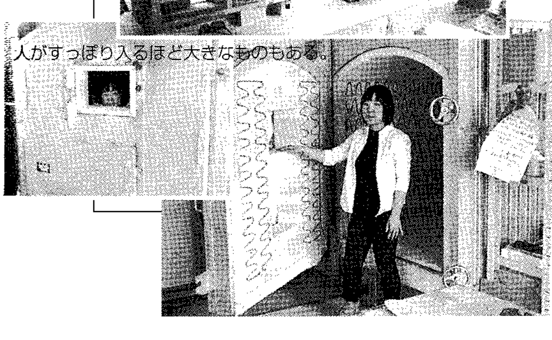
「高校2年のころ，わたしは芸術系の大学に進学しようと思っていましたが，どの学部の何を専攻するかまだはっきりと決めてはいませんでした。」そんな彼女の方向を決めたのは，雑誌で紹介されている一つの写真だった。「倉敷ガラスという民芸ガラスの作品が紹介されているのを見て，ガラスとは思えない不思議な温かみのある作風にとても驚きました。ガラスといえば無機質，冷たい，鋭いというイメージがついて回るものですが，同じ素材でも人の手を通すことによってこんなにも表情が変わるものなのかと感心しました。」それを契機に，ガラス工芸を教えている倉敷芸術科学大学に進学し，現在に至っている。

楢原姉妹が教会の教えと出会ったのは約3年前。当時は，自身の作品に信仰が反映されるなど考えてもみなかった。

「大学2年のとき，駅の前で宣教師と出会いました。そのときは宗教に興味がなかったので話を聞くのを断ってしまいました。しかし，断った瞬間，その宣教師がとても悲しそうな顔をしました。ほかの宗教の勧誘を断ったときとは違う罪悪感を抱きましたが，宣教師とはそこで別れました。それからしばらくたったある日，わたしは自分のアパートで家事をしながら駅で会った宣教師のことを考えていました。するとチャイムの音がしたのでドアをのぞくと，その姉妹宣教師が立っていたのです。」偶然と呼ぶにはでき過ぎた出会いに，楢原姉妹と姉妹宣教師は驚いた。決して悪い人たちではないということは駅で会ったときに分かっていたので，楢原姉妹は宣教師を部屋に招き入れ，その日から福音を学び始めた。そしてそれが，楢原姉妹の作品に霊的な要素が加わる始まりともなったのである。



作品を焼くための様々な電気窯。



人がすっぽり入るほど大きなものもある。

作品が生まれるとき

楢原姉妹はキャストという技法で作品を作り出す。まずは粘土で形を作り，耐火石膏（せっこう）で固めて次に中の粘土をくりぬく。くりぬいた石膏の型の中にガラスを詰めて850度の電気窯で焼く。現在は，磨いたガラスの周りにコンクリートを固めた作品の研究をしている。ガラスとコンクリートの境目には独特の淡い光が揺れている。

作品に霊感を求める楢原姉妹は，自分の制作の過程と神様の創造を重ねてみることもあるという。「神様が人の霊を造られたような感覚を自分も感じてみたいと思っています。物を作っていると，神様はどのようにして創造されたのだろうかと考えることがあります。」

作品の制作過程には霊感が伴う，と楢原姉妹は語る。「教会の教えは自分の生活の中でいちばん中心になっていると思います。作品作りの中で，御霊（みたま）を感じたり，前世や来世など自分で感じたりしているものをイメージして形にしていきます。目に見えない世界を形にしたいと思っています。わたしがイメージしたもの（御霊や来世など）を信じている人と信じていない人では，作品の見方が違うかもしれません。自分が感じているようなものをほかの人にも感じてもらって，作品が評価されるのはうれしいことです。そんなときは，自分の作品に自信をもって進むことができます。」

楢原姉妹はこれまで何度か福岡神殿に参入した。特に福岡神殿の奉献式に

倉敷芸科大・楢原さんのガラス作品

世界工芸コンペティション

最優秀賞に

【写真上】独創的なガラスオブジェ「soul」
【写真下】ガラス塊を見ながら次作へのイメージを膨らませる楢原さん

工芸公募展「2001世界工芸コンペティション・金沢」で、倉敷芸術科学大大学院生楢原寛子さん(二三)=倉敷市連島町西之浦=のガラスオブジェ「soul」が大賞に次ぐ最優秀賞に選ばれた。九月に金沢市内のデパートで展示される。

「soul」は長さ約八十センチ。透明なガラスの塊と粉末石こうの型に入れ、八五〇度の電気炉で約三時間加熱して融合させた。幾何学的なやわらかい曲線の中に透明なガラスと半透明なガラスが溶け合い、対流によって微妙な模様が形成されている。従来にない造形手法が評価された。

楢原さんは、技法を大学一年のとき思いついて試作。焼く温度や時間など試行錯誤を重ね、完成度を高めた。「初入選が最優秀賞でびっくりした。これからも研究を進め、独創的な作品を作りたい」と喜ぶ。指導した磯谷晴弘教授は「光を通すガラスの特性をうまく生かした。国内外の工芸作品が多数集まった中で、高い評価を得たことは意義深い」と話している。

コンペは一九八九年から金沢工芸大賞として隔年開催。前回から国際公募展になった。約五十カ国から陶芸、ガラス、染織など千百五十四点が出品された。

山陽新聞，2001年8月6日付

作品の仕上がりを確かめる楢原姉妹。

出席したときの霊的な体験は，作品作りに大きな一石を投じるものとなった。「神殿の奉献式でヒンクレー大管長の祈りに耳を傾けているときでした。神様の御霊を強く感じ，自分の中で白い炎が燃え上がっているようなイメージをはっきりととらえることができました。そのときに，自分が取り組んでいる，目に見えないものを感じ取って形にするということは，まさにこのようなことを言うのではないかと知ることができました。」

もっといいものを引き出す

ワードで初等協会の責任に召されている楢原姉妹は，ガラスの良さを引き出すことと子どもの良さを引き出すことには共通点があると感じている。

「ガラスという素材はこうあるべきだと決めつけがあると興味ある作品にはなりません。制作はたとえて言えば，ガラスと対話をしているようなもので，わたしはガラスの様子を見極めながら，その表情を引き出してあげる役目をしているにすぎません。

初等協会で子どもたちと学んでいますが，同じように，この子はこうだろうと決めつけると子どもにとっても自分にとってもあまり気分のよいものではありません。その子の良さを引き出すこと，つまり，自分の思っている以上にその子の中にもっといいものがあると考えてあげることが大切です。」

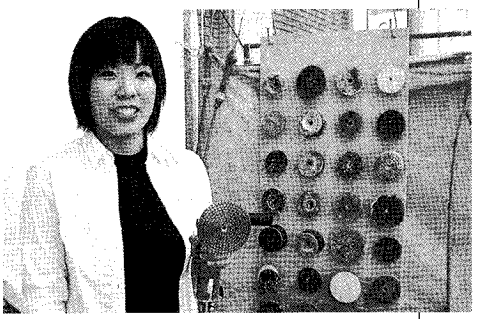
「ガラスは自分の思いどおりにコントロールするのがとても難しい素材です。作家それぞれに自分のやり方やセオリーがあるのですが，それをまねするだけでは作品を制作する意味がありません。失敗は恐いことですが，自分の勘を信じてやるだけのことを行います。そして，ガラスを窯の中に入れた後は，結果を神様の手にゆだねます。自分の手でどうすることもできない部分ですから神様に頼むしかありません。結果が，自分の望んだとおりにならなかったときはその理由について考えてみます。そして，それを次の制作に生かす教訓とします。これはわたしたちの信仰生活にも通じるところがあります。」子どもたちを育てるときに，あるいは自分の人生そのものさえも，それは必ずしも思いどおりにコントロールできるものではない。自分はベストを尽くしても，手の届かない「窯の中」があり，時に不本意な結果もある。そこからわたしたちは主の道を学び，より良いものを引き出すのである。

地味な仕事から輝きが生まれる

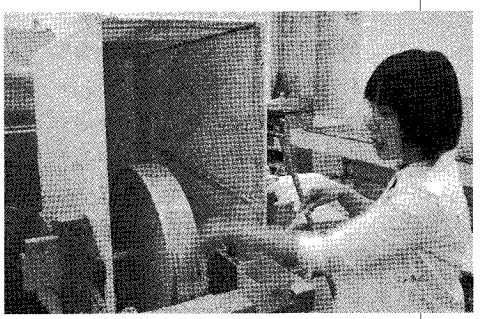
自身の制作過程を振り返って楢原姉妹は話す。「100パーセントのうち20パーセントが作品ができたときのうれしさです。後の80パーセントはつらかったこととして思い出されます。人生も同じです。毎日が楽しいことの連続であるはずはありません。つらいことが多いからこそ楽しい瞬間もあるのだと思います。」

楢原姉妹が制作を通して学んだことの一つに「実行する」ということがある。「作品は頭の中で考えている状態では作品とは言えません。自分のビジョンを完全に実現することは難しいことですが，作品がこの世に誕生するかしないかはすべて自分自身にかかっています。福音も『絵に描いたもち』の状態では十分ではないと思います。これまで教会の中で多くの方々の模範や行いに触れて，そのように感じるようにもなりました。神様の教えを完全に行動に移すことは並たいていのことではありませんが，制作と同じように自分にできることから黙々とやっていけば，いつかは必ず道が開けると信じています。そうして行動を起こしたときに初めて神様が導いてくださるのだと思います。手を広げて待っているだけではだめだと気づきました。」

ガラスの作品を仕上げる最後の工程に磨き上げがある。その作業は忍耐を要するので嫌う人もいるが，楢原姉妹にとっては魅力あるものだという。「光っていないものを磨いて，時々手を止めて輝きを確認しながら磨き続けます。磨くのはどきどきする作業です。とても地味な作業で，忍耐が必要とされますが，地味な作業に耐えられるかどうかが大切なポイントになってきます。」磨いた後に汚れを洗い流し，水分をふき取ったとき，突然輝きが顔を出すのには胸が躍るという。


上――磨き上げの工程で使う多種多様なヤスリの刃。

中・下――様々な方法で根気よく磨いていく。



ガラスを扱いながら，その制作に信仰や人生との様々な接点を見いだしている楢原姉妹。一見，無機質なイメージのガラスは彼女にとって，絶えず変化を繰り返す生きた存在として映っている。その作品と同様に，初等協会の子どもたちや接する人々の中に，信仰生活における様々な出来事の中に，楢原姉妹は胸躍る輝きを見つけようとしているのである。□

この記事へのご感想は，kurosuke24@hotmail.com
楢原姉妹まで。

長い旅路の果てに

菊盛洋子姉妹（きくもりひろこ）／京都ステーク下鴨ワード

「洋子さんは，もう落ちるところまで落ちています。これ以上落ちたら救いようがありません。」わたしの横で，母が悲しそうな顔でじっと先生の言葉を聞いていました。「救われようがないんだったら，自分なんて消えてしまえばいい。」当時中学生だったわたしは自暴自棄になって荒れていました。

虐待を越えて

わたしは幼いころから家庭で暴力を受けて育ってきました。わたしは生きている意味が分からない いらだちとむなしさにさいなまれていました。わたしにとって家庭は平安を感じる場所ではなく，叫び声と荒々しい物音の絶えない場所でした。学校へ行くときも，制服の下には腕にも足にも黒ずんだあざがありました。肋骨（ろっこつ）にひびが入ったまま通学していたこともあります。子どものころは，何度も泣きながら神様に助けを祈り求めることもありましたが，次第に，神様がいたとしても自分を助けてはくれないとあきらめるようになりました。また，少し大きくなってからは手当たり次第に宗教や哲学の本を読んで，生きている目的を知ろうとしましたが，納得のいく答えを見つけ出すことはできませんでした。

もう自分で自分を見捨ててしまっていた15歳のとき，わたしは二人の姉妹宣教師に街で出会いました。神様はわたしを見捨ててはおられませんでした。初めてのレッスンの日，話を聞く前から宣教師の目を見るだけで涙が止まりませんでした。宣教師の口から出てくる一言一言（ひとことひとこと）が真理だということが分かりました。福音を知り，人を赦（ゆる）すことを学び，涙を伴う悔い改めをしました。教会に入ることは父から猛烈に反対され，家から逃げ出して宣教師アパートに駆け込むこともありましたが，3年を経て大学へ行くため家を出る前日，ようやくバプテスマを受けることができました。

人の役に立ちたい

福音は確かにわたしに生きる喜びを与えてくれました。人は神から出たものであるということ，人には必ず才能が与えられていることを知り，自分には何の才能があるのか分かりませんでしたが，とにかく人の役に立ちたいと強く願うようになりました。そしてわたしは以前から興味のあった，アフリカの子どもたちを援助する仕事に就くという夢を実現しようと決心しました。中退しかけていた高校を卒業し，大学に進学できたのも主の助けがあったからでした。やがて大学卒業に必要な単位をすべて得ると，卒業式を待たずにアルバイトで稼いだお金でデンマークのNGOへ行って訓練を受け，そこからドイツ，フランス，アフリカへと向かいました。

モザンビークにて

1997年，わたしはアフリカのモザンビークにいました。モザンビークは戦争が30年近く続いた国で，路上にはストリートチルドレンがあふれかえり，地雷で足を失った人が犬のように這（は）って歩いていました。わたしはそこで，ストリートチルドレンを援助するボランティア活動に従事しました。孤児，虐待を受けた子，少年兵として戦争に行っていた子どもたちを助けることは予想以上に大変でしたし，生活環境も劣悪でしたが，子どもたちと交わっていれば自分の心も満たされるような気がしました。

菊盛姉妹がモザンビークで出会った子どもたち。

そんな中で，わたしはマラリアにかかり，生死の境をさまよいました。高熱で苦しんでいるときに心にあったのは，わたしに福音を伝えてくれた宣教師のことでした。

一命を取り留めた後，自分がアフリカに来てどれだけ人を助けることができているのか疑問に思うようになりました。厳しい状況を背負う人々の人生を肩代わりすることなどできないという当たり前のことを思い知らされ，落胆しました。そのとき浮かんだのが，「すべて重荷を負うて苦労している者は，わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう」とのキリストの言葉でした（マタイ11：28）。キリストのことを人々に伝えたいという思いが次第に大きくなりました。けれどもそのころモザンビークに教会はなく，わたしは長い間教会から隔絶された生活をしているうちに，教会どこ

ポルトガルで伝道中の菊盛姉妹。

ろか日本にも戻る気持ちを失いかけていました。わたしの中では，教会に戻らなければという気持ちと，もう戻ることなどできないという気持ちがぶつかり合っていました。

「わたしは神様の娘なのですか」

結局，わたしは決心がつかないままにモザンビークを後にして旅を続けることにしました。アフリカから再度ヨーロッパに戻り，バックパックを背にヒッチハイクをしながらいろいろな国を回りました。それは自分探しの旅のようでした。そして中国まで来たときにやっと日本に帰る決心がつき，フェリーで日本にたどり着きました。

バックパック一つで帰国してからの生活は想像以上に苦しく，教会に戻る決心も依然としてつきませんでした。家族はバラバラで帰るべき家はなく，廃屋になっていたアパートを大家さんから格安で借りて生活しました。日本に帰っても一人旅をそのまま続けているような孤独感がありました。信仰生活を続けていくうえでわたしにとって難しかったのは，神様はいらっしゃるという証はあっても，その神様から自分も愛されているのだと感じることができないことでした。神様が天の御父だと聞くと，どうしても暴力的だった父のことが思い出され，自分は愛されるのにふさわしくないと感じてしまうのでした。

でも，ある朝，「神様，わたしはあなたの娘なのですか……？」とつぶやいたとき，否定しようのない強い御霊を感じて涙が止まらなくなりました。神様は祈りにならないわたしの声を聞いてくださいました。愛されていたんだという感謝の気持ちでいっぱいになり，思わずひざまずきました。

人の価値

その後わたしは，海外援助の仕事をするための専門知識を得べく，大学院へと進学して国際政治学を専攻しました。毎日15時間働いて学費と生活費を稼ぎ，その合間に勉強してやっとの思いで手に入れたチャンスでした。けれどもわたしの心はなぜか満たされませんでした。わたしは再びバックパックを背負い，一人旅に出かけました。異国の地で舗装されていない道を歩くとき，わたしはいつもキリストがこの世に生きておられた時代に思いをはせることができました。

インドのカルカッタを旅していたときのことです。わたしはマザーテレサが残した施設を訪ねることにしました。そこには，小さな鉄のベッドに寝かされている女の人がたくさん並んでいました。シスターからわたしは，自分の目の前に寝ている老人を運んで体を洗うように言われました。その老人はやせこけていて，体の節々は硬くなり動けないようでした。わたしは，シスターに促されるままに老人を持ち上げようとしました。体の重みがわたしの腕にかかりました。けれども，わたしの体が旅の疲れで弱っていたせいか，簡単に持ち上げられると思っていた老人をわたしは抱えることができませんでした。わたしは人の命の重みを体で感じたような，とても神聖な気持ちがしました。「あなたは，人一人の価値がどれだけ大きいかを知っていますか。」「あなたは，キリストの愛がその一人一人に向けられていることを知っていますか。」……御霊がわたしに語りかけてきました。老人に手をかけたまま立ち尽くしているわたしのところにシスターが助けに来て，何とか老人をコンクリートの浴槽まで運びました。するとまた，「キリストは一人一人の苦しみを背負われたのですよ」という声が心に響きました。骨と皮だけのように細くやせこけた老人の背中をわたしは，子どものように泣きじゃくりながら洗いました。

帰国後，ひざまずいて何度も祈る中，伝道に出ることが主の御心であると強く感じました。けれども自分はふさわしくないという気持ちがありました。「どうしてわたしのような者に伝道に出るようおっしゃるのですか」と，祈りの中で何度も尋ねました。主は穏やかな平安とともにこたえてくださいました。「あなたがどれだけ弱いかも，どれだけ挫折を繰り返すかも，すべてを知りながらわたしはあなたを愛し養ってきました。あなたの失敗も経験も何もかもが伝道でこそ生かされるでしょう。」

アフリカの人々に福音を

それからしばらくの後，わたしはポルトガル・リスボン南伝道部へと召されました。ポルトガルに日本人の宣教師が召されるのは初めてのことだったので，自分でもポルトガルでどんな伝道をするのかさっぱり見当がつきませんでした。でも，すぐに主の御心が分かり始めました。ユタ州プロボの宣教師訓練センター（MTC）へ入ると，わたしと同期でポルトガルに行く姉妹宣教師はいませんでした。そのため，MTCに入る数か月前に新しく教会ができたばかりのモザンビークへ行く長老たちとともに訓練を受けることになったのです。モザンビークに教会ができたことを聞いてわたしはとても喜びました。そして長老たちに，ずっと福音を伝えたいと思っていたモザンビークの友人の住所を手渡すことができたのでした。

ポルトガルでは，アフリカからの移民がたくさんいる地区に召され，ヨーロッパにいながらアフリカにいるような伝道をする機会を得ました。そこでわたしは再び，モザンビークの人々をはじめいろいろな国の人に福音を伝えることができました。わたしの旅の経験は伝道でどんどん生かされていき，主がわたしのことを知ってくださっているという確かな証を得ることができました。自分が感じた主の愛を少しでも多くの人に伝えようと必死に働きました。様々な人々が霊的に

プロボの宣教師訓練センターにて。右端が菊盛姉妹。

生まれ変わっていく姿を見る度に，伝道は確かに主の業であると実感しました。

日本に帰りなさい

半年近くたったとき，突然，母が亡くなったという知らせが届きました。母はわたしの最愛の人でした。もう帰国しても会えないのかと思うと苦しくてたまりませんでした。それでも主に祈るとき，ポルトガルに残って伝道することが主の御心であると感じ，日本には帰りませんでした。生きる目的を見いだせず苦しんでいた自分を救い上げてくださった主の愛がわたしの支えでした。伝道の1年半はすべてを主にささげたいと思いました。日本で母の葬儀が行われた日曜日，わたしはポルトガルでバプテスマ会に参加していました。

それから3週間が過ぎたころ，朝祈っているときに，強い御霊の導きを感じました。それは日本に帰りなさいというものでした。一体どういうことなのか分からないまま，戸惑いながら断食して働き始めました。その3日後，伝道本部から電話があり，あなたは日本で伝道を続けることになるという知らせを受けました。まさか日本で伝道するとは思っていなかったので，訳が分からず泣きながら荷物を詰めました。落ち込んでいるわたしに同僚は，「あなたは世界のどこに行っても伝道ができるよ」と励ましてくれました。

ポルトガル・リスボン南伝道部から日本名古屋伝道部へと転任し，わたしの新たな伝道が始まりました。任地は愛知県の豊橋でした。そこでわたしは，日本にいながらブラジルにいるような伝道をすることになりました。それは，ポルトガルでの経験がなければ決して成功することがないと思われた伝道でした。在日ブラジル人に福音を伝えたいというのはわたしのかねてからの願いでしたが，宣教師として思いがけずその夢がかなったのです。

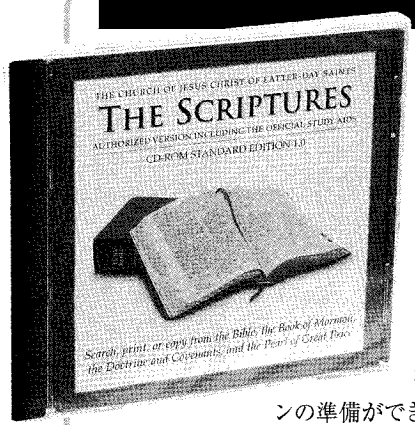
帰るべき家がある

わたしはポルトガルと日本での伝道を通じて，30近くの異なる国籍を持つ人々にこの真実の福音を伝える機会を得ました。その間，いつも必要な言葉を御霊が与えてくれました。わたしは主が確かに生きておられ，人々を救いに導きたいといつも願っておられるのを知っています。そのための器として主に仕える機会が与えられたのは祝福でした。

もし宣教師が12年前に福音を伝えてくれなければ，わたしは生きる意味を見いだせずに今もすさんだ生活を続けていたかもしれません。自分の居場所がない孤独感にさいなまれたり，自分探しの一人旅をひたすら続けなければならない焦りを感じたりすることなく，穏やかな気持ちで生活できること，何よりも主の愛を感じられることは神様がわたしに与えてくださった奇跡です。わたしたちには人生の旅を終えて帰るべき家があります。預言者モロナイは主に語りました。「あなたは御父の住まいの中に，人のために住む所を用意したと言われました。人がもっと大きな希望を持てるようにするためでした。ですから，人は希望を持たなければなりません。さもなければ，あなたの用意してくださった場所に受け継ぎを得ることができません。」（エテル12：32）キリストはわたしたちの救い主です。わたしたち一人一人は神様の娘，また息子です。神様のもとへ戻れるように，主は今もわたしたちを導いてくださっているのです。□

菊盛姉妹がポルトガルに赴任して最初のバプテスマ会。カーボベルデ人のローラ（左）と。その後次々とアフリカの人々の改宗を見た。

ブックセンターだより



●The Scriptures CD-ROM
（英語版）カタログ番号50400 **700円**
新旧約聖書，モルモン書，教義と聖約，高価な真珠の標準聖典（英文）を網羅したCD-ROM。項目別索引に聖句ガイド，章の要約と脚注，ジョセフ・スミス訳聖書の抜粋に参照地図や写真なども含まれている。検索・プリントなどの機能を駆使して話やレッスンの準備ができるほか，英語の原文と参照することで福音のよりいっそうの理解にも役立てられる。

動作環境●ウィンドウズ95（インターネットエクスプローラー4.0搭載），98，ME，NT4.0，2000，XP ●ペンティアム133以上のプロセッサ（200以上のクロック数を推奨）●最小16MBのRAM（32MB以上を推奨）●50MB以上のハードディスクの空き（すべてのプログラムをインストールするには250MB必要）●4倍速CD-ROMドライブ ●SVGAモニター（XGAを推奨）

●若い女性メダルペンダント
金（36652）・**銀**（36653）
各1,300円
若い女性『成長するわたし』記載の「若い女性表彰」の際に授与されるメダルペンダント。専用ケース入り。（『青少年に関する両親と指導者のためのガイド』〔36679 300〕，19参照）

●価格改定のお知らせ 2002年3月1日付

32506 300	モルモン書（インスティテュート生徒用資料）	旧500円→ 700円
32473 300	日の栄えの結婚（インスティテュート生徒用資料）	新規 500円
32495 300	生ける預言者の教え（インスティテュート生徒用資料）	新規 400円
63035 300	成長するわたし（2002年改訂版）	旧500円→ 200円
36656	成長するわたし 日記	新規 50円

専任宣教師

2002年3月(268期生)18人・海外1人 ●上から氏名, 任地(伝道地), 出身ユニット

安次嶺主紋
東京南伝道部
那覇ステーク
首里ワード

大堀智哉
東京北伝道部
岡崎ステーク
刈谷ワード

小野裕二
仙台伝道部
山口地方部
山口支部

恩田 馨
東京南伝道部
東京北ステーク
坂戸ワード

我那覇 奨
広島伝道部
東京ステーク
ひばりヶ丘ワード

河嶋 良
仙台伝道部
岡山ステーク
岡山ワード

川門正人
東京南伝道部
那覇ステーク
糸満支部

河南真吾
東京南伝道部
高松地方部
徳島支部

小宮健太郎
広島伝道部
岡崎ステーク
刈谷ワード

鈴木和弥
東京南伝道部
我孫子ステーク
水戸ワード

武田 良
福岡伝道部
東京西ステーク
多摩ワード

佃 卓磨
名古屋伝道部
東京東ステーク
稲毛ワード

中村 雄
福岡伝道部
我孫子ステーク
牛久第2ワード

松本直行
東京南伝道部
岡山ステーク
米子ワード

松元 稔
札幌伝道部
静岡ステーク
袋井支部

宮本信人
福岡伝道部
東京西ステーク
多摩ワード

山之内 直
福岡伝道部
旭川ステーク
篠路ワード

渡辺克己
札幌伝道部
名古屋ステーク
御器所ワード

東 英明
カリフォルニア州
サンディエゴ伝道部
BYU第1ステーク
アジア第2ワード

*

再組織された神殿長会 ●日本東京神殿

第一副神殿長：橋本 登
メイトロン補佐：橋本 志ず子

第二副神殿長：熊野 照孝
メイトロン補佐：熊野 志保美

お詫びと訂正

●『リアホナ』2002年2月号チャーチ・ニュース16頁，役員の異動の項に，「金沢ステーク七尾支部 支部長：寺田啓作」とありましたのは，「**寺口啓作**」(敬称略)の誤りでした。

●『リアホナ』2002年4月号35頁左段下から14行目に，「独立戦争」とありましたのは「**南北戦争**」の誤りでした。

●日本伝道100周年記念出版『世紀を越えて――Beyond the Century』，197頁右から10－12行目に文字の欠落がありました。正しくは，「……次々と場所を変えて**いったのは**……」(10行目)，「また，『LDSメッセンジャー』創刊号では……」(11行目)，「……電話番号などを伝道本部に知**らせるよう**に……」(12行目)です。

●読者の皆様には大変ご迷惑をお掛けいたしました。ここに謹んでお詫びし，訂正させていただきます。(**編集室**)

役員の異動

2002年3月15日から2002年4月8日までに管理本部会員統計記録課に通知のあった役員の異動（敬称略）

●岡崎ステーク野並支部
支部長：渡辺 英二

●日本大阪北ステーク
第二副会長：木戸 俊彦

●大阪北ステーク高槻ワード
監督：義村 徳宏

●大阪北ステーク花屋敷ワード
監督：和田 勝

●大阪北ステーク岡町ワード
監督：田代 重治

●札幌ステーク江別ワード
監督：菊谷 欣広

●京都ステーク城陽ワード
監督：藤原 尚

●日本長野地方部
地方部長：杉本 一芳
第一副部長：松橋 春海
第二副部長：岡澤 靖

●広島ステーク呉支部
支部長：坪中 一成

●横浜南ステーク上大岡ワード
監督：鈴木 秀明

ユニットの変更

2002年4月7日，福知山地方部篠山支部が閉鎖され，西脇支部と合併しました。

皆さんの情報をご提供ください

◎あなたや友人の経験，また地域のニュースなど，全国の読者に紹介したい有意義な情報をお寄せください。

◎**お願い**――海外に召される日本人宣教師を紹介いたします。氏名〔フリガナ〕，所属ステーク／地方部，ワード／支部，MTC入所月，伝道部名を明記のうえ，編集室に写真を添えてお知らせください。デジタルカメラでお撮りになった画像データ(JPEG)を添付しての電子メール入稿(下記アドレスあて)も歓迎いたします。

◎**あて先**：〒106-0047 東京都港区南麻布5－10－30 末日聖徒イエス・キリスト教会 『リアホナ』編集室
TEL.03(3440)2666 FAX.03(3440)3275
電子メール Liahona-jp@ldschurch.org

◎**国際機関誌『リアホナ』のお届け，**その他商品に関するお問い合せは――
教会配送センター
TEL.03(5668)3391 FAX.03(5668)3392

ASIA NORTH AREA (JAPANESE)

徳高い女性として生きる

以下の文を訪問先の姉妹たちとともに読んで，質問や聖句，教会指導者の教えについて話し合ってください。自分の経験や証を分かち合い，あなたが教える人々も同様に行うよう勧めてください。

箴言第31章10節――「だれが賢い妻を見つけることができるか，彼女は宝石よりもすぐれて尊い。」

第二副管長　ジェームズ・E・ファウスト――「徳という言葉には，道徳的に優れていること，正しい行動と考え，人格的に優れていること……清純さなど，様々な意味があります。」（「天使に近い者となるために」『聖徒の道』1998年7月号，103）

わたしたちが培うべき大切な徳にはどのようなものがあるでしょうか

ピリピ人への手紙第4章8節――「すべて真実なこと，すべて尊ぶべきこと，すべて正しいこと，すべて純真なこと，すべて愛すべきこと，すべてほまれあること，また徳といわれるもの，称賛に値するものがあれば，それらのものを心にとめなさい。」

大管長　ゴードン・B・ヒンクレー――「世界中の女性たちにお勧めしたいと感じていることがあります。皆さんの内にある大いなる可能性に従って行動しましょう。能力以上のことをするようにお願いしたりはしません。皆さんが失敗についてばかり考え悩むことのないよう願っています。……ただ自分にできることを，自分が知っている最善の方法で行うよう願っています。そうするならば，皆さんは奇跡が起きるのを目の当たりにすることでしょう。」（*Teachings of Gordon B. Hinckley*〔1997年〕，696）

中央若い女性会長　マーガレット・D・ナドール――「世には強情な女性は十分います。必要なのは心の優しい女性です。……無礼な女性は十分います。必要なのは品のある女性です。名声と財産を手にしている女性は十分います。必要なのは信仰の篤い女性です。貪欲はもう十分です。もっと慈しみが必要です。うぬぼれももう十分です。もっと徳が必要です。流行ももう十分です。もっと清さが必要です。」（「女性であることの喜び」『リアホナ』2001年1月号，18）

これらの徳について教える最善の方法は何でしょうか

教義と聖約第46章33節――「あなたがたは絶えずわたしの前で徳高く聖くなければならない。」

大管長　ゴードン・B・ヒンクレー――「ほかの人々が徳高くなれるように影響を及ぼしたいと望むからには，まずわたしたち自身が徳高い生活を送っていなければなりません。わたしたちの生活による模範は，言葉を尽くして説く以上に，大きな影響を及ぼすものです。わたしたちがほかの人々を引き上げたいと望むなら，わたしたち自身が一段高い所に立っていなければならないのです。……家庭は，徳をはぐくむ揺りかごであり，性格が築かれ習慣が確立される場所です。」（「邪悪に対抗する」『聖徒の道』1976年1月号，66参照）

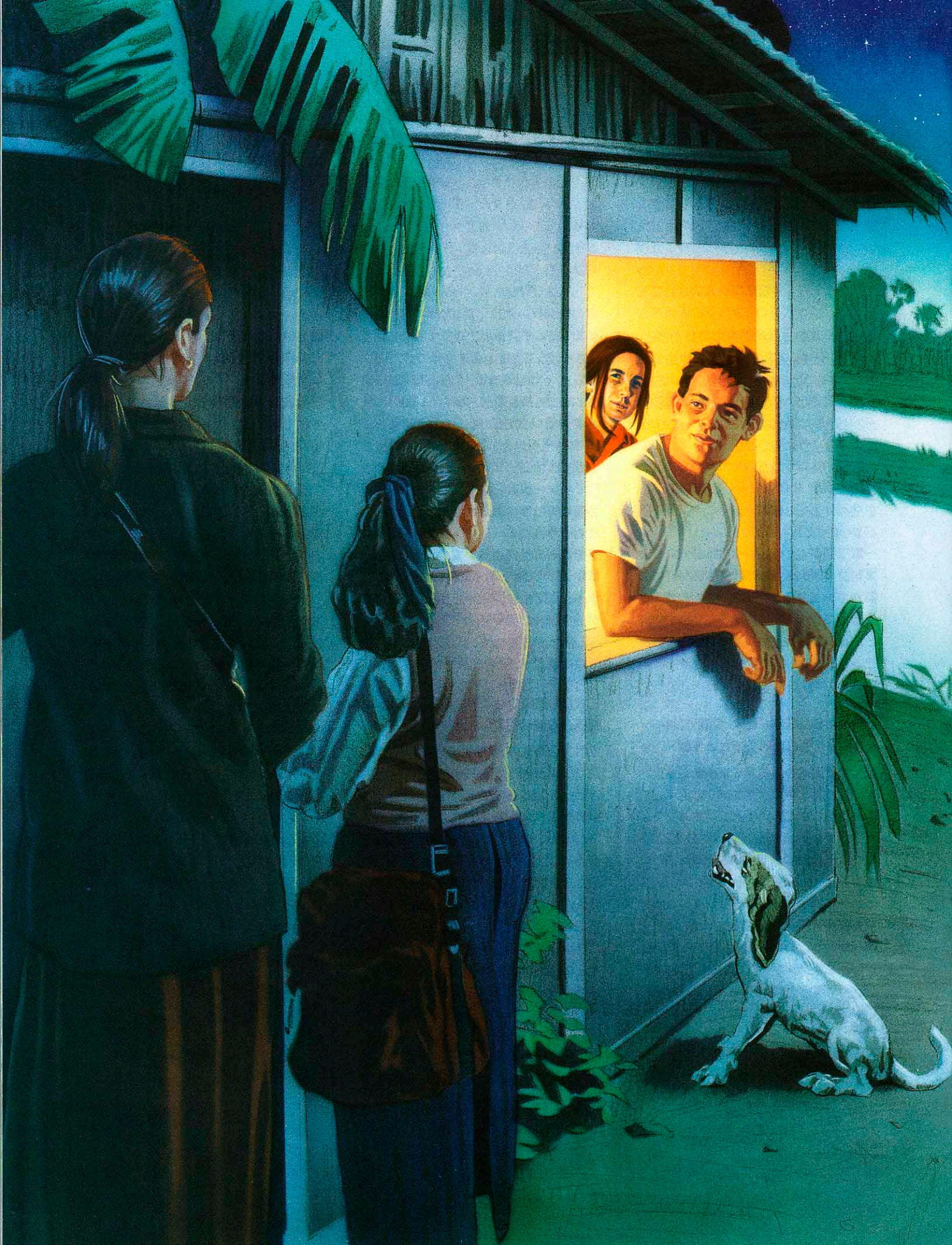
徳高い生活を送るとき，どのような祝福が約束されているでしょうか

教義と聖約第121章45節――「絶えず徳であなたの思いを飾るようにしなさい。そうするときに，神の前においてあなたの自信は増〔す〕であろう。」

教義と聖約第25章2節――「あなたが忠実であって，わたしの前に徳の道を歩むならば，わたしはあなたの命を守ろう。そして，あなたはシオンで受け継ぎを得るであろう。」

第二副管長　ジェームズ・E・ファウスト――「預言者ジョセフは，……こう言っています。『皆さんが自分に与えられている特権にふさわしい行動をするなら，天使を友とすることも差し止められなくなります。』……心を静め，聖なる御霊のささやきに耳を傾けてください。前世において，皆さんの心の奥深く神によって植え付けられた気高く直観的な感情に従ってください。」（「天使に近い者となるために」『聖徒の道』1998年7月号，106参照）□

絵／ジュリー・アン・アリー



人生行路

ラベナル・P・ソロモン

ただのブレーキの故障だと
思いました。
しかし，それは
すばらしい幸福への旅の
始まりだったのです。

それは，1980年10月のことでした。自転車に乗っていると，ブレーキが利かないことに突然気づきました。いつ，どうやって止まったらよいのか分からず，すっかり動転してしまいました。しかし，危うい運転ではありましたが，何とか安全に止まることができました。するとすぐそばに，高校の同じクラスの仲のいい友だち，ロディコ・フローレスがいたのです。彼に何があったか説明し，少しおしゃべりをしました。話の途中，時間があったら教会に来ないかと誘われました。ロディコの人柄の良いことに加え，顔見知りのほかの末日聖徒もすばらしい人たちだと思っていたので，次の日曜日に教会に行くことにしました。

日曜日になり，実際に行ってみると，教会堂は清潔で美しく，何かよそとは違う雰囲気を感じました。初めて会ったある人がわたしに握手し，腕を回して，「お会いできてとてもうれしいです」と言いました。わたしは，多少恥ずかしく緊張もしましたが，良い印象を受けました。この兄弟はわたしを，求道者のクラスまで連れて行ってくれました。

レッスンの後，若い女性二人が，自分たちは専任宣教師です，と自己紹介してくれました。そして，家に訪問してもよいか尋ねてきました。わたしは急いで，「忙しいので」などと言い訳を始めました。けれども，宣教師たちはいつなら都合がいいか尋ねてきたので，こう答えました。「月曜の朝早くなら大丈夫です。午前4時でもよろしければ来てください。」

驚いたことに，宣教師たちは互いに顔を見合わせると，「ソロモン兄弟，伺います」と言ったのです。それでわたしは，自分の家族の家は養魚池に囲まれた場所にあり，たくさんの犬を飼っていることを話し，たどり着くのは大変だしひどい目に遭うだろう，と強調しました。しかし，彼らはまた「ソロモン兄弟，伺います」と言いました。わたしは教会から帰ると，そんな約束のことなどすっかり忘れてしまいました。来るはずがないと思い込んでいたからです。

月曜日の早朝，犬の鳴き声とともに「ソロモン兄弟，ソロモン兄弟」と呼ぶ声を聞き，驚きました。わたしは慌てて窓の外を見ました。そのときから宣教師たちに対するわたしの気持ちは変わっていきました。彼らが真の神の僕（しもべ）であるという確信を得たのです。わたしは二人を中に招き入れ，メッセージを聞きました。しばらくして，これから毎日レッスンに来てくれるように頼みました。宣教師たちはそのとおりにしてくれました。こうして，わたしがバプテスマの準備ができるまで教えてくれたのです。

わたしは，1980年10月31日にバプテスマを受けました。バプテスマの後すぐ，友人からワードのパーティーに誘われました。「いい教会だ，わたしのためにパーティーを開いてくれるなんて」と思いました。後から，わたしが主賓というわけではないことに気がつきましたが，その友人はある若い女性を紹介し，彼女にわたしの面倒を見てくれるように頼んでくれました。その女性アニー・オルティスは，ほんとうによくフェローシップをしてくれました。そして，今現在までずっと，よく面倒を見てくれています。実は，わたしたちは1985年に結婚し，フィリピン・マニラ神殿で結び固めを受けたのです。

わたしは，バプテスマを受けて以来，奉仕の機会にあずかりながら，福音の中で成長してきました。1983年には，フィリピン・ダバオ伝道部の専任宣教師として召されました。また，結婚して4か月後に監督に召されました。そのほかに，ステーク会長や伝道部長会の一員として働いたこともあります。妻とわたしは幸せな結婚生活を送っており，エズラとブリガムという名の二人の子どもに恵まれています。わたしたちは，夫婦で奉仕する生活が訪れるのを，楽しみに待っています。

わたしは，教会で見いだした幸福に，支え励ましてくれた献身的な宣教師に，そして，この人生行路へと導いてくれた壊れたブレーキに，心から感謝しています。□

ラベナル・P・ソロモンは，フィリピン・ダグパンステーク，ダグパン第1ワードの会員である。

絵／サム・ローラー

試練のときに

**それは1962年，わたしが19歳だったときのことです。
わたしはメキシコで専任宣教師として働く召しを受けた後で，自分が癌だということを知りました。**

七十人
ジョン・B・ディクソン

癌？　わたしが？　わたしは大都会に住む人だけが癌にかかるとばかり思っていました。優秀な専門医による生体組織検査と精密検査の後で，わたしは自分の右腕にできた問題のはれ物が骨肉腫だということを知らされました。その当時，たとえ患部である手足を切断したとしても，助かる見込みがほとんどないとされていた一種の骨の癌にかかっていたのです。

「もう助からないのか。」19歳のわたしは思いました。自分がまさか不治の病にかかっていようなどとは夢にも思っていませんでした。わたしは，宣教師として働き，神殿で結婚し，すてきな家族を持ち，すばらしい人生を送るという未来に胸を躍らせていたのです。しかし，そうは言っても，わたしは主を愛していましたし，主がわたしを愛しておられることも知っていました。主の御心であれば，この現世に残るか，それとも別れを告げるかは問題ではありませんでした。

そのような中で，即座に結果として起こったことは右腕の喪失でした。そして，その後もさらに多くのチャレンジを生涯にわたって受けることになりました。ただ，振り返って見ると，右腕を失ったことは，悲劇的な経験ではなく，むしろ偉大な祝福の一つだったというのが今の正直な気持ちです。この経験を通して，ほんとうに数多くのことを学び，吸収することができたからです。

適応の過程には興味深いものがありました。わたしは合衆国北西部の森林地区で伐採搬出と道路建設の作業に従事していた関係で，体は丈夫でした。しかし，何から何まで右利きだったわたしは，大いに頼りにしていた利き腕を失ってしまってほんとうに寂しい思いをしました。以前は，野球のボールをチームのだれよりも遠くまで投げることができたのに，左腕だとほんの少しの距離しか投げることができませんでした。字を書くという作業もほんとうに大変でした。わたしの書いた字は，ほとんどすべての幼稚園児から書き直しを受けるぐらいひどいものでした。靴のひもを結ぶこと，シャツのボタンをかけること，大きな荷物を運ぶこと，自動車を運転すること，ひげをそること，絵を描くこと，食べること，人からじろじろ見られること，なくなったはずの右腕に幻覚症状として痛みを感じること，などなどすべてがチャレンジでした。

わたしは，慣れなければならないことや，学ばなければならないこと，またもう一度学び直さなければならないことが山ほどあるということにすぐ気づきました。また，腕が1本しかないということはほとんど動かしようのない事実であり，この事実に対して，また概して人生に対してどのような態度を執るかは，まったく自分次第だということにも気づきました。わたしは人生の分かれ道に立っていたのです。確かに泣こうと思えば泣くこともできました。それとは反対に，信仰を持ち積極的な態度で，右腕をなくした経験やそのほかのすべてのチャレンジを受け止めることもできました。わたしの幸福と永遠の福利はわたしの選びにかかっていたのです。

わたしの下した決定は単純なものでした。わたしが選んだのは，積極的，創造的になること，とことん元気になること，経験を通して成長するよう地上に送られた神の息子として，その使命を果たすために可能なかぎりあらゆることに挑戦することでした。いったんこのような決定を下してしまうと，もう決して過去を振り返ることはありませんでした。

預言者ジョセフ・スミス（1805年−1844年）は，リバティーの監獄で悲惨な境遇に置かれ，多くのチャレンジと苦難を経験しました。自分自身がとてもひどい健康状態にありながらも，荒れ野に残された末日聖徒と自分の家族の福利を気遣い，彼は主に嘆願しました。回復の過程とシオンの確立について十分に理解できたと感じているのに，どうしてこのような不幸が立て続けに起こるのかその理由を知りたかったのです。主の与えられた答えは，だれもが皆，多くのチャレンジに満ちたこの現世での経験から利益を得ることができるというものでした。「息子よ，あなたはこのことを知りなさい。すなわち，これらのことはすべて，あなたに経験を与え，あなたの益となるであろう。」（教義と聖約122：7）

わたしは自分自身の実体験から学びました。あの手術から数日後，わたし

はだれもいない寝室に立ち，教会に行く準備をしていました。わたしは左手でネクタイを持ち，考えました。「さてと，この面倒なネクタイをどうしようか。」わたしはまず母に助けてもらうことを考えましたが，すぐにその考えを捨てました。母がわたしの伝道地にやって来てわたしのネクタイを締めたり，そのほかの点でわたしの面倒を見たりすることなどできないのを承知していたからです。自分のことは自分でやるしかなかったのです。忍耐強く，わたしはネクタイを自分で締めました。歯を少し使わなければなりませんでしたが，一人でできる，しかも上手にできるということが分かりました。その日，わたしの理解の目は開かれました。忍耐し，信仰を持ち，決心すれば，自分の前に立ちはだかるほとんどすべてのチャレンジを処理できるということがはっきりと分かったのです。

わたしはこれまでの経験により，どんな人であれ，人生の様々な難しいチャレンジを乗り越えるのに，同じような信

主はジョセフ・スミスにこう語られました。「息子よ，あなたはこのことを知りなさい。すなわち，これらのことはすべて，あなたに経験を与え，あなたの益となるであろう。」

絵／サム・ローラー。「リバティーの監獄におけるジョセフ・スミス」グレッグ・K・オルセン画

仰，決心，積極的な態度が役に立つということを知りました。わたしの話は肉体的なチャレンジと関係していますが，わたしたち人間はそれ以外にもありとあらゆる種類のチャレンジに直面します。そのようなチャレンジの中には，財政に関するもの，家族の問題，教育を受けること，拒絶されたという気持ち，愛する者との別れ，誤解されること，などがあるでしょう。青少年が遭遇するチャレンジは，多くの場合，知恵の言葉，乱暴な言葉遣い，道徳的な清さ，ふさわしくない娯楽，あるいはインターネットを見ることに関する誘惑などと結びついています。

皆さんにとって役立ちそうな4つの原則を紹介しましょう。

1.天の御父を知る

天の御父や救い主と自分との関係について確実に理解してください。言い換えれば，自分が何者なのか確実に理解してください。天の御父が準備してくださった幸福の計画に対する自分自身の証は，自らの永遠の行く末を理解し，人生の旅で成功を収めるという決意をするうえで役立ちます。主がわたしたちにどのようになってほしいと望んでおられるか理解するときに，戒めを与えられた理由，戒めを守る理由が非常に明らかになってきます。救いの計画を確実に理解し，福音に関する自分の証を堅固なものとしてください。

そのような重要な事柄に関する証は容易に得られるものではありません。しかし，信仰をもって日々祈り，聖文を読み，毎週日曜日にふさわしい状態で聖餐にあずかるときに，証は強められます。

2.今 決心する

仲間からの社会的な圧力や誘惑を受けたときにどう行動するか，今決心してください。12歳ぐらいのとき，わたしはどんなときにも知恵の言葉を守ろうと決心しました。過去において，この戒めを破る誘惑を何度も受けましたが，「けっこうです」という答えが，いつも自然で，時間もかからず，効果的でした。誘われたらどう対処するか答えを前もって決めていたので，友人から圧力を受けて悪い決定を下すという可能性におびえたことは一度もありませんでした。

良い決定をして失うものは何もありません。忘れないようにしてください。もし破壊的な挑発や誘惑に直面する前に決心をしていないならば，誤った決定を下す可能性は何倍にもふくれ上がります。

皆さんの中には，わたしが今提案しているようなことを行ってこなかった人や，もうすでに重大な過ちを犯してしまった人がいることは承知しています。恐らくそのような間違いについて知っているのはあなただけ，あるいはもう一人か二人の人だけかもしれません。しかし，そのような間違いをあなたの霊は恥ずかしく思っていることでしょう。主にふさわしくなりたいと願っていても，何を頼りとし，どのように問題を解決すればよいのか分からないかもしれません。わたしは心からの祈りの中で主に語りかけ，監督または支部長に事情を説明し，両親と相談するよう提案します。批判や恥ずかしい思いが待ち受けているだろうと想像するかもしれません。しかし，きっと愛と支え，新たな自分へと変化するすばらしい機会を見いだせるはずです。

3.悔い改めを引き延ばさない

救いに至る道は容易で，世の標準に従って生活してもかまわない，またどのようなことであれ，主は自分の行為の結果から自分を救ってくださる，だから悔い改めを引き延ばしても問題ではない，などといった考えに決して欺かれないでください。ニーファイが語ったあのわなに絶対に陥らないでください。「次のように言う者もまた大勢いる。『飲み食いし，楽しみなさい。しかし同時に神を畏れなさい。神は少しの罪を犯すことは許してくださる。だから，少し

左――フォトイラストレーション／ジュディ・ノートン。右――フォトイラストレーション／マーティ・マヨ

わたしたちは天の御父にとってほんとうに大切な存在です。天の御父はわたしたちを愛し，わたしたちに帰って来てほしいと望んでおられます。それと同時に，天の御父はわたしたちが清くなり，数多くの経験から学び，成長するよう望んでおられます。

ばかり偽りを言い，人の言葉に付け込んで欺き，隣人を陥れる穴を掘りなさい。これは少しも悪いことではない。わたしたちは明日は死ぬ身なのだから，これらのことをすべて行いなさい。たとえわたしたちに罪があるとしても，神はわたしたちをほんの少し鞭打たれるだけで，結局わたしたちは神の王国に救われる。』」(2ニーファイ28:8)

主はわたしたちが主のもとに帰るよう願っておられます。しかし，わたしたちは世の罪と汚れに染まったままの状態で主のもとに帰ることはできません。主はわたしたちが決心をして主のようになろうと一生懸命に努力する主の真の弟子となるよう望んでおられます。主がわたしたちに与えたいと望んでおられる祝福にあずかるには，努力と訓練が必要なのです。わたしたちが悔い改めて最善を尽くすときに初めて，主はその憐れみによって，わたしたちが清くなれるよう助けることがおできになるのです。

4.戒めを守る

日々，いつも御霊がともにあるような人生を送ってください。この次に聖餐を受けるときに，祈りの言葉によく耳を傾けてください。すると，戒めを守る人々に対する非常に特別な約束が聞こえてくるはずです。それは「いつも御子の御霊を受けれられる」という約束です(モロナイ4:3)。戒めとは何とすばらしい祝福でしょうか。

戒めとはわたしたちを拘束し，制限するものだと考える人がいます。実は，この戒めは，ひとえにわたしたちが愛に満ちた天の御父にさらに似た者となるよう助けるために与えられたものなのです。天の御父は御自身に従う息子や娘にこの上ない永遠の祝福を与えたいと願っておられます。天の御父は，御自身が心の底からわたしたちに伝えたいと願っておられる生活様式に属さないものを避け，かかわらないようにと勧告しておられます。

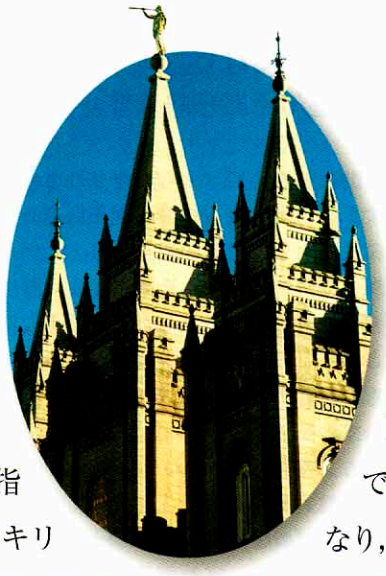
2，3年前のこと，わたしとディクソン姉妹は宣教師に話をする割り当てを受けて，プロボの宣教師訓練センターに到着しました。宣教師訓練センターの所長から宣教師のためにネクタイを締めるところを見せてはくれないかと依頼されました。伝道活動に伴ってどんなチャレンジに直面したとしてもきっと乗り越えられるということを宣教師に理解してもらいたいとのことでした。わたしは彼の求めに応じて，話の内容を変え，今この記事の中で述べたことも幾つか話すことにしました。

もうすぐ話が終わるというころになって，わたしはちょっとしたネクタイ締め競争に参加してもらおうと前列に座っていた4人の宣教師に出て来るよう手招きしました。一人の宣教師が左手だけ使った方がいいですか，と尋ねましたが，わたしは両手を使うように勧めました。ご想像のとおり，わたしが競争に勝ったときには宣教師全員が大喜びしました。

しかし，わたしはこの記事を通して，ネクタイ締めで一番になることや，最高のクォーターバックやチアリーダー，ハンバーガー大食い競争のチャンピオンになることを勧めているわけではありません。ただ，自分が一体何者なのかということ，わたしたちが天の御父にとってほんとうに大切な存在であり，天の御父がわたしたちを愛し，わたしたちに帰って来てほしいと望んでおられることを知っていただきたいのです。それと同時に，天の御父はわたしたちが清くなり，数多くの経験から学び，成長するよう望んでおられることも知っていただきたいと思います。

過去何十年にもわたって，わたしは人生で多くのチャレンジに対処してきました。皆さんもこれからの自分の人生で様々なチャレンジを経験することでしょう。興味深い予期せぬ出来事と次の予期せぬ出来事のはざまの時間について言えば，人生は平穏無事に流れていきました。しかし個人的に真に成長したのはいつも決まって，そうした人生のチャレンジを乗り越えようと一生懸命努力していたときだったのです。人生で遭遇するチャレンジは，わたしたちの進歩を阻む障害ではなく，成長を促す踏み台と考えなければなりません。チャレンジは必ずやって来るものです。わたしたちはそのようなチャレンジを克服し，前進しなければならないのです。□

「神の王国はここにあります」



ゴードン・B・ヒンクレー大管長は次のように述べています。「わたしたちは地上における最も偉大な王国，すなわち人の知恵によって指導されているのではなく主イエス・キリストによって導かれている王国の住民です。この王国は実在します。その行く末は明らかです。」（本誌，4ページ参照） 今月の大管長会メッセージで，ヒンクレー大管長は真理の7本の柱を明らかにしています。それは永遠の真理であって，この世の信念や価値観が移り変わろうと，変わることがありません。その柱の1本が「神の王国はここにあります」なのです。教会とかかわりを持つようになり，真心から真理を見いだそうと望む人は皆，この簡潔で根本的な真理に出会います。これから紹介する話からも明らかなように，この真理の柱は変わることがなく，かえって人が証（あかし）を得るにつれ，その人の心と生活が変わるのです。

わたしへのすばらしい贈り物

ステファニア・ポスティグリオン

末日聖徒イエス・キリスト教会に入った理由を尋ねられることがわたしは何度もありました。そういうときはいつでも，バプテスマを受けたばかりの友人宅で宣教師に出会ったときの話をしていました。しかし時の経過とともに気づくようになったのです。あの最初の出会い以前から数多くの出来事により，わたしは福音を受け入れるよう備えられていたのです。

わたしは活発でエネルギーにあふれる若い女性でした。わたしの生活は，友達と時間を過ごすか，道場で練習するかに二分されていました。それ以外で心を引かれるようなものは一切ありませんでした。わたしは武道に夢中でした。武道のために生きていたのです。ですからそれがわたしの生活様式となっていました。事実上，武道がわたしの宗教だったのです。成績もよく，すでに多くの技を身に付けていました。人からの評価が高まれば高まるほど，優越感も高まっていきました。それは特に，わたしが男性優位のスポーツで活躍する女性だったからです。

日がたつにつれ，日々の練習後，ざわざわと不安を感じるようになっていきました。息切れや動悸（どうき）を起こすこともしばしばでした。

やがて判明したことは，このような激しいスポーツから生じる慢性的なプレッシャーが引き金となって，遺伝的に不整脈の出やすい傾向が悪化していると

絵／ブライアン・コール

わたしは武道に夢中でした。
しかし厳しい練習が引き金となって，
不整脈の出やすい傾向が
悪化してしまいました。
わたしは苦しんだことで，
さらに何かを探し求めるよう
導かれました。

いうことでした。痛みは増し，立っていることすらできないときもありました。ほぼ一晩でわたしの優越感は崩れ落ちました。不適切な医学的判断が度重なったために症状は悪化し，2度も心停止寸前の状態に陥りました。

5年間に2回の手術を受け，医者を変えたり，病院を変えたりしながら通院を続けました。ついに両親による介護がいつも必要になりました。

入院中，苦しんでいる人や痛がっている人を数多く目にし，人を愛する必要性に気づきました。人生でほんとうに何が大切なのか理解し始めたのです。

わたしの心は変わり，だれかが自分の人生をやり直す機会を与えてくれているように感じました。神について思いを巡らすようになりました。それまで神は自分の人生と無縁であると信じていたのです。様々な宗教の勉強を始めて，どの宗教にも共通する愛に感銘を受けました。そのような時期に，ある友人がこのような幸せをもたらした宣教師について話してくれました。わたしは彼らと会い，1か月後にバプテスマを受けました。

今となっては，苦しんだことを感謝しています。苦しみがあったため，わたしが福音を聞く道が開かれたのですから。神はまことに不思議な方法でその子らを備えられるのです。

わたしは福音を受け入れてから，人と真理を分かち合う特権に恵まれました。また神殿にも参入し，大いなる祝福を受けています。神のために働くことができるので神に感謝しています。主の福音はまことにわたしへのすばらしい贈り物です。

ステファニア・ポスティグリオンはイタリア・ナポリ地方部，フレグレオ支部の会員です。

聞くことを拒んでいたわたし

イザベル・ベリオス

わたしはどんなときでも天の御父とイエス・キリストを信じる信仰を持っていました。しかしこの教会はわたしにとって別問題でした。わたしが信じていたのは，この教会はほかのどの教会とも何ら変わりなく，わたしを救いに導くことのできる数ある教会のうちの一つにすぎないということでした。

それではどうして教会員になったのでしょうか。わたしは自分の宗教的原則に適する教会を前から探し求めていました。末日聖徒イエス・キリスト教会を見つけたとき，一つの「良い宗教」を見いだしたことを知ったのです。つまり，聖書の勉強からわたしがすでに信じていた教義を支持する宗教です。その知識だけで十分であると自分で決めつけていました。

しかし教会に出席し，話や証(あかし)を聞くにつれ，一つの望みが強くなっていきました。それはこの教会が実際にイエス・キリストの回復された教会なのかどうか，自分自身で知りたいという望みでした。地上における唯一まことの教会なのかどうかということです。わたしはモルモン書を読んでみようと決心しました。それまで読んだことがなかったのです。わたしは教会の機関誌を読んで当然気づいていました。それは信仰を持ち，心を開いて天の御父から証を得ようとしなければ，証は得られないということです。それでわたしは勉強し，モルモン書が真実であるという証を得たのです。

それでもなお教会に対する疑いがありました。わたしは明確で決定的な答えを神から得たかったのです。何か非凡で，わたしを納得させてくれるようなものです。しるしを求めてはならないことは承知していましたが，そのことばかりを考えるようになってしまい，探し求めていた証を受ける妨げとなっていたようです。このようにして確認を求めれば求めるほど，ますます逆らう気持ちが強まっていきました。そして希望を失い始めたのです。

ある日インスティテュートのクラスで，教師がビデオを見せてくれました。それはまるでわたし自身のような人，つまり証に確信を持てないでいる人を描写したビデオでした。その人は監督に勧告を求めました。監督が説明したのは，天の御父はわたしたちの祈りにこたえるタイミングを探しておられるが，わたしたちは聖霊に心を向け，聖霊を受け入れなくてはならないということでした。またビデオの中の監督は言いました。聖なる御霊(みたま)の声を聞き分けるようになるためには，時間と謙遜(けんそん)な心が必要である，と。

わたしはその言葉に深く感動しました。わたしははっきり理解したのです。これまで一度も教会に関して御霊の声に耳を傾けなかったのは，そうする気持ちがなかったからなのです。教会に対する証を祈り求め始めたときから，答えは静かに，徐々に与えられていました。でも，わたしが聞くことを拒んでいたのです。

そのインスティテュートの授業中に，自分では理解できない変化を心の中で感じました。そして9年間ものしかかっていた不信という重荷が消えたのです。そのときわたしは，それまで信じかねていたことを受け入れました。

しかしそのときですら，御霊に抵抗するよう誘惑を受けました。わたしは自分に言い聞かせました。今感じているのはつかの間の感銘であり，ビデオに

**ビデオを見ながら，
わたしははっきり理解したのです。
これまで一度も教会に関して
御霊（みたま）の声に耳を傾けませんでした。
答えは静かに，
徐々に与えられていました。でも，
わたしが聞くことを拒んでいたのです。**

対して情緒的に反応しているだけだと。教室を離れても，その葛藤（かっとう）を引きずっていました。それでわたしは一人になれる場所を見つけました。そこでは聖霊の存在がもっとはっきりと分かり，ようやく不信から解き放たれました。わたしはたとえようのない喜びに満たされました。肩の荷を下ろすことができたのです。

今わたしは確信をもって言うことができます。末日聖徒イエス・キリスト教会は唯一まことの教会であり，この末日にイエス・キリストが預言者ジョセフ・スミスを通して回復された教会です。この証はわたしにとって貴いものです。この証があるので，主とその教会が与えてくださるさらに重要な光と知識を受けるための霊的な備えができていると感じています。

イザベル・ベリオスはボリビア・コチャバンバ・コビハステーク，リンデワードの会員です。

一粒の種から

レックス・ユージン・クーパー

伝道期間中で最も落胆したのは，メキシコのトゥランシンゴで過ごした4か月間でした。伝道は大変でした。来る日も来る日も，同僚とわたしが何時間もかけて戸別訪問をしても，興味を持ってくれる人はだれもいませんでした。

ようやくわたしたちのメッセージを聞いてくれる二人の男性を見いだしました。わたしの心はわくわくしました。それは，この二人がトゥランシンゴの小さな支部にとって貴重な人材になると感じたからです。しかし二人ともバプテスマを受けないと決めたとき，わたしは絶望しました。

そのころ，ある12歳の少女が支部のある家族を訪問するためにトゥランシンゴにやって来ました。その少女は教会に関心を持ち，喜んで福音を受け入れました。間もなく少女の父親は，彼女がバプテスマを受けることを許可してくれたのです。

しかしこのバプテスマがあっても，あの二人の男性に対して感じた落胆はほとんどいやされませんでした。わたしはあの二人がこの地域で教会を築き上げる助け手になることを希望していました。この少女はあまりにも若く，家族の中でたった一人の会員だったので，今後活発に集っていくかどうか疑問に思いました。バプテスマを受けてすぐに少女はトゥランシンゴを離れ，少女との連絡は途絶えてしまいました。実のところ，その少女のことをすっかり忘れてしまったのです。

伝道から35年以上たちました。最近，思いもかけず次のような手紙が届きました。

「*愛するクーパー兄弟，*

わたしはJ・ホビタ・ペレス・アコスタです。1965年12月1日にトゥランシンゴでバプテスマを受けました。あなたがわたしの人生に福音をもたらしてくれたことに対して，ぜひお礼を申し上げたいと常日ごろ思っていました。

あなたが福音を教えてくれたとき，わたしは12歳で，トゥランシンゴで夏を過ごしていました。ジョセフ・スミスの物語を聞いた日のことをはっきりと覚えています。それが真実だと感じ，その晩わたしは初めてひざまずき，教わったように祈りました。そのとき，わたしの天の御父とお話しする方法を学んだのです。

母はわたしのバプテスマのことで父に腹を立てました。そして両親はわたしをカトリックの寄宿学校に入れてしまいました。その地域一帯には教会の会員がいませんでした。わたしはモルモン書を持ってもいませんでした。しかしわたしは祈り続け，あなたがわたしの心の中

にまいた種が芽を出し始めたのです。

ある日自分の置かれている宗教的環境について考えている間に，天の御父はわたしのことをお喜びではないと感じました。わたしは困惑してしまいましたが，主の教会に属したいと告げました。神にとって良い娘になれるよう助けてくださいと願い求めました。それからしばらくして，〔末日聖徒の〕教会が経営するメキシコシティーの学校に手紙を出し，入学させてくれるよう頼まずにはいられないように感じました。わたしは入学を許可されました。そのときから証が養われ始めたのです。

7年後，妹3人が教会に入りました。そして妹たちも教会経営の学校で寄宿しながら学びました。母は夏の間，わたしたちを母の教会に出席させましたが，それでもわたしたちは聖文を読み，家庭の夕べを開くようになりました。わたしのバプテスマから10年たって，母といちばん下の弟がバプテスマを受けました。その1年後，父がバプテスマを受けました。わたしたちは自分たちの町や近隣のすべての町で，最初の会員家族になりました。最寄りの集会所に集うには4時間もかかりました。両親はよく隔週に出かけて行っては，そこでの集会に参加しました。

そのような時期にわたしはひどい病に冒され，両親のもとに数か月間帰郷しました。毎週家庭の夕べを開きました。母は決まって近所の人をほとんど招待し，およそ30人が参加してくれました。

ある日わたしはメキシコシティーにある伝道本部に電話をかけ，宣教師を送ってくれるようお願いしました。そういうわけでその地区全体で最初の支部が誕生したのです。父が支部長になり，母は扶助協会の会長になりました。現在ではほかの町にも支部が多数あり，二つの地方部に組織されています。

わたしの末の妹は後に夫となる男性を改宗に導き，二人とも伝道に出ました。彼はシウダーフアレスで監督をしており，5人の子どもに恵まれています。二人のおいと一人のめいもまた伝道に出ました。わたしの長男は去年伝道から帰り，現在娘がワシントンD.C.で伝道しています。末の息子は来月メキシコの伝道部に赴きます。

わたしの両親は合計26人の孫に恵まれていて，全員教会員です。お分かりのように，あなたが何十年も前にまいた小さな種の一粒が大きく生長して木になり，実をつけ，新たな木々のための種を生み出しているのです。喜ばしいことではありませんか。長男が伝道に出発するに当たり，わたしは言いました。なすべきことはただ愛をもって主のぶどう園に種をまくことだ，と。恐らく息子はその木が生長し，実がなるのを見ることは決してないでしょう。しかし主はそれを御覧になるでしょう。

福音のおかげで多くの幸せを手に入れることができました。福音がなかったとしたら，どんな人生を送っていたか分かりません。わたしはイエス・キリストがわたしの贖(あがな)い主であり，主の業が地上の家族を祝福しながら前進して行くことを知っています。

あなたの信仰上の姉妹である，
ホビタ・ペレス」

この手紙を読み，わたしは喜びに満たされました。今でははっきり分かりますが，わたしが伝道中成し遂げたことで恐らく最も大切だったのは，その当時ほとんど意味がないように思えたことだったのです。

宣教師が自分の働きの成果にすべて気づくことはほとんどありません。しかしもし精いっぱい働き，結果について疑いを抱いたり心配したりしなければ，福音を分かち合うことにまことの喜びを見いだすことでしょう。

レックス・ユージン・クーパーはユタ州ハイランド東ステーク，ハイランド第4ワードの会員です。

わたしの友達「ミルクセーキ」

ロバート・リー・「ロッキー」・クロックレル

1958年2月，わたしは17歳で合衆国海軍に入隊しました。航空母艦に配属され，そこでユタ州プロボ出身のレーモンド・コビントンに出会いました。

わたしはレーモンドのことを少し変わり者だと思いました。たばこも吸わなければアルコールも飲みません。汚らわしい言葉を口にすることもしません。まったく何もしないのです。娯楽として何をするのか尋ねてみました。彼はいろいろなことをすると言いました。しかしおもな楽しみは，朝一番か夜寝る前に大きなグラスでミルクセーキを1杯か2杯飲むことだと言うのです。それでレーモンドには「ミルクセーキ」というあだ名が付けられました。

夜になると，レーモンドは自分の教会である末日聖徒イエス・キリスト教会についてよく話してくれました。わたしは実のところ，かなり関心を持ちました。しかし，もしわたしが教会に入っても，神権を持つことはできないだろうと言われて気持ちが変わったのです。嫌な気持ちを引きずっていました。わたしの動揺に気づいたレーモンドは，たぶんいつかわたしに神権が与えられる日が来るだろうと感じていることを話してくれました。

次第に友達の中で，レーモンドをい

ちばん気に入るようになってきていました。それは彼の生き方のためでした。しばらくして気づいたのは，わたしはそれまで送っていた生活様式をすでに捨てていたことです。そして正しいことをしたいと望んでいる自分がいたのです。レーモンドによって，汚らわしい言葉を口にする必要もなければ，アルコールを飲む必要もないと気づきました。わたしは義にかなった生活を送るという選択ができたのです。

ある日水兵が何人かデッキに座ってかけ事をしていました。一人がレーモンドを見上げて言いました。「ミルクセーキ！　この汚らわしい言葉を言ってみろ。そうしたらここの金を全部やってもいいぞ。」わたしはすかさずお金を数えてみましたが，合計すると給料2か月分のお金でした。レーモンドとわたしは仲良しなので，その半分はもらえるだろうと皮算用をしていました。ところががっかりしたことに，レーモンドは汚らわしい言葉を口にしませんでした。わたしは熱心に頼んだのですが，彼はそんな話に乗るようなことはしませんでした。そのときわたしは悟りました。まことの末日聖徒になるということは神聖な責任なのです。

レーモンドは1961年6月に除隊し，わたしもその年の後半に除隊になりました。あの旧友はどうなったのだろうかとよく考えました。

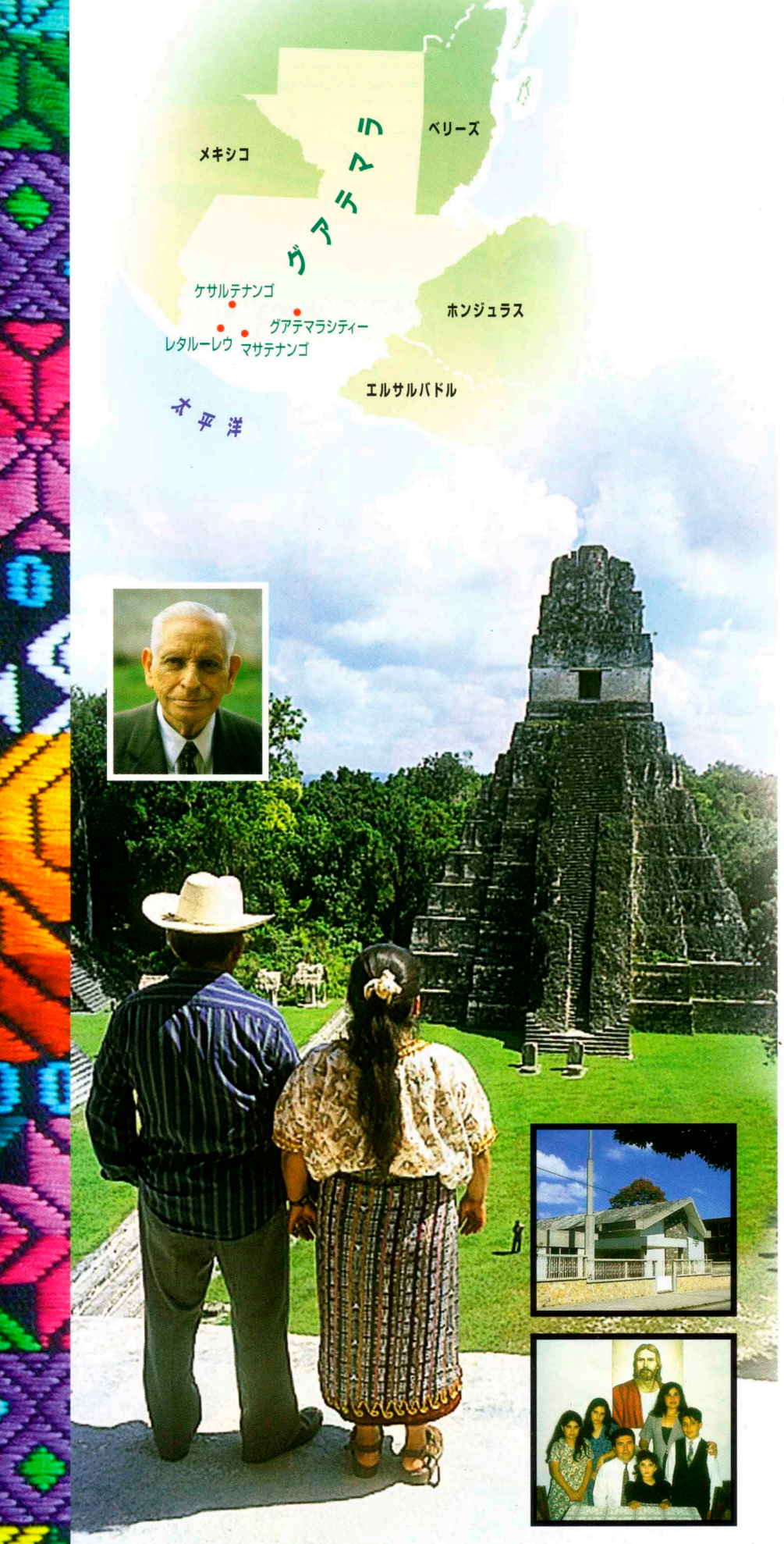
それから何十年もたった1990年のある日，合衆国ワシントン州の我が家の窓から外を眺めていると，きちんとした身なりの若い男性二人が目に留まりました。教会の宣教師です。わたしは二人を家に招き入れました。しばらく話し合ってから，レーモンドの願いがすでにかなっていたことを知りました。スペンサー・W・キンボール大管長は1978年に啓示を受け，ふさわしい男性は皆神権を受けることができると定められていたのです。わたしは大喜びしました。宣教師からレッスンを受けた後，わたしはバプテスマを受けることに同意しました。

そのころ，やはり教会の会員である近所の人に，レーモンドとの友情について話をしました。わたしはまさかそのご近所さんがユタ州まで行って，実際にレーモンドを見つけてくるとは夢にも思いませんでした。2週間後，わたしの古き友達である「ミルクセーキ」は1,000マイル（約1,600キロ）以上も運転して来て，わたしのバプテスマ会で話をしてくれたのです。レーモンドはわたしが教会に入るだろうとずっと分かっていたと言いました。

1997年12月，レーモンドのお嬢さんから電話があり，彼が亡くなったことを知らされました。それを聞いて悲しみを覚えました。でも，わたしが笑みを浮かべているのは，ロッキーとその友ミルクセーキがいつの日かとばりの向こう側で再会する日を思い巡らすからなのです。□

ロバート・リー・「ロッキー」・クロックレルはワシントン州タコマステーク，ウォロケットワードの会員です。

水兵の一人がレーモンドを見上げて言いました。「ミルクセーキ！ この汚らわしい言葉を言ってみろ。そうしたらここの金を全部やってもいいぞ。」



グアテマラ 未来に

古代アメリカ人の血統を
受け継ぐこの国では，福音の
根がしっかりと張っています。
現在のこのような繁栄は，
将来のさらに大きな発展を
約束しています。

ドン・L・サール

ベルタ・ロペスは，『リアホナ』（スペイン語版）の黄色く変色したページを開いて，若い女性たちが１列に並んで写っている１枚の写真を指さして，言います。「ほら，これがわたしよ。」当時，ベルタはまだ10代でした。1951年のその日，グアテマラシティーで末日聖徒の少女たちのために開かれた活動に集う，ほんの一握りの会員のうちの一人だったのです。10人にも満たない数でした。しかし，

左――ティカルにあるマヤの遺跡を訪ねるグアテマラ人夫婦。
左上枠内――グアテマラで最初のステーク会長を務めたウディネ・ファラベリャ。
右下枠内（上）――中央アメリカで最初に教会が建築した礼拝堂となったグアテマラシティーのモントゥファル礼拝堂。
右下枠内（下）――グアテマラ・グアテマラシティー・アトランティコステークのフェデリコ・カストロ会長とその家族。

写真／ドン・L・サール。地図／トマス・S・チャイルド

アテマラ

向かって築き上げる

それはグアテマラの教会では，2世代前のことだったのです。

今，ベルタは窓の外の隣の家を眺めています。隣の家では，娘のジーナ・ラミレスが初等協会の勇者クラスの活動を指導しているところです。ジーナは，市内に20あるステークの一つ，グアテマラ・グアテマラシティーステークに所属する支部の初等協会の会長をしています。今ベルタが目にしていることは，グアテマラの会員たちが50年前には夢としか思えなかったような発展ぶりをそのまま表したものなのです。

この首都のほかの地域では，まだ若いリカルド・アヤラとその家族が，ソルトレーク・シティーからの衛星中継によるファイヤサイドを見るためにステークセンターへ向かっています。しかも，同時通訳によって自分たちの言語で視聴することができるのです。

グアテマラ・グアテマラシティー・パルミタステークの会員であるリカルドは，今年高等学校を卒業する予定です。19歳になったときには伝道に出ることを希望しています。仕事を見つけることは簡単ではないかもしれませんが，とにかく仕事を探して，貯金をし，伝道にかかる経費を全額自分で賄いたいと思っています。

ロペス家族やアヤラ家族のような末日聖徒がいるおかげで，教会に対する認識はグアテマラでは変化してきました。かつてごく当たり前に存在していた教会に対する誤った情報も，今ではほとんど信頼されなくなっています。現在では，かなりの数のグアテマラ人が末日聖徒のことを知っていますし，また，どういうことを信じているかということも知っています。この国の人口に対する教会員比率（約1.5パーセント）は，アメリカ合衆国の教会員比率（約1.8パーセント）に迫る勢いです。ちょうど神殿がグアテマラシティーにとって特別な建造物となったと同様に，末日聖徒たちもその地域社会の中で特別な存在となりつつあります。

チャレンジを克服する

末日聖徒の宣教師が初めてグアテマラに到着したのは，1947年のことです。当時そこに住んでいた北アメリカ人のジョン・F・オドナルが，ソルトレーク・シティーの教会本部を訪ねて，この国には福音を聞く用意のできている人々がいると報告したのを受けてのことでした。彼の妻カルメンは，グアテマラ人として最初にバプテスマを受けた人物となりました。また，オドナル兄弟自身も，その後，伝道部長として，また神殿長として，グアテマラで奉仕しました。

1952年には，中央アメリカ伝道部が設立されました。この伝道部は，1965年に分割されるまで，管轄区域が6か国に及んでいました。グアテマラ，ホンジュラス，エルサルバドル，コスタリカ，ニカラグア，そしてパナマの6か国です。現在では，グアテマラだけでも4つの伝道部があります。全国で40のステークがあります。1989年には，生粋のグアテマラ人であるカルロス・H・アマーゾー長老が，七十人の会員として召されました。

しかしながら，グアテマラの教会では，重要なチャレンジに幾つか直面しています。

かつて中央アメリカ地域会長会の会長を務めた七十人のリン・G・ロビンズ長老の言葉によれば，グアテマラの教会員にとって最大のチャレンジの一つは，伝統との戦いであるということです。グアテマラの中心的な宗教には，会員が集会に集ったり，教えたり，指導者として働いたりといった習慣がありません。そのため，新しい会員の中には，教会の中で活発であり続けるのは難しいと感じる人も出てきます。古い会員の中には，活発な状態から滑り落ちる人がいて，そのために，活発化に払う努力もかなりのものとなります。

地元の神権指導者たちは，地域会長会から出された勧告に従って，あまり活発でない会員の訪問を行い，宣教師たちが福音を教えるように決意を促します。「～していただけますか」という言い方で勧めるのです。例えば，「問題があって，教会に完全に活発に集うことができないとおっしゃるのでしたら，その問題の解決のために，監督か支部長に相談していただけますか。推薦状を頂いて神殿に参入できるよう，監督か支部長とお話ししていただけますか」といった勧め方です。質問は会員の必要

に合わせて変えていきます。

グアテマラ・ハラパステークのミネルバワードのミルトン・レオネル・リマ監督がこの方法を14人の会員に試してみたところ，10人がその勧めを受け入れて，自分たちの生活を変えるために必要な行動を起こし始めました。それで，監督と副監督たちは，次に訪問する会員たちのリスト作りに直ちに取りかかりました。

地域会長会は，「多数の若い男性を伝道に送り出すことに力点を置いている」と，ロビンズ長老は語ります。伝道に出る若者の割合は，2000年には，50パーセント以上も上昇しました。

グアテマラ人はさらに，経済面でのチャレンジも抱えています。失業者や不完全就業労働者が25パーセントを超えているのです。教会の地域雇用促進事務所では，特に帰還宣教師を対象に，職業訓練を行っています。仕事に就く準備をしたり，仕事を探したりするためであり，あるいはまた，ビジネスを興したりするためです。教会では，小さなビジネスを立ち上げるための手助けができるよう，低額貸しつけ制度の支援も行っています。さらに，学校が休みのときに，青少年が職業技術を磨くことができるよう，クラスを開設しているステークも幾つかあります。

変化する文化

グアテマラ人の生活は，祖国に福音が紹介されて以来，年々，大きく変化してきました。

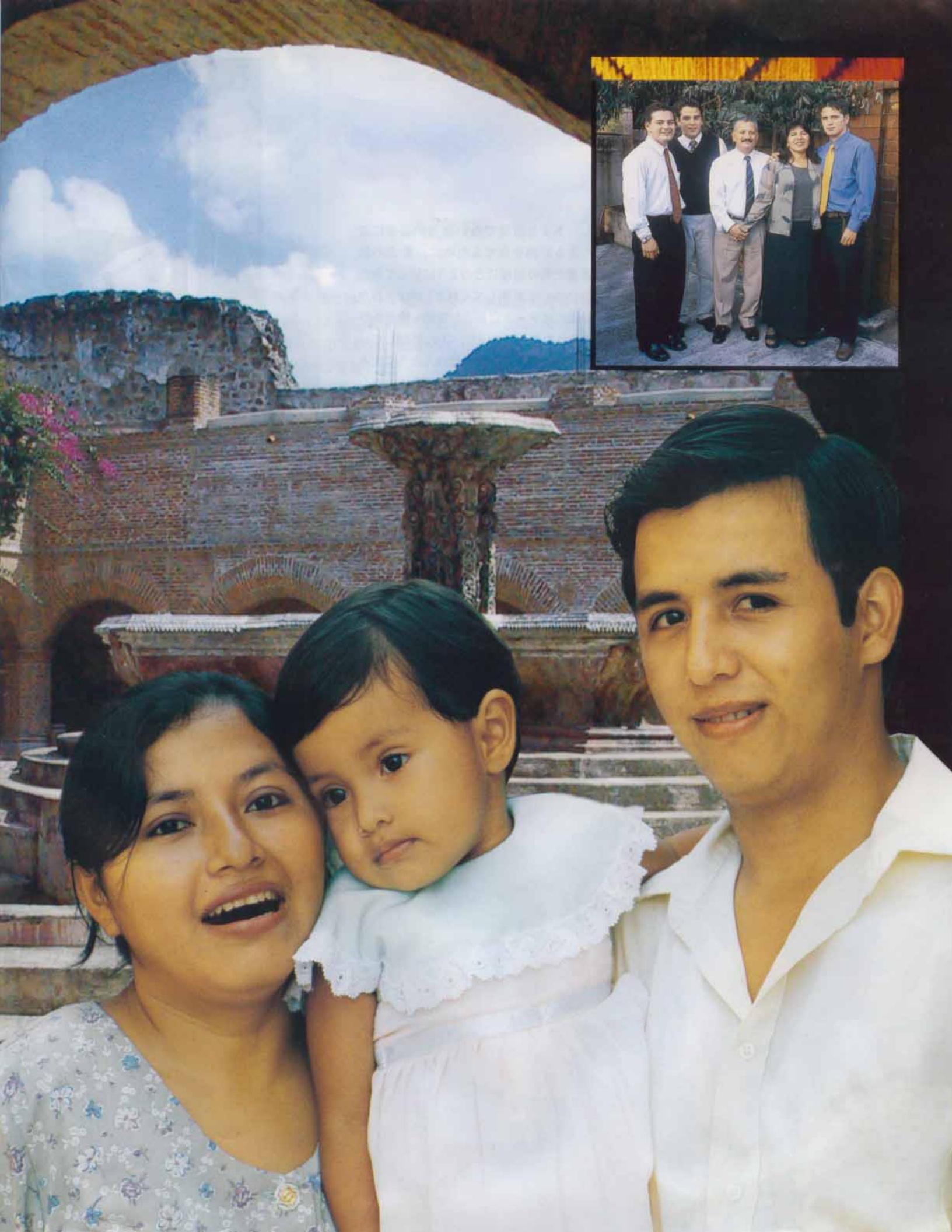
注目すべきことは，マヤ族の子孫を含む，グアテマラの原住民族が教会やグアテマラ社会の主流を占めつつあるということです。ポロチクやその他の大きなマヤ族居住区では，教会の集会が会員の現地語で運営されることがよくあります。しかし，今では大半の人々がスペイン語を話すことができます。1世代前の，1960年代の中ごろには，スペイン語を話す宣教師の中に，マヤ語を学習した人もいました。多くの家族では，スペイン語を話せるのが男性だけだったからです。今では，このようなことはもう必要なくなりました。

グアテマラ人の識字率も大きく改善しています。これはつまり，数多くのマヤ族の人々が，自分たちの言語に翻訳された聖文を読むことができるようになったということです。

モルモン書は今ではケクチ語で読むことができます。また，モルモン書からの抜粋は，キチェ語，カクチケル語，マム語といった，グアテマラのマヤ族の主要言語で読むことができるようになっています。

ケサルテナンゴのティメテオ・ボフとエバ・ボフは，ともにマヤ族の子孫です。二人は，1970年代の中ごろに教会に加入しました。現在では，ボフ家族とその一族は成功した企業家として地域社会でも有名な存在になっています。この一族からは，つまり，8人の子どもたちとその伴侶（はんりょ），そして18人の孫たちの中からということになりますが，監督が4人，扶助協会の会長が4人，初等協会の会長が6人，若い男性の会長が4人，若い女性の会長が5人，そして宣教師が7人，出ています。この家族は，陽気で品の良いユーモアを愛する人々であり，訪問者があると，地元の愛唱

右――レタルーレウのアダ・マロキンとネリー・マロキン。娘のブランカとともに。
背景――アンティグアの庭の噴水。
枠内――グアテマラのグアテマラシティー・パルミタステークのルベン・アヤラとイリス・アヤラ。ルベン，ホセ，リカルドという3人の子どもとともに。



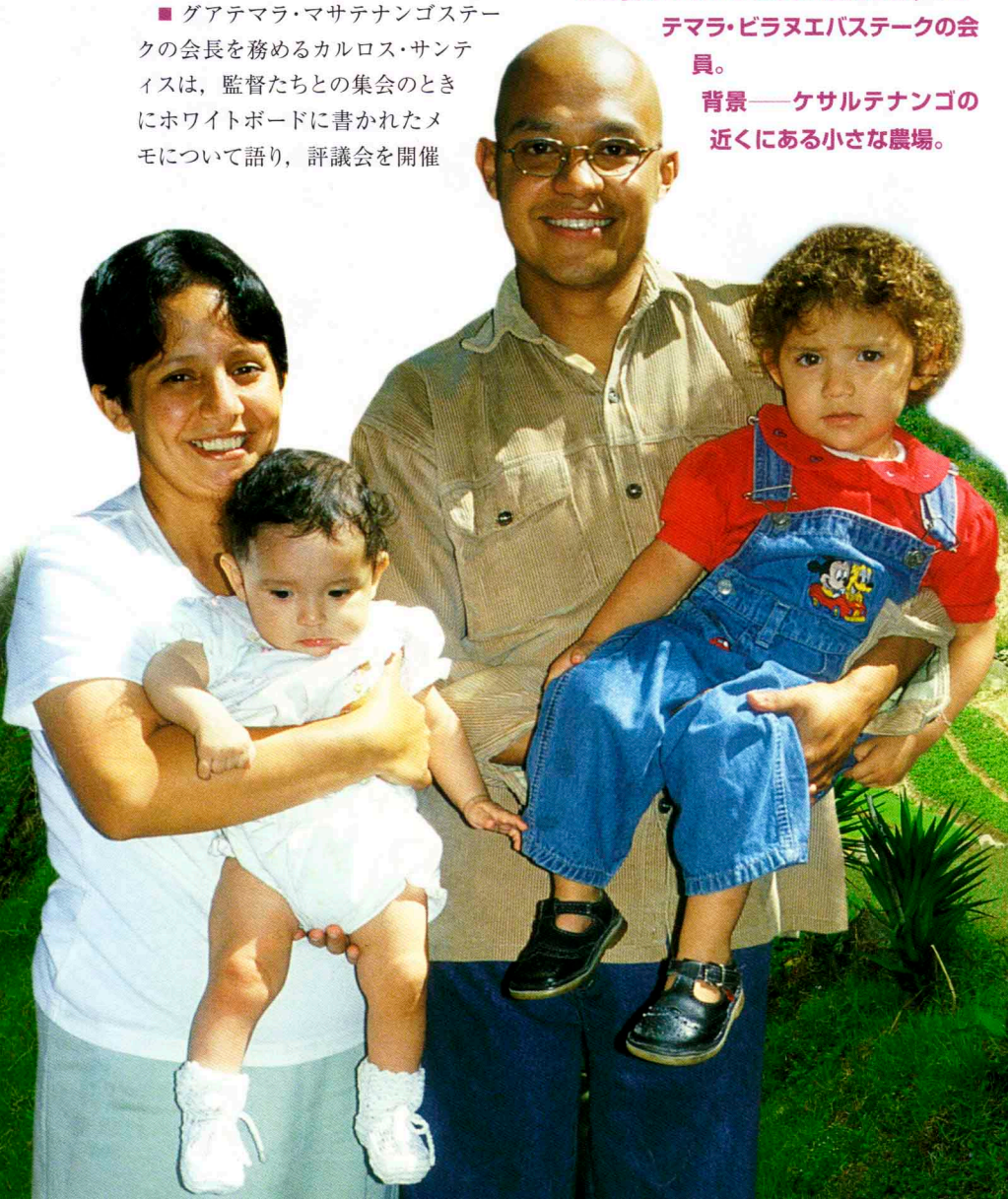
歌である「ルナ・デ・セラフ」(「セラフの月」という意味で，セラフはケサルテナンゴの町の古くからの呼称)を声高らかに歌い上げてもてなすのです。さらにまた，彼らの模範と人々に対する愛のおかげで，これまで多くの人々が教会に導かれてきています。

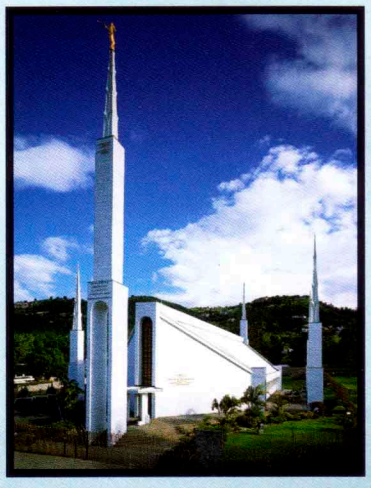
力強い，生きた信仰

グアテマラの聖徒たちの中では，信仰がいきいきとはぐくまれています。これからそのような例を，ほんの数例ですが紹介してみましょう。

■ グアテマラ・マサテナンゴステークの会長を務めるカルロス・サンティスは，監督たちとの集会のときにホワイトボードに書かれたメモについて語り，評議会を開催し，あまり活発でない会員の必要にこたえる計画を立てるために，教会の指導者たちの指導にどのように従ってきたかについて説明してくれました。「わたしは，ステーク会長として働く機会を与えられたことについて，主に感謝しています。そのような責任はほんとうに大きなチャレンジだからです。でも，わたし

悪性腫瘍を克服したヘクトル・ゴンサレスと妻のマリア。二人の娘たちは，グアテマラ・ビラヌエバステークの会員。
背景――ケサルテナンゴの近くにある小さな農場。





教会概観

国の人口：約1,150万人
教会員数：17万9,000人以上
ステーク数：40
伝道部数：4
ワードと支部数：453
教会所有の集会所数：261
神殿：グアテマラシティー。
1984年奉献
宣教師訓練センター：
グアテマラシティー

には必要なチャレンジでした。そして，その結果，成長することができたのです」と彼は語っています。

■ グアテマラ・レタルーレウステークのあるワードの副監督を務めるネリー・エドアルド・マロキンは，妻のアダの影響を受けて5年前に教会に加入したのですが，それ以前は福音伝道派のクリスチャンでした。彼は，自分の育った家庭の中から，個人の祈りや聖書やイエス・キリストを救い主として礼拝することなどの大切さを学びました。しかし，心の中では，何かそれ以上のものがあるはずだという思いが消えませんでした。彼はその答えを福音の儀式の中に見いだしました。その儀式に従うことによって，妻とともに永遠の家族を営むことができるという教えだったからです。彼はそれをこう説明しています。「キリストは，だれでも『わたしによらないでは』御父のみもとに行くことができないと言われました〔ヨハネ14：6〕。そして，様々な儀式は，キリストを通して行われるのです。グアテマラに神殿を持つことが実に大きな祝福であるという理由がそこにあります。」

■ グアテマラ・ビラヌエバステークのヘクトル・ゴンサレスは，福音のおかげで悪性腫瘍と戦う強さを与えられたと語っています。彼はその腫瘍のために，片足を失い，さらに生命をも失いかけました。ある時点で，なぜこのようなことが自分の身に起こらなければならないのか，疑問に思いました。そんなとき，妻が病院に彼の受けた祝福師の祝福を届けてくれたのです。そして，その中にある，長く生きて奉仕をするという約束に希望を見いだしたのです。いよいよ右足を失うということが確実になったとき，彼は，すべてうまくいくという霊的な証を受けました。手術が終わった後のことを，彼はこう振り返っています。「モルモン書を読むことから得られた心の支えは，信じられないほど大きなものでした。わたしはそこから前進を続ける力を得たのです。」現在，仕事に復帰した彼は，こう言っています。「わたしは，主がずっとわたしを見守っていてくださっていることを知っています。わたしは，このような経験を通して，主がわたしを御心にとめてくださったことを知っています。」

■ グアテマラ・ケサルテナンゴステークの会員であるホルヘ・ポパが，初めて姉妹宣教師たちを自分の家庭に招待したのは，彼が妻のために買ってあげたパン焼き器に付いていた英語の説明書を，妻が理解できるように助けてあげたいという気持ちからでした。姉妹たちはその申し出に応じました。ただし，家族に福音の教えを紹介してもいいと言うならという条件つきでした。宣教師のレッスンが終わったところで，ホルヘと妻のミルナは，自分たちはバプテスマには関心はないと宣教師に告げました。しかし，その夜，ホルヘもミルナも眠れませんでした。二人同時に，ベッドから出て，自分たちが教わったことについて祈るべきだと強く心を動かされたのです。そして，二人とも，それぞれ同じようにそれが真理であると確信します。二人は，日曜日に教会へ行き，姉妹宣教師を探して，バプテスマを受けたいと申し出たのです。バプテスマを受けた後，ポパ家族は，多くの改宗者が直面する問題に同じように直面しました。それは，自分の親族にそれまでの伝統的な宗教を変えたということをどう説明するかという問題です。ところが，4歳になる息子（現在は執事）が親族の集まりでその問題を簡単に解決してしまったのです。だれかがお茶を出してくれたとき，その息子が立ち上がって，こう宣言したのです。「ぼくたちはお茶を飲まないよ。だって，モルモンになったんだから。」

未来に向かって築き上げる

ウディネ・ファラベリャは，1967年にグアテマラに最初にステークが設立されたときに，会長を務めました。1965年に，彼はグアテマラシティーの地方部長として，その地域で初の神殿団体参入を組織しました。バスで，メキシコを越え，アメリカ合衆国アリゾナ州のメサまで行くという旅です。ですから，1984年にグアテマラシティーに神殿が奉献されたことは，大いなる祝福であったと彼は語っています。その後，そこの神殿長として奉仕をしたことも，彼にとって祝福でした。彼は，4年以上も神殿長を務め，2000年に解任されました。

彼は，神殿の奉献に際して，ゴードン・B・ヒンクレー大管長が国土に平和の祝福があるようにと宣言したことを思い出します。それから日ならずして，長期間にわたって続いていた国内の市民抗争が終結を迎えたのです。しかしながら，もっと大切なことは，恐らく，グアテマラの会員たちが，家からそれほど遠くまで旅をしなくとも，神殿の平安を味わうことができるようになったということかもしれません。

ファラベリャ兄弟の孫娘のエベリンは，2000年12月にその神殿で結婚しました。彼女が言うには，多くの若いグアテマラ人は，身近なところに不幸な結婚や破綻した結婚を目にしているために，結婚という制度に疑問を抱き，恐らく自分の仕事上のキャリアを磨くことに時間を割いた方がいいと感じているのだそうです。その結果，結婚はしないか，後回しにするかのどちらかになるのだそうです。彼女はこう言います。「もし自分の生活の中に福音がなかったら，この年齢で結婚する勇気はなかったと思います。」しかし，福音の教えを通じて，わたしたちは結婚が永遠である理由を知っていますし，そこからもたらされる永遠の祝福についてもよく

知っていますから，チャレンジに立ち向かうにしても平安があるのです，と彼女は続けて話してくれました。

ファラベリャ兄弟は，これこそ，自分が生きているうちに目の当たりにした，グアテマラの会員たちに起きた大きな変化を表していると言います。つまり，何千という信仰篤い末日聖徒たちが，今では，福音のプログラムを完全に実施するために，また，その祝福を享受するために，あらゆるものをささげる備えができているということなのです。

ホセ・サソは，今この国で，また自分たちの世代で受けることのできる福音の祝福は，少なくとも努力をしてそれを受け入れようとする者にとっては，実に豊かであると言っています。ホセは，グアテマラで最初のステークが設立されたときには，まだ生まれていなかったわけですが，今では，グアテマラ・グアテマラシティー・フロリダステークの会長を務めています。

サソ会長はこう言っています。「強い家族関係と結婚生活を維持していくためには，絶えず一貫した努力をすることが必要です。」彼も妻のクラウディアも，ともに祖国で伝道に携わりました。そして，二人とも，強い結婚生活を維持していく秘訣は，宣教師時代に学んだ二つの良い習慣の中にあると言います。一つは，度々愛をもって同僚として評価し合うこと（自分たちの結婚生活がどういう状態にあるかを話し合うこと），そして，二つ目は，定期的な福音の研究です。再びサソ会長の言葉です。「もしわたしに幸福になるための秘訣があるとしたら，それは，いつも一緒に聖文を研究するということでしょうね。」

サソ会長は，こう語っています。「妻とわたしが同じように考えていることがあります。それは，子どもたちのために自分たちにできることは何でもしてあげたいということです。そうすれば，子どもたちはやがて強い指導者になりますし，主が望まれるままに，ためらうことなく子どもたちをお召しになることができるようになるからです。」

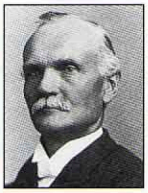
半世紀以上も前のこの国の力強い教会員たちも同じ思いでした。どんなチャレンジに直面しようとも，喜んで福音の教えを守り通してきたのです。そして，今，同じ思いが，この霊的な遺産の継承者たちに伝えられています。グアテマラにおける教会の将来は，ためらうことなく主の召しに喜んで応じようとする人々の手に託されているのです。□

左――グアテマラ・グアテマラシティー・モントセルラトステークの祝福師を務めるフェリペ・ニコラス・フアレスと妻のロサリオ。

上――ティメテオ・ボフとエバ・ボフの3世代にわたる家族は，ケサルテナンゴの教会を強めるうえで大きな助けとなっている。

右上（左から）――カール・G・メーザーの写真／トーマス・E・ダニエルズ。「アロン神権の回復」デル・パーソン画。「ミズーリに到着するシオンの陣営」作者不詳。ノーブー神殿の写真。右下――「憩う水際に」の一部。サイモン・デューイ画

御存じでしたか？



名誉にかけて

カール・G・メーザーは1828年ドイツのサクソニーで生まれ，祖国で教会に加わりました。1860年，メーザー博士は家族とともにユタ州に移りました。それからメーザー博士は，ブリガム・ヤングの家の家庭教師になりました。16年後，ヤング大管長は，メーザー博士をブリガム・ヤング・アカデミーの校長の職に任命しました。同アカデミーは後にブリガム・ヤング大学となりました。

メーザー兄弟がこの職務を果たしに出発する前に，ヤング大管長はこのような言葉を贈りました。「心に留めていただきたいのは，もしも神の御霊（みたま）がともになければ，アルファベットやかけ算の九九でさえも教えるべきではないということ，それだけです。神があなたを祝福してくださいますように。さようなら。」その後の数年は苦難に満ちていましたが，この勧告に導かれて，メーザー兄弟は努力しました（エドウィン・バターワース・ジュニア　“Eight Presidents: A Century at BYU,”*Ensign*，1975年10月号，23参照）。

カール・G・メーザーといえば，その知性や教授面での技術のみならず，謙遜（けんそん）で高潔な人物としても知られていました。メーザー兄弟はこう言いました。「わたしを牢獄の壁の内側へ閉じ込めてみてください。最も厚い壁で覆われ，地中最も奥深い場所にある牢獄へ。それでもわたしには，何らかの方法でそこから抜け出す可能性があります。しかし，わたしを床の上に立たせて，その周りにチョークで円を描き，わたしの名誉にかけてその円から外へ出ないと約束させてみてください。その円から外へわたしが出ると思いますか。いいえ。決して出ません。そうするくらいなら，むしろその前に死んだ方がましです。」（アーネスト・L・ウィルキンソン，*The President Speaks*，Brigham Young University Speeches of the Year〔1960年10月5日〕，15で引用）

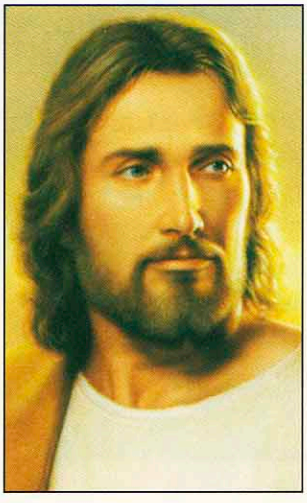
それは5月の出来事でした

以下は，教会歴史において5月に起こった重要な出来事のごく一部です。

1829年5月15日。ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリは，サスケハナ川のほとりでバプテスマのヨハネからアロン神権を授かりました。

1834年5月8日。シオンの陣営が，ミズーリの聖徒たちを支援するため，オハイオからミズーリに向けて出発しました。

1846年5月1日。ノーブー神殿が，十二使徒定員会のオーソン・ハイド長老によって，公式に奉献されました。



指導者へのヒント

イエス・キリストは，一つになることの必要性を強調されました（ヨハネ17：6－11，20－23；3ニーファイ11：28－30参照）。末日の啓示の中で，主は言われました。「もしもあなたがたが一つでなければ，あなたがたはわたしのものではない。」（教義と聖約38：27）指導者である皆さんは，以下の事柄を行うことによって，互いに，そして定員会やクラスの全員と一つになることができます。

- 定員会やクラスの全員についてよく知るように努め，彼らのために祈る。
- 活動を計画する際，定員会やクラスの人たちにも加わってもらう。活動の中で自分が不可欠な存在だと分かれば，自分が評価されていると感じ，活動に出席しやすくなるでしょう。
- 明確な目標を心に描きながら活動を計画する。こう自問してみるとよいでしょう。定員会やクラスの中で，何かに苦しんでいる人はいないだろうか。その人がわたしたちのグループの一員であると感じるために，次の活動ではどのような助けを行えるだろうか。□

『リアホナ』2002年5月号の活用法

レッスンのためのアイデア

■「真理の柱」2ページ――ゴードン・B・ヒンクレー大管長は，7つの，永遠不変の真理について語っています。これらの真理の柱は，絶えず移り変わるこの世で，あなたをどのように助け，支えると思いますか。

■「仕えることを学ぶ」10ページ――L・トム・ペリー長老は，奉仕をする前にまず学ぶ必要があると教えています。わたしたちが学ぶべき最も大切な知識は何でしょうか。この知識を身に付けることは，わたしたちが効果的に奉仕するうえでどのような助けになるでしょうか。

■「試練のときに」28ページ――ジョン・B・ディクソン長老は，19歳のときに右腕を失ったことは悲劇ではなく，人生の中の大きな祝福となったという驚くべき言葉を述べています。あるものをあきらめなければならなかったけれども，後にその犠牲によって自分が強められ，もっと力が与えられたことに気づいた経験はありますか。そのような経験について話し合ってください。

■「ボートから降りない」F2ページ――ラッセル・M・ネルソン長老の娘が，湖の真ん中でボートから降りたがったときのことを話してください。「岸にたどり着くまでボートから降りない」とはどういうことでしょうか。

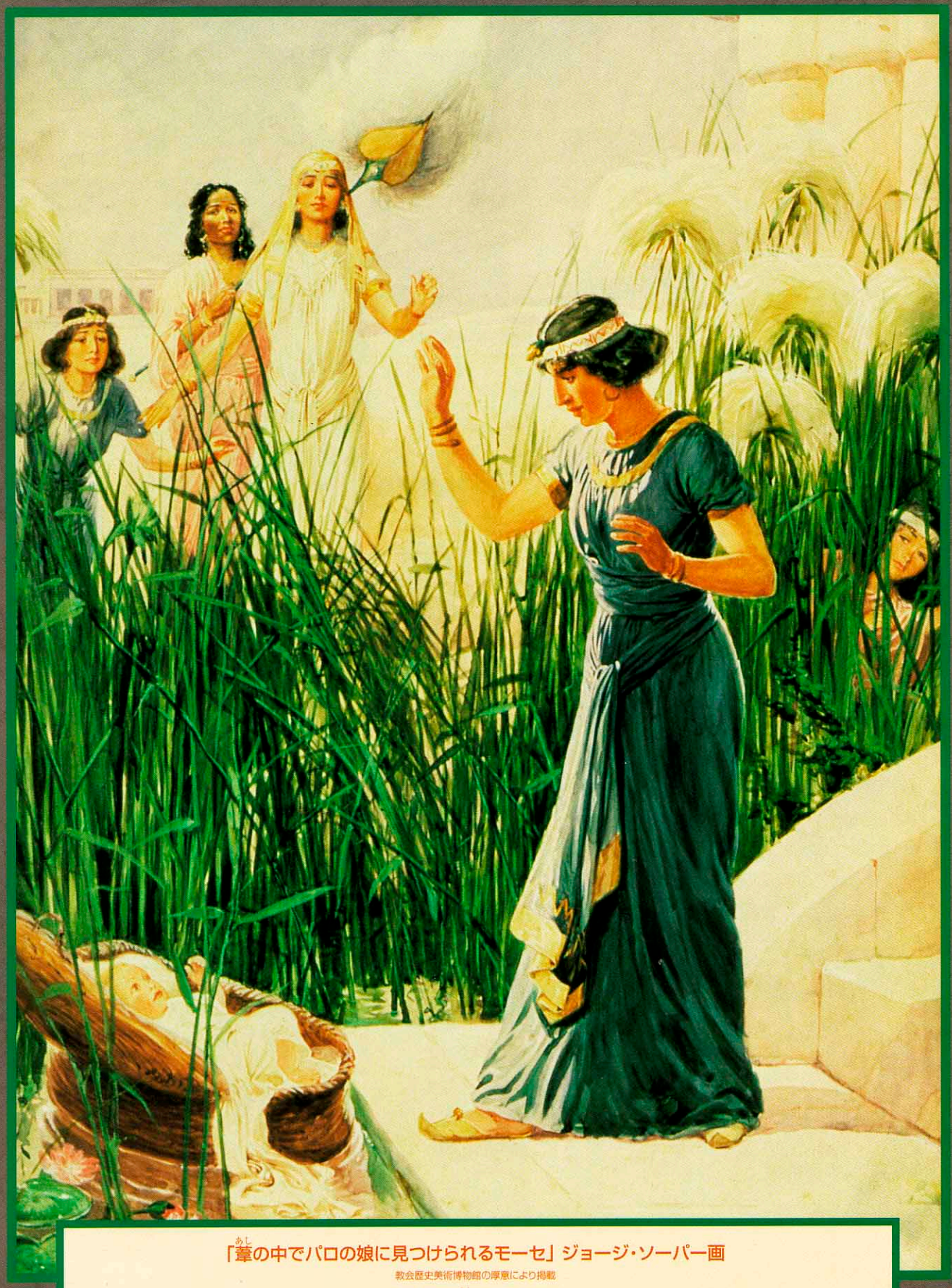
フォトイラストレーション／ジョン・ルーク

今月号に採り上げられているテーマ

証（あかし） ……9, 32
イエス・キリスト …10, F2, F9, F12
教えること ……25, 48
改宗・改心 ……20, 26, 32
家族関係 ……2, 38, F14
家庭の夕べ ……48, F6
家庭訪問 ……25
逆境 ……28
旧約聖書 ……F16
教会歴史 ……47
自制 ……F6
指導性 ……47, 48
従順 ……2, 9
祝福 ……9
初等協会 ……F4
神殿と神殿活動 ……F4
新約聖書ものがたり ……F9, F12
真理 ……2
聖文研究 ……F16
世界に広がる教会 ……20, 40
態度 ……28
断食 ……20
知恵の言葉 ……F4
知識 ……10
伝道活動 ……26, 32, 40
徳 ……25, F4
忍耐 ……28, F2, F14
標準 ……20
奉仕 ……10, F9
ホームティーチング ……8
模範 ……20, 25, 32
友情 ……38
赦（ゆる）し ……F14

イエスのように

『リアホナ』では，救い主のようになろうと努力している子どもたちの経験談を募集しています。大人に手を借りながら書いたものでもかまいません。必ず写真を1枚またはそれ以上同封し，氏名，年齢，住所，電話番号，ワード／支部，ステーク／地方部を必ず明記して，Trying to Be Like Jesus, *Liahona*, Floor 24, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT84150-3223, USAへ，またはEメールで CUR-Liahona-IMag@ldschurch.org までお送りください。

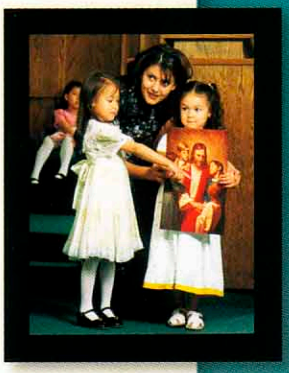


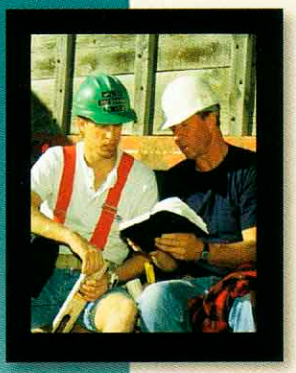
「葦の中でパロの娘に見つけられるモーセ」ジョージ・ソーパー画

教会歴史美術博物館の厚意により掲載

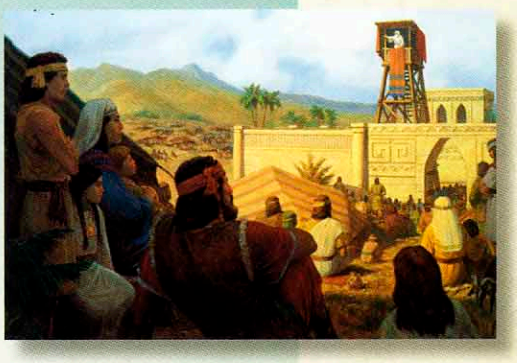
「ときにパロの娘が身を洗おうと，川に降りてきた。……彼女は，葦の中にかごのあるのを見て，つかえめをやり，それを取ってこさせ，あけて見ると子供がいた。見よ，幼な子は泣いていた。彼女はかわいそうに思っ……た。」（出エジプト2：5－6）

リアホナ 2002年5月20日発行（毎月1回20日発行）第4巻第5号 昭和42年12月18日第3種郵便物認可 ISSN 1344-8595





わたしたちが永遠の命を
得られるようにしてくださった神に
どのように仕えたらよいのでしょうか。……
ベニヤミン王は民に勧告を与えたときに，
こう答えています。
「あなたがたが同胞（はらから）のために務めるのは，
とりもなおさず，
あなたがたの神のために
務めるのである……。」
L・トム・ペリー長老「仕えることを学ぶ」
10ページ参照。



2 902229 853000 22985 300